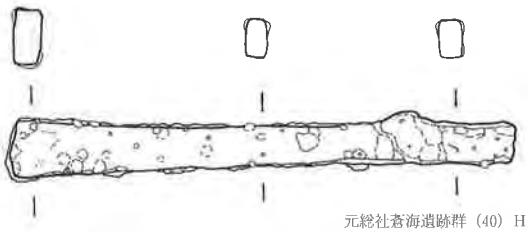
元総社蒼海遺跡群（40）
元総社蒼海遺跡群（46）
元総社蒼海遺跡群（49）
元総社蒼海遺跡群（50）

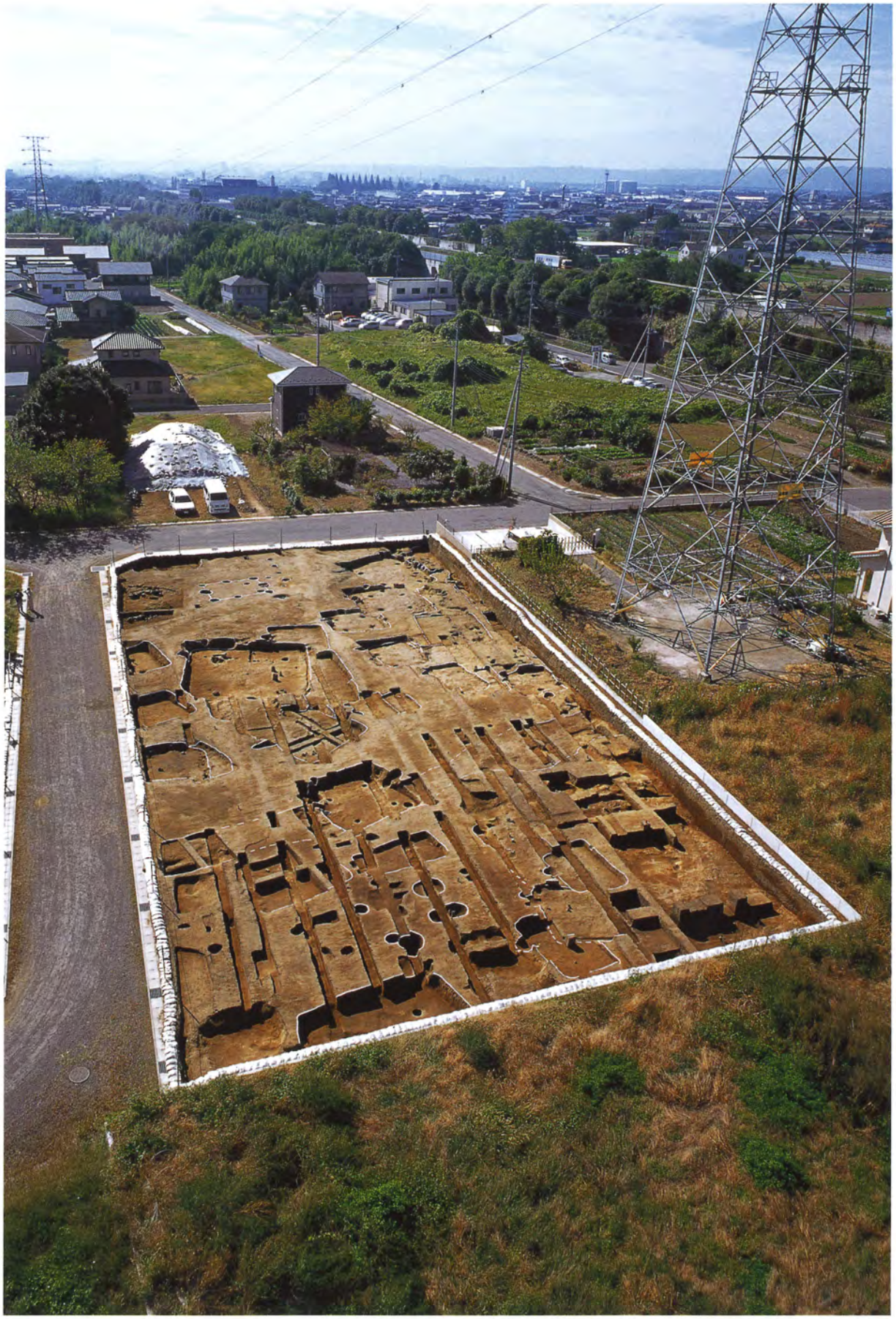
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群（40）H－13号住居
跡出土の棒状鉄製品

2013．3

前橋市教育委員会



1　元総社蒼海遺跡群(40)調査区全景（北から）

口絵２

２　元総社蒼海遺跡群(40)調査区全景（南東から）

３　元総社蒼海遺跡群(40)調査区全景（真上から）

４　元総社蒼海遺跡群(40) Ｊ－３全景（東から）

５　元総社蒼海遺跡群(40) Ｊ－３全景（北から）

口絵４

6　元総社蒼海遺跡群(40) Ｊ－２全景（北から）

7　元総社蒼海遺跡群(40) Ｈ－29全景（南から）

8　元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－13全景（西から）

9　元総社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構全景（南から）

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代における前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（40）・（46）・（49）・（50）は、上野国府推定区域や上野国分僧寺･国分尼寺などの施設を擁する古代上野国の中枢地域であり、多くの注目が集まっております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでしたが、縄文時代の竪穴住居跡をはじめ、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を調査しました。今回の調査成果をはじめとしてこれまでの調査成果の蓄積は、国府や国府のまちの姿を再現するための資料と考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、記録的な猛暑そして寒風の中、発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成25年３月

前橋市教育委員会
教育長　佐　藤　博　之

例　　言

1　本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（40）・（46）・（49）・（50）の発掘調査報告書である。

2　調査主体は、前橋市教育委員会管理部文化財保護課である。

3　発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1509番地　ほか
発掘調査期間	平成24年５月９日～平成24年12月27日
整理・報告書作成期間	平成24年12月22日～平成25年３月19日
発掘・整理担当者	藤坂和延・細野泰宏

4　本書の原稿執筆・編集は藤坂・細野が行った。

5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

阿部シゲ子・大木伸二・神山早苗・佐藤簡詳・関根その子・高野　繁・角田節子・武井洋子・渡木秋子・中澤光江・仲野正人・中林美智子・平林しのぶ・真庭武志・矢島　忠

6　発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は、座標北である。

2　挿図に国土交通省国土地理院発行の１：200,000地形図(宇都宮、長野)、１：25,000地形図(前橋)、１：2,500前橋市現形図を使用した。

3　遺跡の略称は、24Ａ130-40・24Ａ130-46・24Ａ130-49・24Ａ130-50である。

4　遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｊ…縄文時代の竪穴住居跡　JD…縄文時代の土坑　U…縄文時代の埋甕　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　T…竪穴状遺構　W…溝跡　A…道路状遺構　D…土坑　P…ピット・貯蔵穴（住居内P_5を貯蔵穴とした。）　X…性格不明遺構　O…風倒木跡

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　全体図…１/200・住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…１/60　竈・炉平・断面図…１/30

遺物　土器・鉄製品…１/３、１/４　石器・石製品・土製品…１/１、１/３

　　鉄器・鉄製品…１/２　瓦…１/６

6　計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

7　セクション注記と遺物観察表の色調については、新版標準土色帳（小山・竹原 1967）を基準とした。

8　遺構平面図の----------は推定線を表す。

9　スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　焼　土…　粘土…

遺構断面図　構築面…

遺物実測図　須恵器断面…　灰釉陶器断面…　灰釉陶器表面…

緑釉陶器断面…　内黒…　粘土、たたき…

いぶし焼成…　煤、炭化物付着…　石；煤、被熱痕…

10　主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半）

目　　次

口絵写真
はじめに
例言・凡例
目次・図版目次・挿図目次・表目次
Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
　1　遺跡の立地 …… 1
　2　歴史的環境 …… 1
Ⅲ　調査方針と経過 …… 7
　1　調査方針 …… 7
　2　調査経過及び概要 …… 7
Ⅳ　元総社蒼海遺跡群（40）
　1　調査区の概要 …… 13
　2　基本層序 …… 13
　3　縄文時代の遺構と遺物 …… 13
　　(1)　竪穴住居跡 …… 13
　　(2)　土坑 …… 14
　　(3)　埋甕 …… 14
　4　古墳時代～平安時代の遺構と遺物 …… 15
　　(1)　竪穴住居跡 …… 15
　　(2)　溝跡 …… 21
　　(3)　土坑・掘立柱建物・道路状遺構・竪穴状遺構・井戸跡 …… 21
Ⅴ　元総社蒼海遺跡群（46）
　1　調査区の概要 …… 69
　2　基本層序 …… 69
　3　遺構と遺物 …… 69
　　(1)　竪穴住居跡 …… 69
　　(2)　井戸跡 …… 69
Ⅵ　元総社蒼海遺跡群（49）
　1　調査区の概要 …… 77
　2　基本層序 …… 77
　3　遺構と遺物 …… 77
　　(1)　竪穴住居跡 …… 77
　　(2)　溝跡 …… 78
　　(3)　土坑・井戸跡 …… 78
Ⅶ　元総社蒼海遺跡群（50）
　1　調査区の概要 …… 89
　2　基本土層 …… 89
　3　縄文時代の遺構と遺物 …… 89
　　(1)　竪穴住居跡 …… 89
　4　古墳時代～奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 90
　　(1)　竪穴住居跡 …… 90
　　(2)　土坑・ピット・竪穴状遺構 …… 92
Ⅷ　ま　と　め …… 106
　鍛冶遺構について …… 106
写真図版
抄　　録
奥　　付

図　　版

口絵１　元総社蒼海遺跡群（40）調査区全景（北から）
２　元総社蒼海遺跡群（40）調査区全景（南東から）
３　元総社蒼海遺跡群（40）調査区全景（真上から）
４　元総社蒼海遺跡群（40）Ｊ－３全景（東から）
５　元総社蒼海遺跡群（40）Ｊ－３全景（北から）
６　元総社蒼海遺跡群（40）Ｊ－２全景（北から）
７　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－29全景（南から）
８　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－13全景（西から）
９　元総社蒼海遺跡群（40）鍛冶遺構全景（南から）

PL.１　元総社蒼海遺跡群（40）調査区全景
PL.２　元総社蒼海遺跡群（40）調査区全景
PL.３　元総社蒼海遺跡群（40）調査区全景
元総社蒼海遺跡群（40）調査区全景
PL.４　元総社蒼海遺跡群（40）Ｊ－１
PL.５　元総社蒼海遺跡群（40）Ｊ－２、Ｊ－３
PL.６　元総社蒼海遺跡群(40)Ｊ－３、Ｊ－３ａ、Ｊ－３ｂ、JD－１、JD－２
PL.７　元総社蒼海遺跡群（40）Ｕ－１・２、石匙出土状態、Ｈ－１、調査区南西部
PL.８　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－１、Ｈ－４
PL.９　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－４、Ｈ－６
PL.10　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－７
PL.11　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－８、Ｈ－９
PL.12　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－10、Ｈ－11
PL.13　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－13
PL.14　元総社蒼海遺跡群（40）鍛冶遺構
PL.15　元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－14、Ｈ－16、Ｈ－17、Ｈ－18、Ｈ－19
PL.16　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－20、Ｈ－22・23、Ｈ－24、Ｈ－25・36
PL.17　元総社蒼海遺跡群（40）Ｈ－12・26、Ｈ－27
PL.18　元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－29、Ｈ－31、Ｈ－33、Ｈ－34、Ｈ－37
PL.19　元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－38、Ｄ－１、Ｄ－２、Ｂ－１
元総社蒼海遺跡群（46）Ｈ－１、Ｉ－１
PL.20　元総社蒼海遺跡群（49）調査区全景、Ｈ－１
PL.21　元総社蒼海遺跡群（49）Ｄ－２、Ｈ－２・３
PL.22　元総社蒼海遺跡群（49）Ｉ－１、Ｉ－２、Ｈ－５
PL.23　元総社蒼海遺跡群（49）Ｈ－４、Ｈ－６
元総社蒼海遺跡群（50）調査区全景、Ｊ－１
PL.24　元総社蒼海遺跡群（50）Ｈ－５・６、Ｈ－12、Ｄ－１・２、Ｄ－３
PL.25　元総社蒼海遺跡群（50）Ｈ－７、Ｈ－９
PL.26　元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－９、Ｈ－10、Ｈ－11、Ｄ－５
PL.27　元総社蒼海遺跡群（50）Ｈ－13、Ｈ－17
PL.28　元総社蒼海遺跡群（50）Ｈ－14・15、Ｔ－１
PL.29　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（1）
PL.30　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（2）
PL.31　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（3）
PL.32　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・石器（1）
PL.33　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・石器（2）
PL.34　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（1）
PL.35　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（2）
PL.36　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（3）
PL.37　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（4）
PL.38　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（5）
元総社蒼海遺跡群（46）出土遺物
元総社蒼海遺跡群（49）出土遺物
PL.39　元総社蒼海遺跡群（50）出土遺物
PL.40　元総社蒼海遺跡群（40）出土石製品
元総社蒼海遺跡群（40）出土鉄製品
元総社蒼海遺跡群（50）出土鉄製品
PL.41　元総社蒼海遺跡群（40）出土瓦（1）
元総社蒼海遺跡群（49）出土瓦（1）
PL.42　元総社蒼海遺跡群（40）出土瓦（2）
元総社蒼海遺跡群（49）出土瓦（2）
PL.43　元総社蒼海遺跡群（46）出土瓦（1）
PL.44　元総社蒼海遺跡群（46）出土瓦（2）

挿　　図

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図 …… 2
Fig. 2　周辺遺跡図 …… 4
Fig. 3　元総社蒼海遺跡群（40）（46）（49）（50）調査区位置図とグリッド設定図 …… 8・9
Fig. 4　元総社蒼海遺跡群（40）基本層序 …… 13
Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（40）調査区全体図 …… 23
Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（40）J－1号住居跡 …… 24
Fig. 7　元総社蒼海遺跡群（40）J－2号住居跡 …… 25
Fig. 8　元総社蒼海遺跡群（40）J－3号住居跡（1） …… 26
Fig. 9　元総社蒼海遺跡群（40）J－3号住居跡（2） …… 27
Fig.10　元総社蒼海遺跡群（40）JD－1号土坑、1・2号埋甕、H－1・2号住居跡 …… 28
Fig.11　元総社蒼海遺跡群（40）H－3号住居跡 …… 29
Fig.12　元総社蒼海遺跡群（40）H－4・5号住居跡、W－2・3号住居跡 …… 30
Fig.13　元総社蒼海遺跡群（40）H－4・6号住居跡 …… 31
Fig.14　元総社蒼海遺跡群（40）H－6・7号住居跡 …… 32
Fig.15　元総社蒼海遺跡群（40）H－7・8号住居跡 …… 33
Fig.16　元総社蒼海遺跡群（40）H－9・10号住居跡 …… 34
Fig.17　元総社蒼海遺跡群（40）H－11・14号住居跡 …… 35
Fig.18　元総社蒼海遺跡群（40）H－12・26号住居跡（1） …… 36
Fig.19　元総社蒼海遺跡群（40）H－12・26号住居跡（2） …… 37
Fig.20　元総社蒼海遺跡群（40）H－13号住居跡 …… 38
Fig.21　元総社蒼海遺跡群（40）H－13号住居跡、鍛冶遺構 …… 39
Fig.22　元総社蒼海遺跡群（40）H－15・16・28号住居跡 …… 40
Fig.23　元総社蒼海遺跡群（40）H－17・18・19号住居跡 …… 41
Fig.24　元総社蒼海遺跡群（40）H－20・21・22・23号住居跡 …… 42
Fig.25　元総社蒼海遺跡群（40）H－24号住居跡 …… 43
Fig.26　元総社蒼海遺跡群（40）H－25・27・36号住居跡 …… 44
Fig.27　元総社蒼海遺跡群（40）H－29号住居跡 …… 45
Fig.28　元総社蒼海遺跡群（40）H－31・32・33号住居跡 …… 46
Fig.29　元総社蒼海遺跡群（40）H－34・35・38号住居跡 …… 47
Fig.30　元総社蒼海遺跡群（40）H－37号住居跡、D－1・2号土坑 …… 48
Fig.31　元総社蒼海遺跡群（40）B－1号掘立柱建物跡 …… 49
Fig.32　元総社蒼海遺跡群（40）I－1号井戸跡 …… 50
Fig.33　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（1） …… 51
Fig.34　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（2） …… 52
Fig.35　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（3） …… 53
Fig.36　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（4） …… 54
Fig.37　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（5） …… 55
Fig.38　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（6） …… 56
Fig.39　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・石器（1） …… 57
Fig.40　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・石器（2） …… 58
Fig.41　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（1） …… 59
Fig.42　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（2） …… 60
Fig.43　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（3） …… 61
Fig.44　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（4） …… 62
Fig.45　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（5） …… 63
Fig.46　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（6） …… 64
Fig.47　元総社蒼海遺跡群（40）出土瓦 …… 65
Fig.48　元総社蒼海遺跡群（40）出土鉄製品 …… 66
Fig.49　元総社蒼海遺跡群（40）出土石製品 …… 66
Fig.50　元総社蒼海遺跡群（46）基本層序 …… 69
Fig.51　元総社蒼海遺跡群（46）調査区全体図 …… 70
Fig.52　元総社蒼海遺跡群（46）出土遺物 …… 70
Fig.53　元総社蒼海遺跡群（46）H－1号住居跡、I－1号井戸跡 …… 71
Fig.54　元総社蒼海遺跡群（46）出土瓦（1） …… 72
Fig.55　元総社蒼海遺跡群（46）出土瓦（2） …… 73
Fig.56　元総社蒼海遺跡群（49）基本層序 …… 77

Fig.57　元総社蒼海遺跡群（49）調査区全体図 …… 80
Fig.58　元総社蒼海遺跡群（49）H－1号住居跡 …… 81
Fig.59　元総社蒼海遺跡群（49）H－2～4号住居跡、T－1号竪穴状遺構 …… 82
Fig.60　元総社蒼海遺跡群（49）H－2・4号住居跡竈 …… 83
Fig.61　元総社蒼海遺跡群（49）H－5・6号住居跡 …… 84
Fig.62　元総社蒼海遺跡群（49）出土遺物 …… 85
Fig.63　元総社蒼海遺跡群（50）基本層序 …… 89
Fig.64　元総社蒼海遺跡群（50）調査区全体図 …… 94
Fig.65　元総社蒼海遺跡群（50）J－1号住居跡、H－1・12号住居跡 …… 95
Fig.66　元総社蒼海遺跡群（50）H－2～4号住居跡 …… 96
Fig.67　元総社蒼海遺跡群（50）H－5・6号住居跡 …… 97
Fig.68　元総社蒼海遺跡群（50）H－7・9～11号住居跡 …… 98
Fig.69　元総社蒼海遺跡群（50）H－8～11号住居跡 …… 99
Fig.70　元総社蒼海遺跡群（50）H－13～15号住居跡 …… 100
Fig.71　元総社蒼海遺跡群（50）H－16～18号住居跡、T－1号竪穴状遺構 …… 101
Fig.72　元総社蒼海遺跡群（50）D－1～3・5号土坑 …… 102
Fig.73　元総社蒼海遺跡群（50）出土遺物（1）…… 103
Fig.74　元総社蒼海遺跡群（50）出土遺物（2）…… 104
Fig.75　元総社蒼海遺跡群（50）出土瓦 …… 105
Fig.76　群馬県内鍛冶遺構集成（1）…… 110
Fig.77　群馬県内鍛冶遺構集成（2）…… 111
Fig.78　群馬県内鍛冶遺構集成（3）…… 112
Fig.79　群馬県内鍛冶遺構集成（4）…… 113

表

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表 …… 5・6
Tab. 2　鍛冶遺構分類基準 …… 107
Tab. 3　群馬県内鍛冶遺構集成 …… 108・109

I　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、13年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成23年４月22日付けで、前橋市長　高　木　政　夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、５月10日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称は区画整理事業名を採用し、過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するための数字を付し、それぞれ「元総社蒼海遺跡群（40）」（遺跡コード：24Ａ130-40）・「元総社蒼海遺跡群（46）」（遺跡コード：24Ａ130-46）・「元総社蒼海遺跡群（49）」（遺跡コード：24Ａ130-49）・「元総社蒼海遺跡群（50）」（遺跡コード：24Ａ130-50）とした。

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３㎞の地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約１㎞の所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検

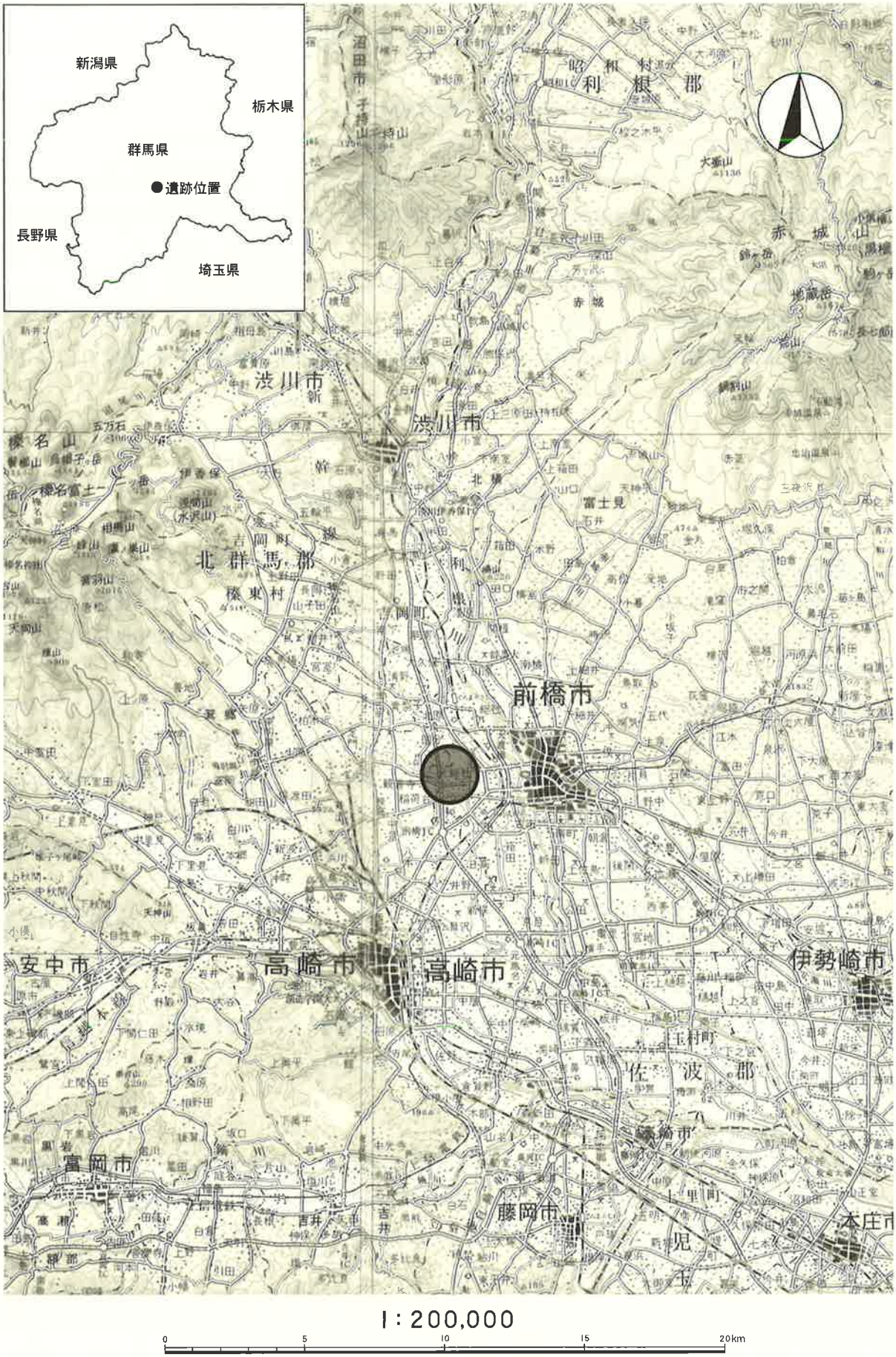


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。さらに平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度は北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物郡」が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡などがある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群(7)(9)(10)と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、巡方(腰帯具)、緑?陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町(現高崎市)の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN—64°—E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

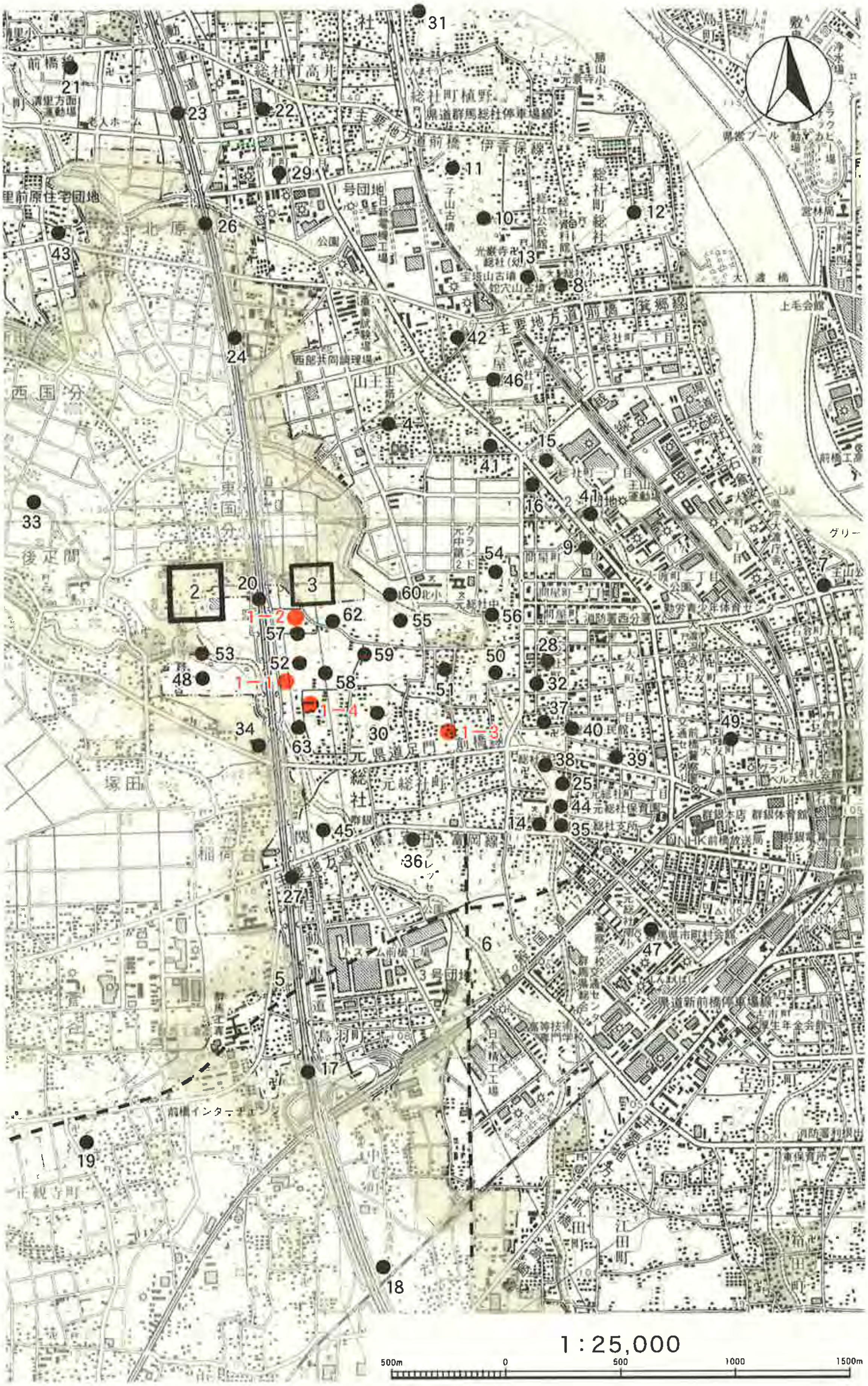


Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1－1	元総社蒼海遺跡群（40）	2012	本遺跡
1－2	元総社蒼海遺跡群（46）	2012	本遺跡
1－3	元総社蒼海遺跡群（49）	2012	本遺跡
1－4	元総社蒼海遺跡群（50）	2012	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
25	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～７ｍ、下幅3.24ｍ、深さ２ｍ）
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983，88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
31	桜ケ丘遺跡		弥生：住居跡
	総社桜ケ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985，87	奈良・平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986，88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986，95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
43	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ(事業団)	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989，95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群（9）・(10)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘建柱建物跡・溝跡
51	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・埦類
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見Ⅳ・Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ・Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
57	元総社蒼海遺跡群（4）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見内Ⅸ・Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金片、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群（2）（6）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、井戸跡、中世：溝跡
	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群（1）（5）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓
63	元総社蒼海遺跡群（8）	2006	奈良・平安：住居跡、緑釉陶器

※　調査年度の欄の（　）は調査開始年度を表す。※遺跡名の欄の（事業団）は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託された調査箇所は、蒼海遺跡群（40）・蒼海遺跡群（41）を除き、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路建設予定地が主たる調査地であるため、幅６ｍほどの極めて狭長なトレンチ状の調査区が中心となっている。本報告書で報告する遺跡の総調査面積は1,760㎡である。

遺構番号は、遺跡ごとに付番することとし、（40）Ｈ－１号住居跡、（46）Ｈ－１号住居跡のように遺構の前に必ず遺跡名に付した数字を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）Ｘ＝＋44000・Ｙ＝－72200を基点（Ｘ０・Ｙ０）とする４ｍピッチのものを使用し、蒼海遺跡群(40)においては、西から東へX36、37、38…、北から南へY138、139、140…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

ちなみに、この蒼海遺跡群（40）のX37・Y139の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	Ｘ＝＋43,444.000	Ｙ＝－72,052.000	
緯　　度	36°23′20″	経　　度	139°01′48″
子午線収差角	＋０°28′35″	増　大　率	0.99996384

なお、平成11年３月11日の東日本大震災に伴い、地形が歪んだため誤差が生じた。昨年度は座標補正プログラムが発表になったのが、すべての調査区への方眼杭の設置が終了したあとであったため、誤差が生じたままの調査となり、Ｘ座標が0.0618～0.619m、Ｙ座標が-0.4638～-0.4650mの誤差が生じている

本年度は、改めてGPSにより座標を取り込み、グリッドを設定した。

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真ので行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過及び概要

現地調査は平成24年５月９日から12月27日まで行った。

本年度実施した調査地は７ヵ所で、それぞれ「元総社蒼海遺跡群（40）」（遺跡コード：24Ａ130-40）・「元総社蒼海遺跡群（41）」（遺跡コード：24Ａ130-41）・「元総社蒼海遺跡群（42）」（遺跡コード：24Ａ130-42）・「元総社蒼海遺跡群（43）」（遺跡コード：24Ａ130-43）・「元総社蒼海遺跡群（46）」（遺跡コード：24Ａ130-46）・「元総社蒼海遺跡群（49）」（遺跡コード：24Ａ130-49）・「元総社蒼海遺跡群（50）」（遺跡コード：24Ａ130-50）とした（以後「元総社蒼海遺跡群」を省略して付された数字のみで表記する）。

調査班は２班で構成し、１班は（40）・（46）・（49）・（50）の４遺跡を調査。２班は（41）・（42）・（43）の３遺跡を調査した。

なお、(49)については、(43)の隣接地であり、工事の兼ね合いから調査が２時期に分かれたところから、(43)の続きとして調査を実施した。そのため、遺構番号も（43）からの連番で付したが、報告書作成にあたり、執筆の混乱を避ける意味合いから、改めて（49）と遺跡名を振りなおした（遺物への注記は（43）からの連番で実施した）。

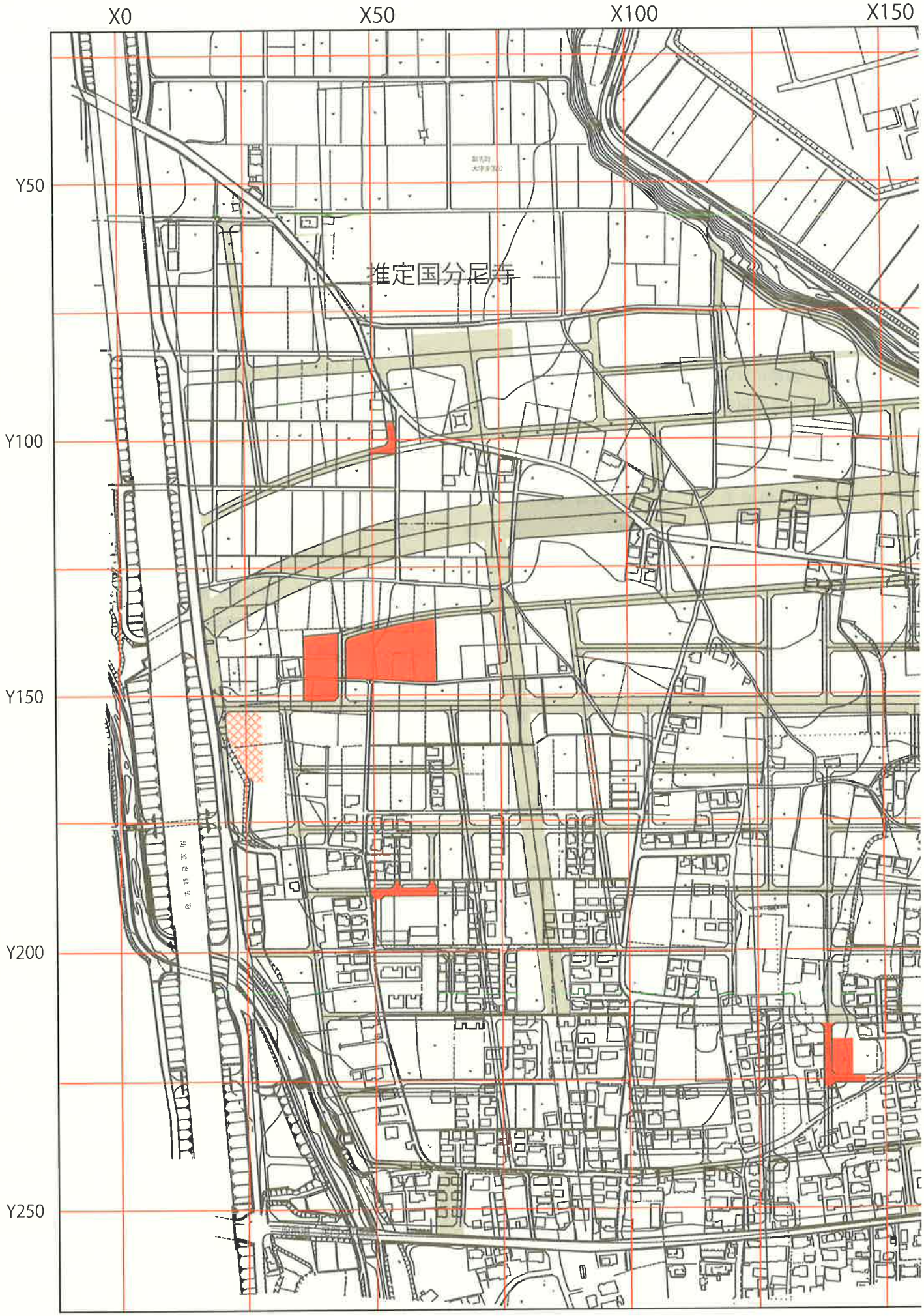
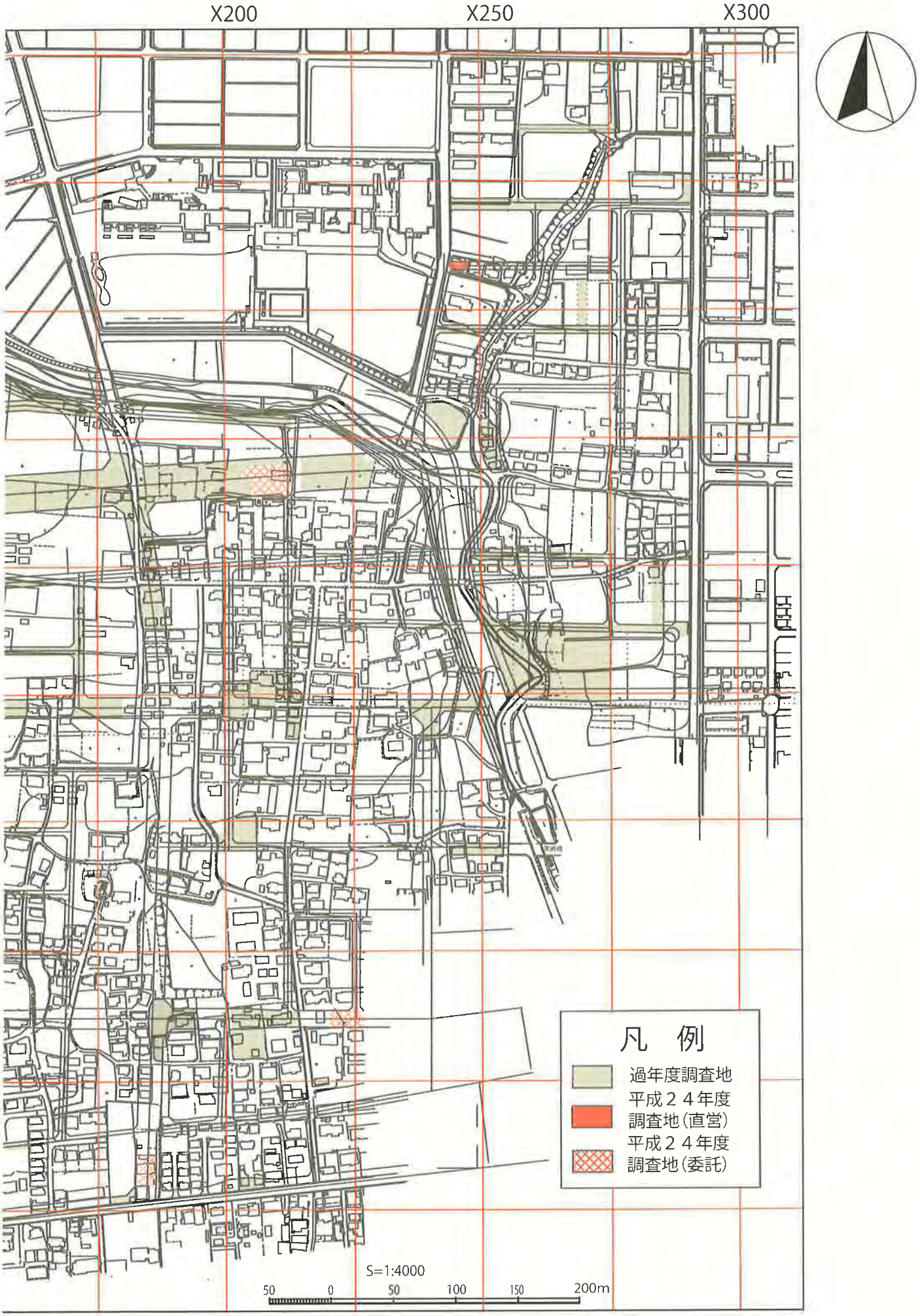


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群（40）（46）（49）（50）



調査区位置図とグリッド設定図

以下その対照表を記す。

(43)　H－5　H－6　H－7　H－8　H－9　H－10　W－2

(49)　H－1　H－2　H－3　H－4　H－5　H－6　W－1

上記以外の遺構については、遺跡名称が（43）ではあるが、遺構名はそのままである。

蒼海遺跡群（40）は蒼海遺跡群の西方部あたり、縄文時代の竪穴住居跡をはじめ古墳時代から平安時代の竪穴住居跡が多数検出された。蒼海遺跡群（41）とは道路を挟んで西部に位置する。

蒼海遺跡群（46）は推定上野国分尼寺の南部にあたる地域であるが、遺構の密度は低く、竪穴住居跡１軒と、時期不明の井戸跡１基のみであった。尼寺に近いためか、住居の竈の構築には瓦が利用されていた。

蒼海遺跡群（49）は蒼海遺跡群の南方部で、奈良・平安時代の竪穴住居跡が６軒、土坑３基、溝１条、井戸跡２基が検出された。蒼海遺跡群（43）に隣接して北西に位置する。

蒼海遺跡群（50）は蒼海遺跡群の西方部にあたり、調査面積に比して縄文時代の竪穴住居跡１軒、古墳～平安時代の竪穴住居跡18軒、時期不明土坑４基と比較的多い。

それぞれの、遺跡において、遺構精査後、記録図面の作成・記録写真の撮影を実施し、埋め戻し等を行い調査を終了した。

12月21日に現場事務所の撤収・機材等の撤収作業の一部を実施し、蒼海遺跡群（40）の縄文時代の遺構の図面記録を終了させ、文化財保護課庁舎に戻った。出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成にあたり、本報告書の発行をもってすべての作業を終了した。

Ⅳ　元総社蒼海遺跡群（40）

1　調査区の概要

本報告書において報告する４つの調査区のうち最大の調査区で、調査面積は3,980㎡を図る。蒼海遺跡群の南西部に位置し、関越自動車から直線距離にして約100m東に位置する。蒼海遺跡群（41）とは南北道路を挟んで東西に並ぶ。染谷川の東方約200m、標高は121m前後である。周辺では過去に＊回調査が実施されており、縄文時代の竪穴住居跡、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡など数多く検出されている。今回検出された遺構は、縄文時代の前期・中期の竪穴住居跡４軒、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が39軒が検出された。

特筆される遺構としては、鍛冶遺構を住居内に敷設する竪穴住居跡の検出、出土遺物としては、H―20号住居跡から出土した丸鞆などが挙げられよう。

2　基本層序

Ⅰ層　黒褐色土　現耕作土。砂質土。

Ⅱ層　黒褐色土　粒度の大きい砂質土。As-C、Hr-FP を混入。

Ⅲ層　黒褐色土　Ⅱ層より漸移的に変化する。砂の粒度は細かくなる。混入する As-C、Hr-FP は少なくなり、総社砂層起因の砂質土のブロックが混入し始める。

Ⅳ層　暗褐色土　Ⅲ層より漸移的に変化する。砂の粒度はさらに細かくなる。混入する As-C、Hr-FP もさらに少なくなる。

Ⅳａ層　黒褐色土　Ⅳ層に似るが、色調は暗くなる。

Ⅳｂ層　黒褐色土　Ⅳａ層とⅤ層の中間的な層序で、Ⅴ層へは漸移的に変化する。

Ⅴ層　暗褐色土　総社砂層を起因とする。砂質土層。

Ⅴａ層　暗褐色土　総社砂層を起因とする。砂質土層。

Ⅴｂ層　黒褐色土　総社砂層を起因とする。シルト質土。

Ⅵ層　黒褐色土　水成堆積のローム質土。総社砂層。Ⅶ層よりも軟らかい。

Ⅶ層　暗褐色土　水成堆積のローム質土。総社砂層。堅緻でよく締まる。

※住居跡はⅦ層を掘り込んで構築される。

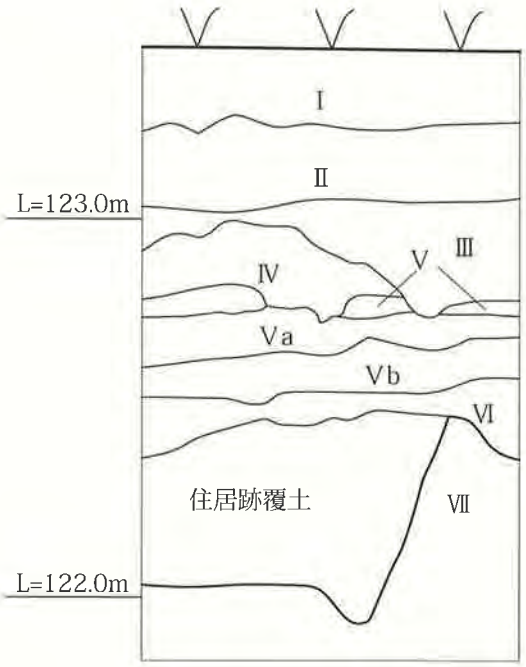


Fig. 4　元総社蒼海遺跡群（40）基本層序

3　縄文時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

Ｊ―１号住居跡（Fig. 6 、PL. 4 ）

位置　X41･42、Y147～149グリッド　**主軸方向**　N―31°―E　**形状等**　楕円形、東西(4.60)m、南北(7.00)m、壁現高38cm　**面積**　(27.95)㎡　**床面**　遺構南西部を風倒木痕により壊される。残存部はほぼ平坦。　**炉**　埋甕炉　**ピット**　Ｐ１　長軸64cm、短軸40cm、深さ36cm　Ｐ２　長軸64cm、短軸52cm、深さ15cm　Ｐ３　長軸74cm、短軸68cm、深さ77cm　**重複**　なし　**出土遺物**　縄文時代中期加曽利Ｅ３式期の深鉢、打製石斧、石鏃　**時期**　縄文時代中期加曽利Ｅ３式期

Ｊ－２号住居跡（Fig.７、PL.５）

位置　X41・42、Y142～144グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　楕円形、東西2.90m、南北2.74m、壁現高67cm　**面積**　(23.35)m²　**床面**　遺構南西部を風倒木痕により壊される。ほぼ平坦　**炉**　地床炉　**ピット**　Ｐ１　長軸44cm、短軸32cm、深さ53cm　Ｐ２　長軸28cm、短軸20cm、深さ10.5cm　Ｐ３　長軸36cm、短軸32cm、深さ35cm　Ｐ４　長軸32cm、短軸28cm、深さ26cm　Ｐ５　長軸40cm、短軸32cm、深さ31cm　Ｐ６　長軸24cm、短軸20cm、深さ19cm　Ｐ７　長軸32cm、短軸28cm、深さ24cm　Ｐ８　長軸20cm、短軸16cm、深さ16cm　Ｐ９　長軸28cm、短軸22cm、深さ22cm　Ｐ10　長軸24cm、短軸23cm、深さ12cm　**重複**　H－25、H－36と重複し、いずれより古い　**出土遺物**　縄文時代前期諸磯ｂ・ｃ式期の深鉢、打製石斧、石匙、石鏃　**時期**　縄文時代前期諸磯ｃ式期

Ｊ－３ａ号住居跡（Fig.８・９、PL.５・６）

位置　X36～38、Y138・139グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**形状等**　丸みを持つ方形、東西(8.40)m、南北(5.24)m、壁現高56cm　**面積**　(30.98)m²　**床面**　ほぼ平坦　**炉**　地床炉　**重複**　Ｊ－３ｂと重複し、本住居跡が新しい　**出土遺物**　縄文時代前期磯ｃ式期の深鉢、打製石斧、石匙、石鏃　**時期**　縄文時代前期磯ｃ式期の新しい段階

Ｊ－３ｂ号住居跡（Fig.８・９、PL.６）

位置　X36～39、Y138～141グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　**形状等**　角丸方形、東西(9.88)m、南北10.80m、壁現高56m　**面積**　90.03m²　**床面**　ほぼ平坦　**炉**　未検出　**重複**　Ｊ－３ａと重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　縄文時代前期磯ｃ式期の深鉢、打製石斧、石錐、石鏃　**時期**　縄文時代前期磯ｃ式期

(2)　土坑

JD－１号土坑（Fig.10、PL.６）

位置　X37・38、Y141グリッド　**主軸方向**　N－113°－E　**形状等**　楕円形　長軸長0.78m、短軸長0.64m、壁現高34.5cm　**重複**　なし　**出土遺物**　縄文時代前期磯ｃ式期の深鉢　**時期**　縄文時代前期磯ｃ式期

JD－２号土坑（PL.６）

位置　X38、Y141・142グリッド　**主軸方向**　N－60°－E　**形状等**　楕円形　東西5.00m、南北4.40m、壁現高28.5cm　**重複**　なし　**出土遺物**　なし　**時期**　覆土の状況から縄文時代の土坑と判断したが時期等詳細は不明

(3)　埋甕

Ｕ－１号埋甕（Fig.10、PL.７）

位置　X141、Y148グリッド　**重複**　遺構との重複はないが東半分は耕作痕に切られる。　**出土遺物**　縄文時代中期加曽利Ｅ３式期の深鉢　**時期**　縄文時代中期加曽利Ｅ３式期

Ｕ－２号埋甕（Fig.10、PL.７）

位置　X140、Y147グリッド　**重複**　なし　**出土遺物**　縄文時代中期加曽利Ｅ３式期の深鉢　**時期**　縄文時代中期加曽利Ｅ３式期

4　古墳時代～平安時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.10、PL.７）

位置　Ｘ41･42、Ｙ150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－91°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西5.54m、南北(2.40)ｍ　壁現高41.5cm　**面積**　(10.61m²)　**床面**　ほぼ平坦であるが、炉周辺は凹む。　**炉**　浅い掘り込みを持つ地床炉。主軸方向Ｎ－４°－Ｅ　**ピット**　Ｐ１　長軸22cm、短軸18cm、深さ35.5cm　Ｐ２　長軸24cm、短軸22cm、深さ51.5cm　**壁周溝**　東・西・北壁　**重複**　Ｈ－２と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器・台付甕　**時期**　出土遺物から４世紀前半　**備考**　元総社小見遺跡Ｈ－40に同じ

Ｈ－２号住居跡（Fig.10）

位置　Ｘ40･41、Ｙ150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－74°－Ｅ　**形状等**　方形　東西(2.92)ｍ、南北(0.76)ｍ、壁現高49.5cm　**面積**　(0.84m²)　**床面**　調査区内では、確認できなかった。　**竈**　未検出。　**壁周溝**　北壁　**重複**　Ｈ－１と重複し、本住居跡が新しい。　**出土遺物**　土師器・坏・甕　**時期**　出土遺物から８世紀　**備考**　元総社小見遺跡Ｈ－31に同じ

Ｈ－３号住居跡（Fig.11、PL.５）

位置　Ｘ36･37、Ｙ149･50グリッド　**主軸方向**　Ｎ－74°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西(1.74)ｍ、南北(3.60)ｍ、壁現高36.5cm　**面積**　(6.23m²)　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出　**壁周溝**　東・南壁　**重複**　Ｈ－５、Ｗ－１～３と重複し、Ｈ－５、Ｗ－２・３より新しく、Ｗ－１より古い。　**出土遺物**　土師器・坏　**時期**　出土遺物から６世紀第２四半期

Ｈ－４号住居跡（Fig.12、PL.７～９）

位置　Ｘ37～39、Ｙ148～150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－65°－Ｅ　**形状等**　北壁中央に張出しを有する方形　東西5.86m、南北7.80m、壁現高75cm　**面積**　38.73m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央南より。主軸方向Ｎ－69°－Ｅ　全長230cm、最大幅188cm、煙道長126cm、焚口部幅56cm　**壁周溝**　東･西・北・南壁　**ピット**　Ｐ１　長軸52cm、短軸44cm、深さ58cm　Ｐ２　長軸36cm、短軸34cm、深さ42cm　Ｐ３　長軸54cm、短軸44cm、深さ44.5cm　Ｐ４　長軸48cm、短軸36cm、深さ21cm　**重複**　Ｈ－５、Ｈ－７、Ｗ－２、Ｗ－３と重複し、Ｈ－７より古く、Ｈ－５、Ｗ－２、Ｗ－３より新しい。　**出土遺物**　土師器・坏　**時期**　出土遺物から６世紀第４四半期～７世紀第１四半期

Ｈ－５号住居跡（Fig.12）

位置　Ｘ37・38、Ｙ149・150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－74°－Ｅ　**形状等**　不明　東西(1.74)ｍ、南北(3.60)ｍ、壁現高28cm　**面積**　(4.49)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**炉**　地床炉　**重複**　Ｈ－３、Ｈ－４、Ｗ－２･Ｗ－３と重複し、いずれよりも本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器・台付甕　**時期**　出土遺物から４世紀

Ｈ－６号住居跡（Fig.13・14、PL.９）

位置　Ｘ36･37、Ｙ147～149グリッド　**主軸方向**　Ｎ－93°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西(1.34)ｍ、南北7.32m、壁現高44cm　**面積**　(7.12m²)　**床面**　重複するＷ－１の影響で平坦面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向Ｎ－94°－Ｅ　全長175cm、最大幅190cm　**壁周溝**　東・北壁　**重複**　Ｗ－１と重複し、本住居跡が古い。

出土遺物　土師器・坏・甕　**時期**　出土遺物から７世紀

Ｈ－７号住居跡（Fig.14・15、PL.10）

位置　Ｘ37・38、Ｙ147・148グリッド　**主軸方向**　Ｎ－89°－Ｅ　**形状等**　北壁西端に張出しを有する方形　東西5.60m、南北6.20m、壁現高48cm　壁周溝の状況から当初は張り出しを方形の住居：(東西(4.00)m、南北(5.40)m)を西及び張出し部に拡張したものと判断できる。　**面積**　29.36m²　**床面**　硬質な総社砂層を掘り込み床面を構築。ほぼ平坦である。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－82°－Ｅ　全長140cm、最大幅125cm、焚口部幅46cm　**ピット**　Ｐ１　長軸52cm、短軸40cm、深さ67cm　Ｐ２　長軸40cm、短軸34cm、深さ61cm　Ｐ３　長軸46cm、短軸28cm、深さ51cm　Ｐ４　長軸36cm、短軸36cm、深さ81.5cm　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**重複**　Ｈ－４と重複し、Ｈ－４より新しい。　**出土遺物**　須恵器・盤　土師器・坏　**時期**　７紀第２四半期

Ｈ－８号住居跡（Fig.15、PL.11）

位置　Ｘ38・39、Ｙ146・147グリッド　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西4.12m、南北4.08m、壁現高50.5cm　**面積**　[19.97]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－85°－Ｅ　全長106cm、最大幅92cm、煙道長31cm、焚口部幅22cm　**ピット**　Ｐ１　長軸38cm、短軸32cm、深さ52.0cm　Ｐ２　長軸52cm、短軸44cm、深さ48cm　Ｐ３　長軸48cm、短軸32cm、深さ48cm　Ｐ４　長軸28cm、短軸26cm、深さ56cm　Ｐ５　長軸50cm、短軸44cm、深さ20cm　**貯蔵穴**　Ｐ５　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**重複**　Ｈ－７と重複し、Ｈ－７より古い。　**出土遺物**　土師器・坏・甕　**時期**　６世紀第３四半期

Ｈ－９号住居跡（Fig.16、PL.11）

位置　Ｘ39・40、Ｙ146・147グリッド　**主軸方向**　Ｎ－93°－Ｅ　**形状等**　隅丸長方形　東西3.72m、南北4.48m、壁現高20cm　**面積**　15.83m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－92°－Ｅ　全長112cm、最大幅104cm、焚口部幅64cm　**壁周溝**　なし　**重複**　Ｈ－15・29と重複し、いずれより新しい。　**出土遺物**　須恵器・盤、土師器・甕・坏　**時期**　出土遺物から８世紀第４四半期

Ｈ－10号住居跡（Fig.16、PL.12）

位置　Ｘ37・38、Ｙ145～147グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**形状等**　隅丸長方形　東西4.20m、南北5.08m、壁現高12cm　**面積**　[20.07]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**炉**　未検出　**壁周溝**　東・南壁　**重複**　Ｈ－21と重複し、Ｈ－21より古い。　**出土遺物**　土師器・器台・坩、須恵器　**時期**　４世紀

Ｈ－11号住居跡（Fig.17、PL.12）

位置　Ｘ37・38、Ｙ145～147グリッド　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西(1.40)m、南北6.48m、壁現高69.5cm　**面積**　(7.45)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**炉**　未検出　**ピット**　Ｐ１　長軸(40)cm、短軸(28)cm、深さ65cm　Ｐ２　長軸(44)cm、短軸(20)cm、深さ29.5cm　**貯蔵穴**　Ｐ２　**壁周溝**　東・北壁　**重複**　Ｗ－１と重複し、Ｗ－１より古い。　**出土遺物**　土師器・甕・壺・甑　**時期**　出土遺物から４世紀前半

Ｈ－12号住居跡（Fig.18・19、PL.16）

位置　Ｘ38・39、Ｙ145・146グリッド　**主軸方向**　Ｎ－74°－Ｅ　**形状等**　隅丸長方形　東西3.80m、南北4.60m、壁現高52.5cm　**面積**　16.83m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸

方向N—90°—E　全長98cm、最大幅84cm　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**重複**　H—20、H—21、H—26と重複し、H—20、H—21より新しく、H—26より古い。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　重複関係から8世紀

H—13号住居跡（Fig.20・21　PL.13・14）

位置　X41・42、Y145・146グリッド　**主軸方向**　N—84°—E　**形状等**　隅丸長方形　東西3.48m、南北4.52m、壁現高50cm　**面積**　16.75m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N—82°—E　全長104cm、最大幅122cm、焚口部幅50cm　**炉心**　中央南東寄り　**廃滓土坑**　中央やや南西寄り　長軸86cm、短軸68cm、深さ21cm　**ピット**　P1　長軸56cm、短軸34cm、深さ21cm　P2　長軸64cm、短軸25cm、深さ27cm　**壁周溝**　なし　**重複**　H—29と重複し、H—29より新しい。　**出土遺物**　土師器・坏・壺、高台椀　**時期**　8世紀第4四半期　**備考**　鍛冶遺構を伴う

H—14号住居跡（Fig.17、PL.15）

位置　X42、Y145～148グリッド　**主軸方向**　N—72°—E　**形状等**　隅丸方形　東西(2.52)m、南北4.20m、壁現高58cm　**面積**　(8.07m²)　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　調査区外に存在するものと思われる。　**ピット**　P1　長軸56cm、短軸40cm、深さ47cm　P2　長軸44cm、短軸40cm、深さ42.5cm　**壁周溝**　北・南・東壁　**重複**　なし　**出土遺物**　土師器片　**時期**　7世紀第3四半期　**備考**　元総社小見遺跡H—63に同じ

H—15号住居跡（Fig.22）

位置　X39・40、Y144～146グリッド　**主軸方向**　N—85°—E　**形状等**　隅丸長方形　東西[3.32]m、南北4.40m、壁現高45cm　**面積**　(15.59m²)　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N—88°—E　全長(38)cm、最大幅(88)cm　**壁周溝**　西・北・南壁　**重複**　H—9・28・29と重複し、H—9より古く、H—28・29より新しい。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　8世紀第4四半期

H—16号住居跡（Fig.22、PL.15）

位置　X40・41、Y144・145グリッド　**主軸方向**　N—86°—E　**形状等**　隅丸長方形　東西(3.36)m、南北5.06m、壁現高42cm　**面積**　[17.83]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向N—89°—E　全長132cm、最大幅118cm、焚口部幅44cm　**壁周溝**　なし　**重複**　H—24bと重複し、H—24aよりも新しい。　**出土遺物**　須恵器・蓋、土師器・甕　**時期**　9世紀

H—17号住居跡（Fig.23、PL.15）

位置　X42、Y144・145グリッド　**主軸方向**　N—65°—E　**形状等**　角丸方形　東西3.20m、南北3.28m、壁現高44.5cm　**面積**　(8.53m²)　**床面**　ほぼ平坦で、中央部から南東部にかけて硬化面あり。　**竈**　調査区外に存在するものと思われる。　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**重複**　なし　**出土遺物**　土師器片　**時期**　8世紀

H—18号住居跡（Fig.23、PL.15）

位置　X36・37、Y143・144グリッド　**主軸方向**　N—78°—E　**形状等**　角丸方形　東西3.40m、南北3.52m、壁現高20.5cm　**面積**　10.40m²　**床面**　ほぼ平坦で、竈前面に硬化面あり。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向N—84°—E　全長[90]cm、最大幅94cm　**ピット**　P1　長軸52cm、短軸38cm、深さ13cm　P2　長軸28cm、短軸26cm、深さ31cm　P3　長軸52cm、短軸46cm、深さ52cm　**貯蔵穴**　P3　**壁周溝**　東・北壁　**重複**　H—19と重複し、

H—19より新しい。　**出土遺物**　土師器・高坏・壺、高台椀　**時期**　7世紀

H—19号住居跡（Fig.23、PL.15）

位置　X37・38、Y144・145グリッド　**主軸方向**　N—78°—E　**形状等**　角丸長方形　東西3.16m、南北3.46m、壁現高38.5cm　**面積**　11.03m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向N—99°—E　全長(82)cm、最大幅106cm　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**重複**　H—18、H—20と重複し、H—18より古く、H—20より新しい。　**出土遺物**　土師器・坏　**時期**　9世紀

H—20号住居跡（Fig.24、PL.16）

位置　X37・38、Y144・145グリッド　**主軸方向**　N—77°—E　**形状等**　角丸長方形　東西2.80m、南北4.40m、壁現高25cm　**面積**　10.62m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向N—73°—E　全長134cm、最大幅(123)cm　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**重複**　H—19と重複し、本住居跡が古い。　**山土遺物**　土師器・坏、丸鞆、鉄鏃　**時期**　7世紀

H—21号住居跡（Fig.24、PL.16）

位置　X37・38、Y145・146グリッド　**主軸方向**　N—92°—E　**形状等**　角丸長方形　東西[3.52]m、南北[5.84]m、壁現高9.5cm　**面積**　[12.55]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N—84°—E　全長(40)cm、最大幅96cm、焚口部幅44cm　**ピット**　P1　長軸88cm、短軸68cm、深さ15cm　**貯蔵穴**　P1　**壁周溝**　未検出　**重複**　H—12、H—26、H—20と重複し、いずれより本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器・甕、高台椀　**時期**　6世紀後半

H—22号住居跡（Fig.24、PL.16）

位置　X39・40、Y143・144グリッド　**主軸方向**　N—73°—E　**形状等**　角丸長方形　東西(1.72)m、南北3.64m、壁現高22.5cm　**面積**　(3.93m²)　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出　**壁周溝**　なし　**重複**　H—23と重複し、H—23より古い。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　5世紀

H—23号住居跡（(Fig.24、PL.16）

位置　X39、YY143・144グリッド　**主軸方向**　N—87°—E　**形状等**　角丸方形　東西2.36m、南北3.24m、壁現高21.0cm　**面積**　(7.01m²)　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央。主軸方向N—85°—E　全長64cm、最大幅47cm　**重複**　H—22と重複し、H—22より新しい。　**出土遺物**　須恵器・甕　**時期**　7世紀

H—24a号住居跡（Fig.25、PL.16）

位置　X39～41、Y142～144グリッド　**主軸方向**　N—57°—E　**形状等**　角丸方形　東西4.24m、南北4.32m、壁現高47.5cm　**面積**　17.42m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　南壁中央西寄り。主軸方向N—153°—E　全長77cm、最大幅73cm　**重複**　H—24b、H—24cと重複し、いずれより新しい。　**出土遺物**　土師器・壺、須恵器・蓋　石　**時期**　7世紀第4四半期

H—24b号住居跡（Fig.25、PL.16）

位置　X39～41、Y142～144グリッド　**主軸方向**　N—70°—E　**形状等**　角丸方形　東西[5.12]m、南北[4.52]

m、壁現高34.5cm　**面積**　[19.90]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央やや南寄り。主軸方向N－62°－E　全長178cm、最大幅77cm、焚口部幅34cm　**ピット**　P１　長軸24cm、短軸24cm、深さ43cm　P２　長軸28cm、短軸22cm、深さ46cm　P３　長軸44cm、短軸36cm、深さ44cm　P４　長軸30cm、短軸28cm、深さ65cm　P５　長軸52cm、短軸36cm、深さ43.0cm　**貯蔵穴**　P５　**壁周溝**　東壁　**重複**　H－16、H－24ｂ、H－24ｃと重複し、いずれより古い。　**出土遺物**　土師器・坏・甕　須恵器　**時期**　６世紀第４四半期

H－24ｃ号住居跡（Fig.25、PL.16）

位置　X39～41、Y142～144グリッド　**主軸方向**　N－76°－E　**形状等**　角丸長方形　東西3.44m、南北[2.80]m、壁現高15.0cm　**面積**　(5.01)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出　**重複**　H－24ａ、H－24ｂと重複し、H－24ａより古く、H－24ｂより新しい。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　７世紀第２四半期

H－25号住居跡（Fig.26、PL.16）

位置　X42、Y142・143グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　角丸長方形　東西(3.14)m、南北3.78m、壁現高33.5cm　**面積**　(10.56)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出　**重複**　H－36と重複し、本住居跡が新しい。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　不明

H－26号住居跡（Fig.18・19、PL.17）

位置　X38・39、Y145・146グリッド　**主軸方向**　N－76°－E　**形状等**　角丸長方形　東西3.16m、南北3.68m、壁現高37cm　**面積**　11.05m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央南より。主軸方向N－97°－E　全長116cm　最大幅92cm　**ピット**　P１　長軸32cm、短軸30cm、深さ19cm　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**重複**　H－12と重複し、本住居跡が新しい。　**出土遺物**　須恵器・坏　**時期**　９世紀

H－27号住居跡（Fig.26、PL.17）

位置　X39～40、Y141・142グリッド　**主軸方向**　N－67°－E　**形状等**　角丸方形　東西4.76m、南北4.68m、壁現高36cm　**面積**　20.45m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　２基存在。東壁中央南寄り。主軸方向N－73°－E　全長(112)cm、最大幅108cm、焚口部幅60cm。西壁中央南寄り。主軸方向N－116°－W。全長127cm、最大幅121cm、煙道長66cm　**ピット**　P１　長軸32cm、短軸26cm、深さ27cm　P２　長軸434cm、短軸28cm、深さ30.5cm　P３　長軸30cm、短軸22cm、深さ38cm　P４　長軸20cm、短軸16cm、深さ91cm　P５　長軸102cm、短軸72cm、深さ50cm　**貯蔵穴**　P５　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**重複**　A－１と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　須恵器・蓋　**時期**　６世紀第２四半期

H－28号住居跡（Fig.22）

位置　X39・40、Y144・145グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　**形状等**　角丸方形　東西3.24m、南北(3.54)m、壁現高28.5cm　**面積**　8.55m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出　**壁周溝**　西・北壁　**重複**　H－15と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　６世紀第２四半期

H－29号住居跡（Fig.27、PL.18）

位置　X40～42、Y144～146グリッド　**主軸方向**　N－12°－E　**形状等**　角丸方形　東西7.44m、南北7.52m、壁現高35.5cm　**面積**　53.89m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**炉**　地床炉。中央北寄り　**ピット**　P１　長軸28cm、

短軸24cm、深さ57.0cm　P２　長軸48cm、短軸48cm、深さ54cm　P３　長軸32cm、短軸24cm、深さ54.5cm　P４　長軸27cm、短軸21cm、深さ45cm　P５　長軸56cm、短軸48cm、深さ33cm　**重複**　H－９、H－13、H－15、H－16と重複し、いずれより本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器・坏・壺・甑・台付甕・器台　**時期**　４世紀前半

H－30号住居跡　欠番

H－31号住居跡（Fig.28、PL.18）

位置　X38・39、Y138・139グリッド　**主軸方向**　N－104°－E　**形状等**　角丸長方形　東西3.38m、南北3.64m、壁現高28.5cm　**面積**　[10.74]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向N－95°－E　全長106cm、最大幅82cm　**出土遺物**　土師器片　**時期**　９世紀第２四半期

H－32号住居跡（Fig.28）

位置　X38・39、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　角丸長方形　東西[2.28]m、南北3.60m、壁現高12.5cm　**面積**　[12.87]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向N－66°－E　全長62cm、最大幅50cm　**ピット**　P１　長軸58cm、短軸36cm、深さ12cm　貯蔵穴　P１　**壁周溝**　未検出　**出土遺物**　土師器片　**時期**　９世紀第２四半期

H－33号住居跡（Fig.28、PL.18）

位置　X38・39、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**形状等**　角丸長方形　東西[2.36]m、南北3.60m、壁現高12.5cm　**面積**　[7.70]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向N－71°－E　全長80cm、最大幅70cm　**壁周溝**　未検出　**出土遺物**　土師器片　**時期**　10世紀前半

H－34号住居跡（Fig.29、PL.18）

位置　X38・39、Y138・139グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　角丸方形　東西2.70m、南北3.84m、壁現高23.5cm　**面積**　[18.69]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁南寄り。主軸方向N－78°－E　全長(80)cm、最大幅(76)cm　**出土遺物**　須恵器・円面硯　**時期**　９世紀第１四半期

H－35号住居跡（Fig.29）

位置　X40・41、Y138グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**形状等**　角丸方形　東西5.76m、南北(3.12)m、壁現高50.0cm　**面積**　(14.27)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出　**ピット**　P１　長軸36cm、短軸36cm、深さ66cm　P２　長軸32cm、短軸24cm、深さ65cm　P３　長軸38cm、短軸32cm、深さ20cm　**出土遺物**　土師器片　**時期**　不明

H－36号住居跡（Fig.26）

位置　X41・42、Y142・143グリッド　**主軸方向**　N－65°－E　**形状等**　角丸方形　東西(2.00)m、南北3.96m、壁現高25.5cm　**面積**　(3.28)m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　未検出　**床下土坑**　長軸90cm、短軸86cm、深さ5.0cm　**出土遺物**　土師器・甕　**時期**　８世紀第４四半期

H－37号住居跡（Fig.30、PL.18）

位置　X39・40、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**形状等**　やや歪んだ長方形、東西3.92m、南北

2.24m、壁現高21cm　**面積**　8.96m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**竈**　東壁中央。主軸方向N－78°－E　全長[64]cm、最大幅44cm　**出土遺物**　須恵器・坏、高台椀　**時期**　9世紀第4四半期

H－38号住居跡（Fig.29、PL.19）

位置　X38・39、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　角丸方形　東西(5.20)m、南北(6.32)m、壁現高25.5cm　**面積**　[26.50]m²　**床面**　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。　**炉**　地床炉。中央北寄り　**ピット**　P1　長軸48cm、短軸40cm、深さ28.0cm　P2　長軸28cm、短軸20cm、深さ50.0cm　**貯蔵穴**　P1　**壁周溝**　東・西・北・南壁　**出土遺物**　土師器片　**時期**　4世紀前半

(2)　溝跡

W－1号溝跡

位置　X36、Y144～146グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　長さ3.88m、深さ29.5cm、最大上幅60cm、最大下幅40cm　**断面**　底部に狭い平坦面をもつV字状を呈する。　**時期**　不明

W－2号溝跡（Fig.12）

位置　X39・40、Y144～146グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　長さ(1.92)m、深さ57.0cm、最大上幅88cm、最大下幅64cm　**断面**　形箱状を呈する。　**時期**　重複関係から5世紀代から6世紀前半

W－3号溝跡（Fig.12）

位置　X39・40、Y144～146グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　長さ(1.60)m、深さ37.5cm、最大上幅120cm、最大下幅96cm　**断面**　形箱状を呈する。　**時期**　重複関係から5世紀代から6世紀前半

(3)　土坑・掘立柱建物・道路状遺構・竪穴状遺構・井戸跡

D－1号土坑（Fig.30、PL.19）

位置　X39・40、Y144～146グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**形状等**　楕円形　長軸長1.62m、単軸幅0.85m、深さ28.5cm　**出土遺物**　高台椀　**時期**　10世紀

D－2号土坑（Fig.30、PL.19）

位置　X39・40、Y144～146グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　楕円形　長軸長1.30m、単軸幅1.04m、深さ9.5cm　**出土遺物**　土師器片　**時期**　9世紀第4四半期

B－1号掘立柱建物跡（Fig.31、PL.19）

位置　X39・40、Y144～146グリッド　**主軸方向**　N－79°－E　**形状等**　東西4.52m、南北3.40m　**重複**　なし

P－1　長軸68cm、短軸60cm、深さ34cm
P－2　長軸56cm、短軸52cm、深さ34cm
P－3　長軸96cm、短軸60cm、深さ42cm
P－4　長軸88cm、短軸84cm、深さ45cm
P－5　長軸60cm、短軸36cm、深さ28cm
P－6　長軸62cm、短軸58cm、深さ40cm
P－7　長軸72cm、短軸60cm、深さ36cm

Ｐ－８　長軸94cm、短軸80cm、深さ31cm

Ｐ－１～Ｐ－２の距離　2.20m、Ｐ－２～Ｐ－３の距離　1.80m、Ｐ－３～Ｐ－４の距離　1.56m　Ｐ－４～Ｐ－５の距離　1.84m、Ｐ－５～Ｐ－６の距離　2.12m、Ｐ－６～Ｐ－７の距離　2.00m　Ｐ－７～Ｐ－８の距離　1.68m、Ｐ－８～Ｐ－１の距離　1.36m

Ａ－１号道路状遺構

位置　X37～43、Y140～143グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　長さ26.40m、深さ29.5cm、最大上幅60cm、最大下幅40cm　**断面**　箱状を呈する。　**重複**　H－27・H－38と重複し、いずれよりも新しい。　**時期**　古代

Ｉ－１号井戸跡（Fig.32）

位置　X40、Y139　**形状等**　円形　上幅(1.22)m×(1.05)m、深さ(1.22)m。ロート状に開口し、ほぼ垂に掘り込まれる。　**重複**　なし　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

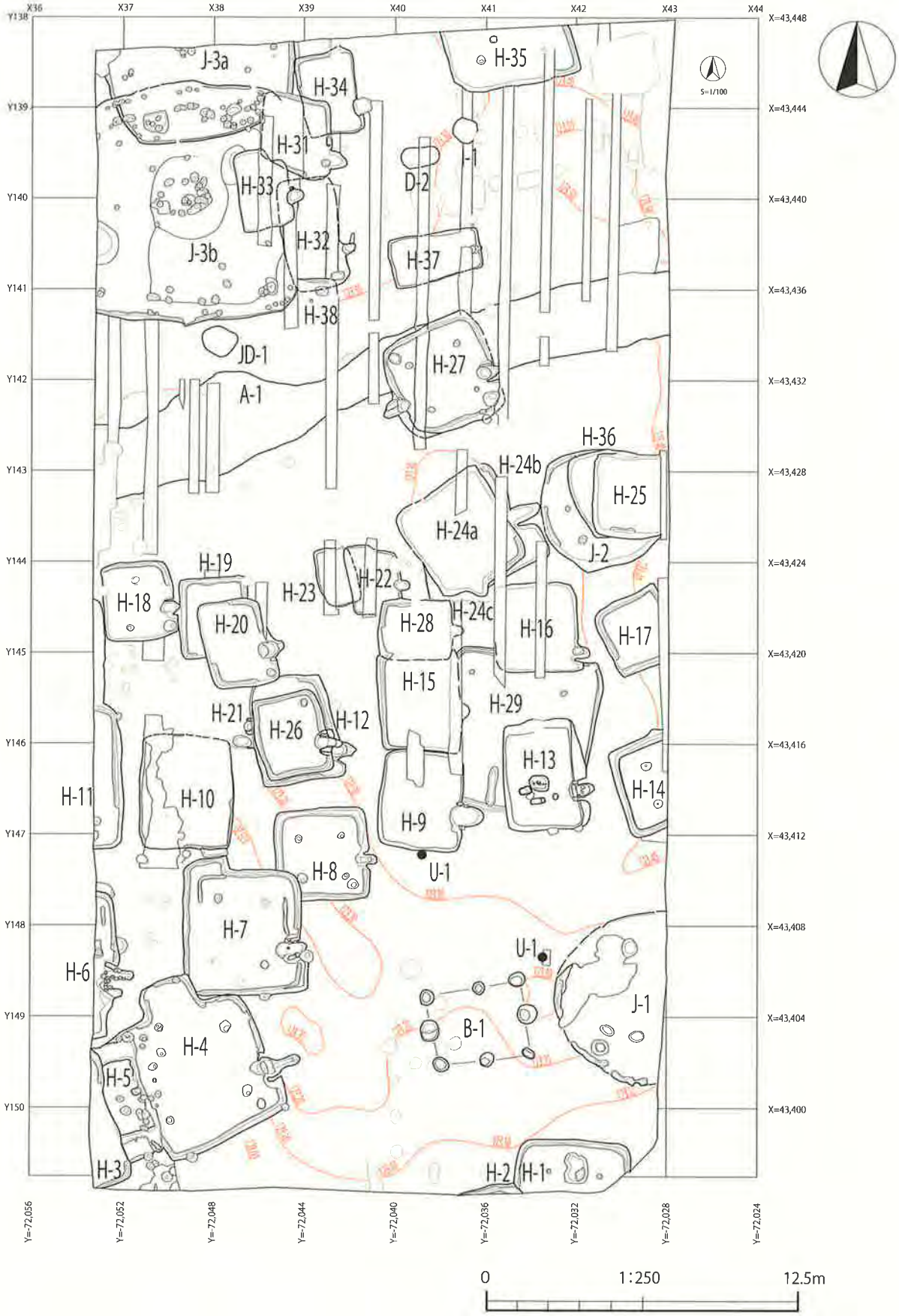
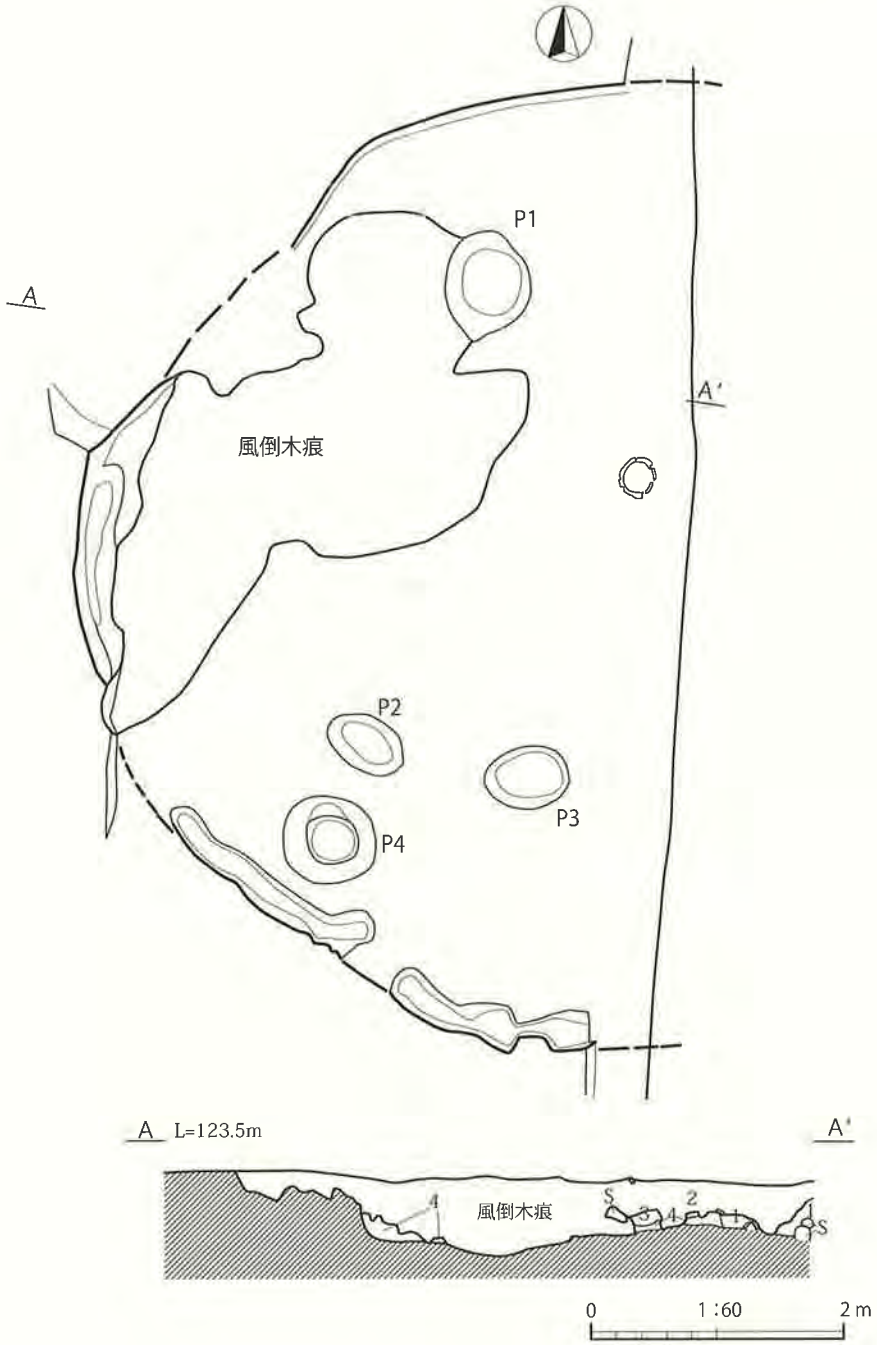


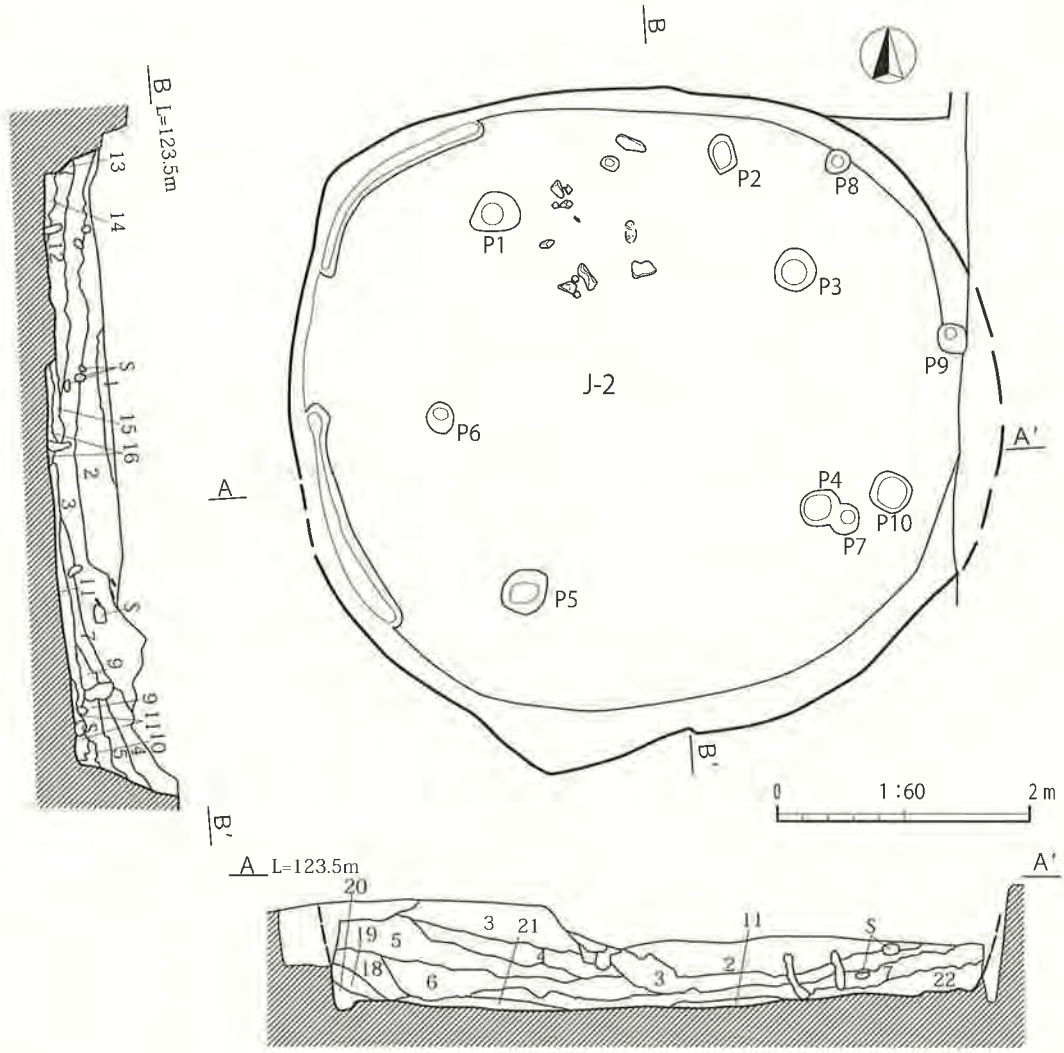
Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（40）調査区全体図



J-1 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（40）Ｊ－１号住居跡



J-2 号住居跡層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
6 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まり強い
7 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
9 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
10 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
11 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
12 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
13 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
14 層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
15 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
16 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
17 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
18 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

Fig. 7　元総社蒼海遺跡群（40）Ｊ－２号住居跡

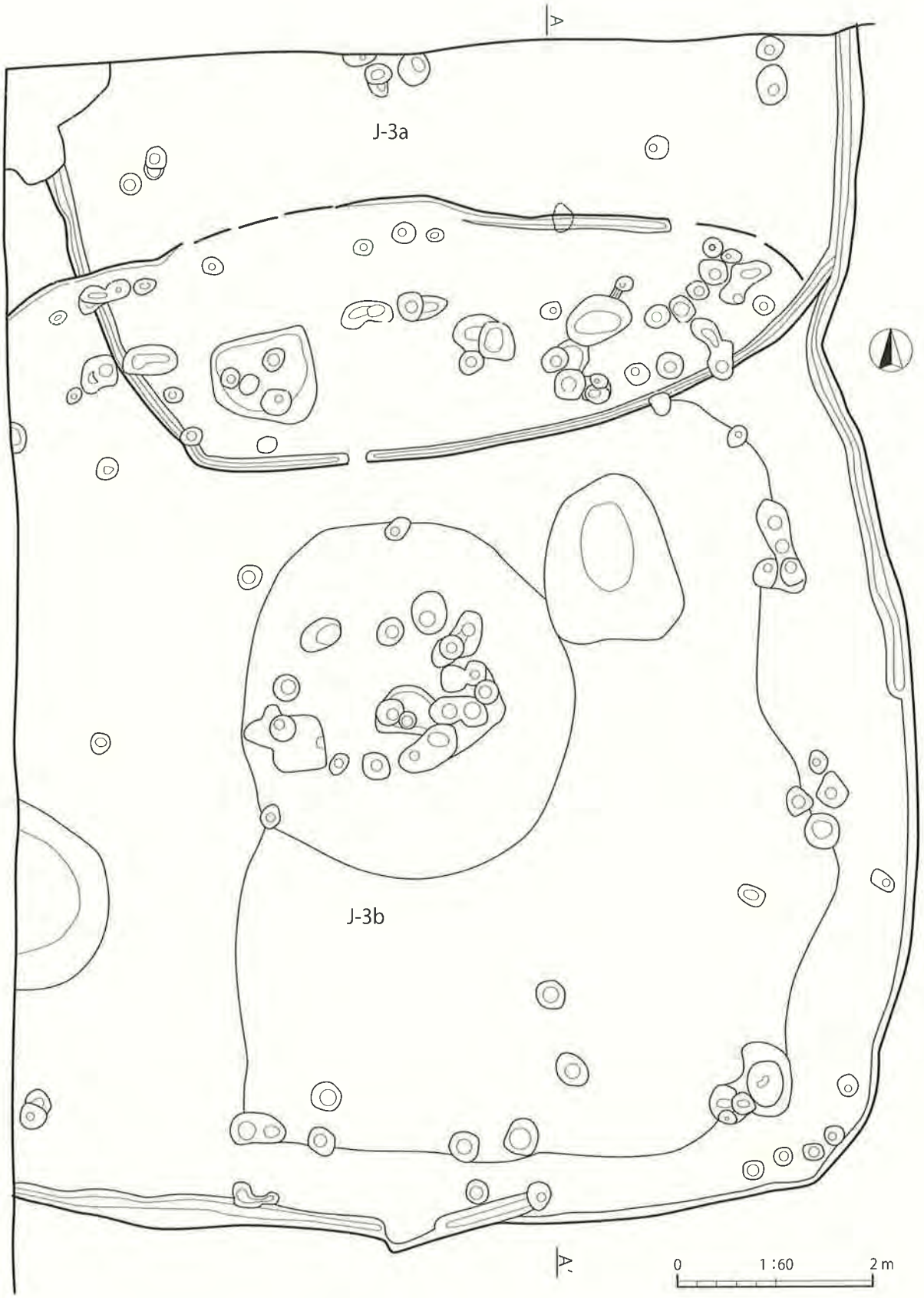
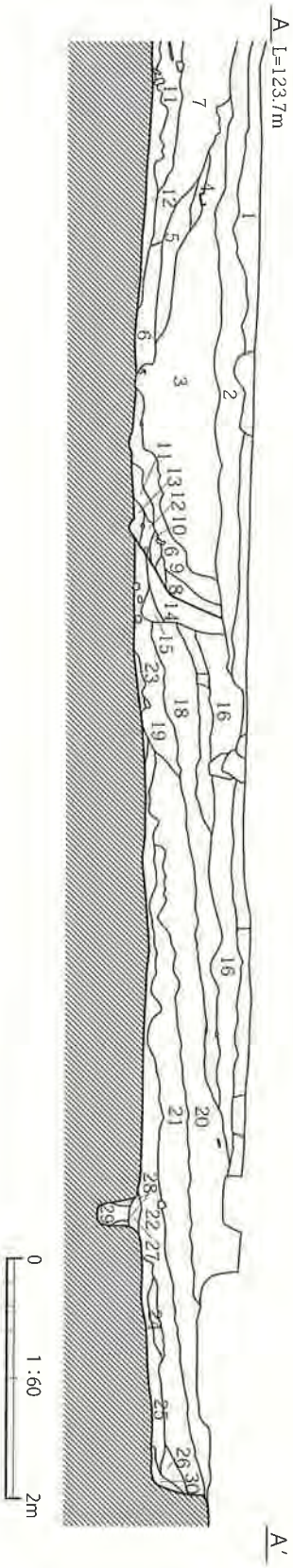


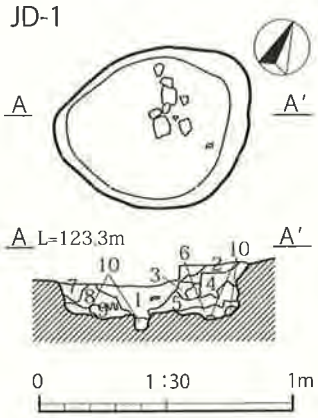
Fig. 8　元総社蒼海遺跡群（40）Ｊ－３号住居跡（1）



J-3 号住居跡層序説明

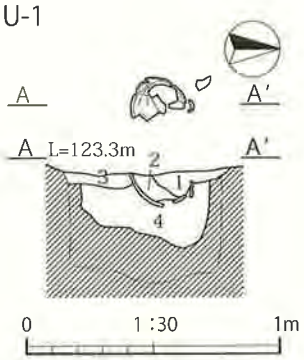
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
6 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まり強い
7 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
9 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
10 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
11 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
12 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
13 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
14 層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
15 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
16 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
17 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
19 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
20 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
21 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
22 層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
23 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
24 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
25 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
26 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
27 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
28 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
29 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
30 層	褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

Fig. 9　元総社蒼海遺跡群（40）J－3 号住居跡（2）



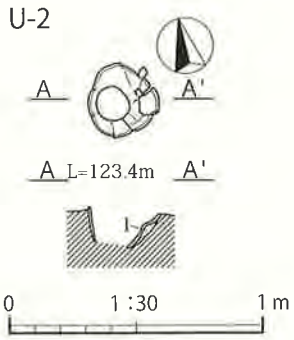
JD-1号土坑層序説明

1層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3層	黒褐色細砂層	粘性弱い	締まりあり
4層	褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6層	褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7層	褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
8層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
9層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
10層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まり強い



1号埋甕層序説明

1層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり



2号埋甕層序説明

1層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり

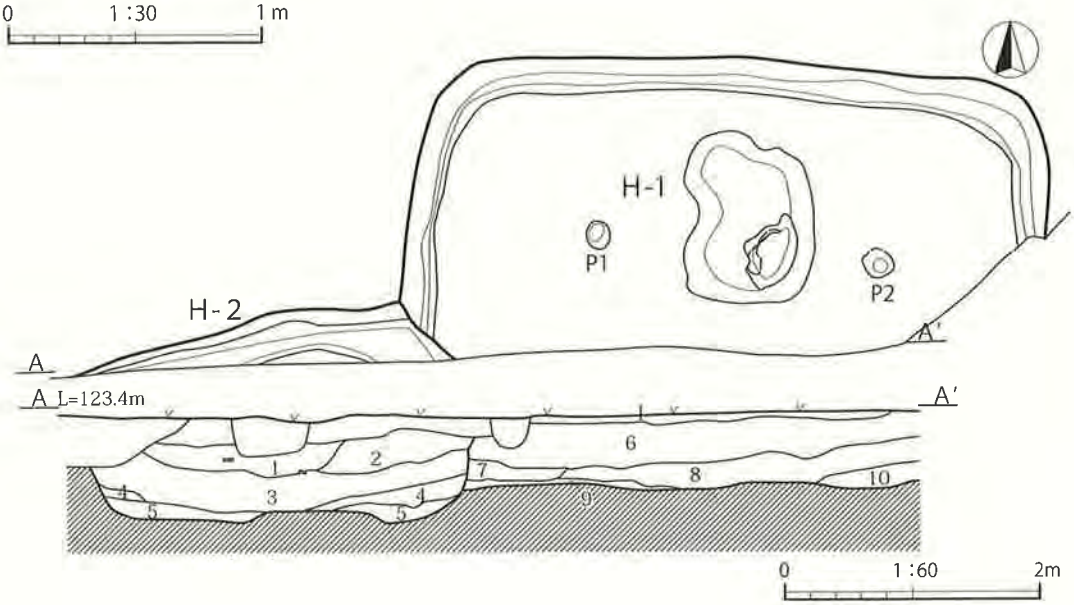


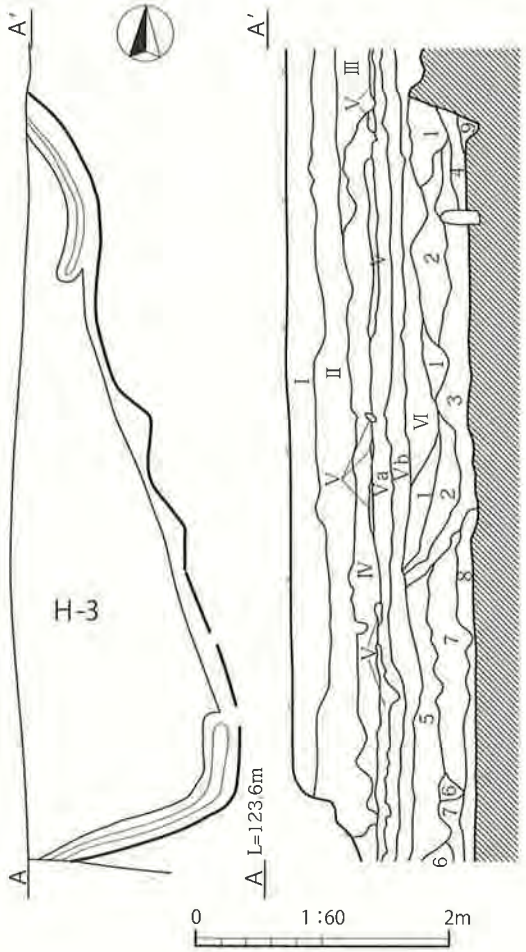
Fig.10　元総社蒼海遺跡群（40）JD—1号土坑、1・2号埋甕、H—1・2号住居跡

H-1 号住居跡層序説明

1 層	現耕作土		
2 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
3 層	極暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
5 層	極暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり

H- 2 号住居跡層序説明

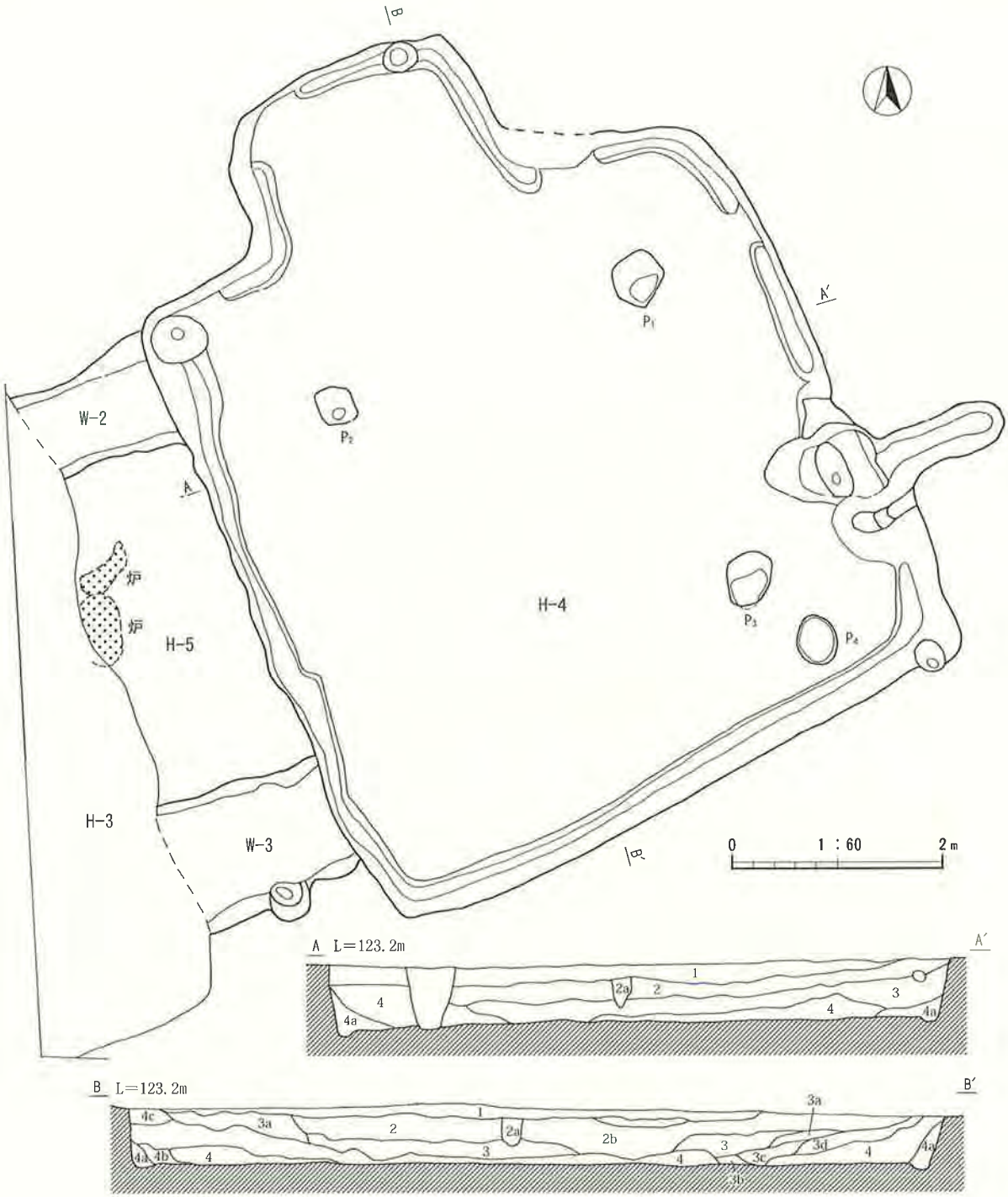
7 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
8 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
9 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
10 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
11 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり



H- 3 号住居跡層序説明

Ⅰ層	現耕作土		
Ⅱ層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
Ⅲ層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
Ⅳ層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
Ⅴ層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅴa 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅴb 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅵ層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
8 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
9 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

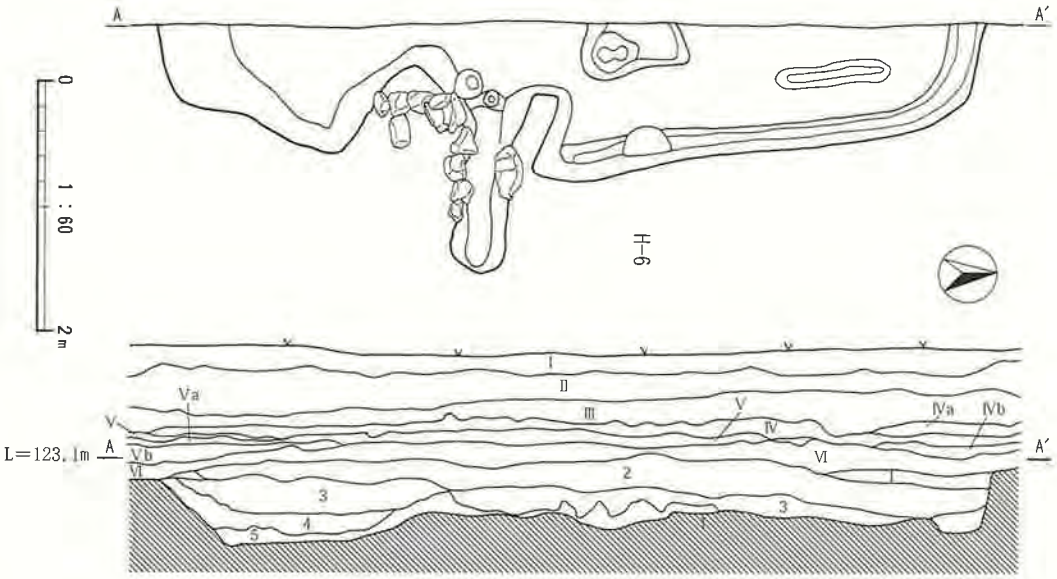
Fig.11　元総社蒼海遺跡群（40）H―3 号住居跡

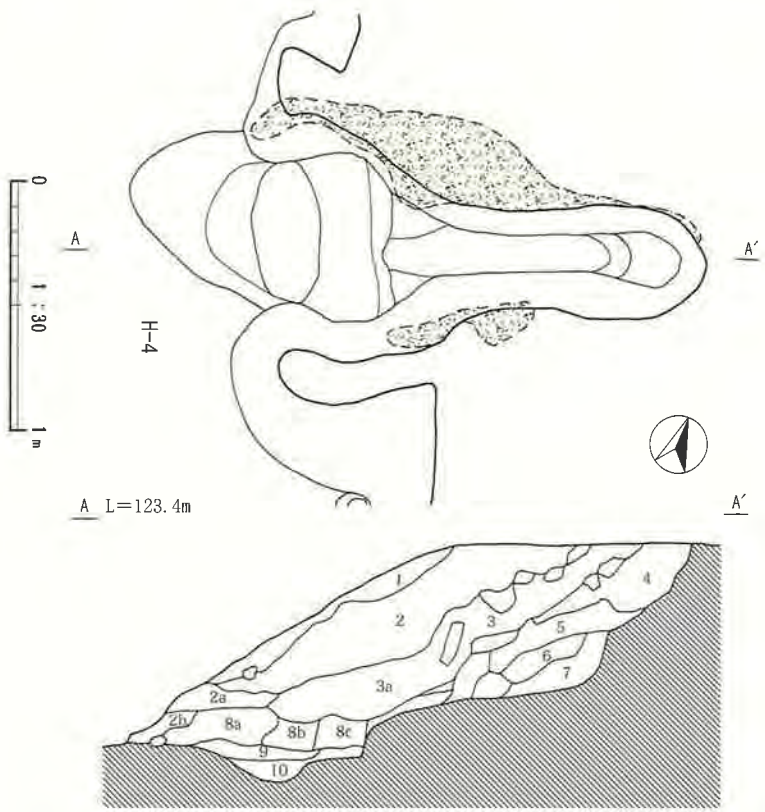


H-4 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2a 層	暗赤褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
2b 層	暗赤褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3b 層	黒暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3c 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3d 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4a 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4b 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4c 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり

Fig.12　元総社蒼海遺跡群（40）H－4・5号住居跡、W－2・3号住居跡





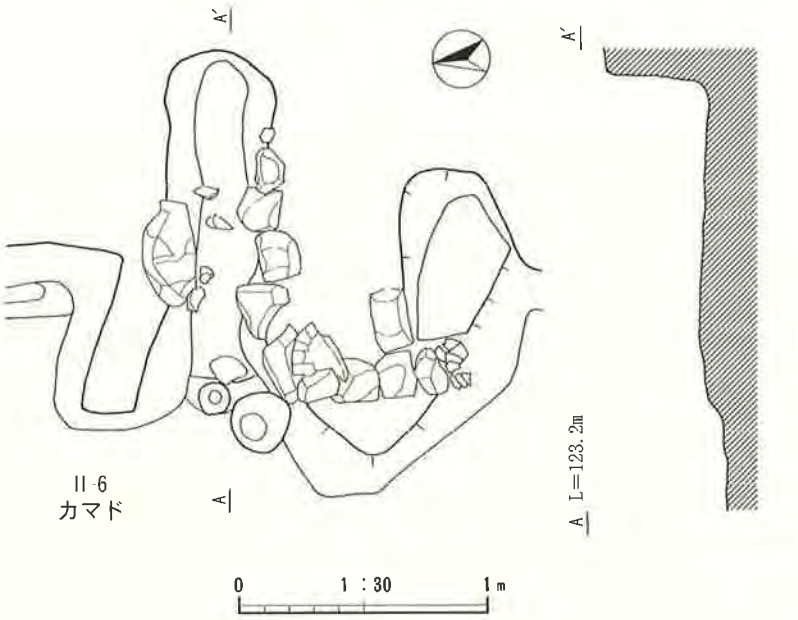
H-6 号住居跡層序説明

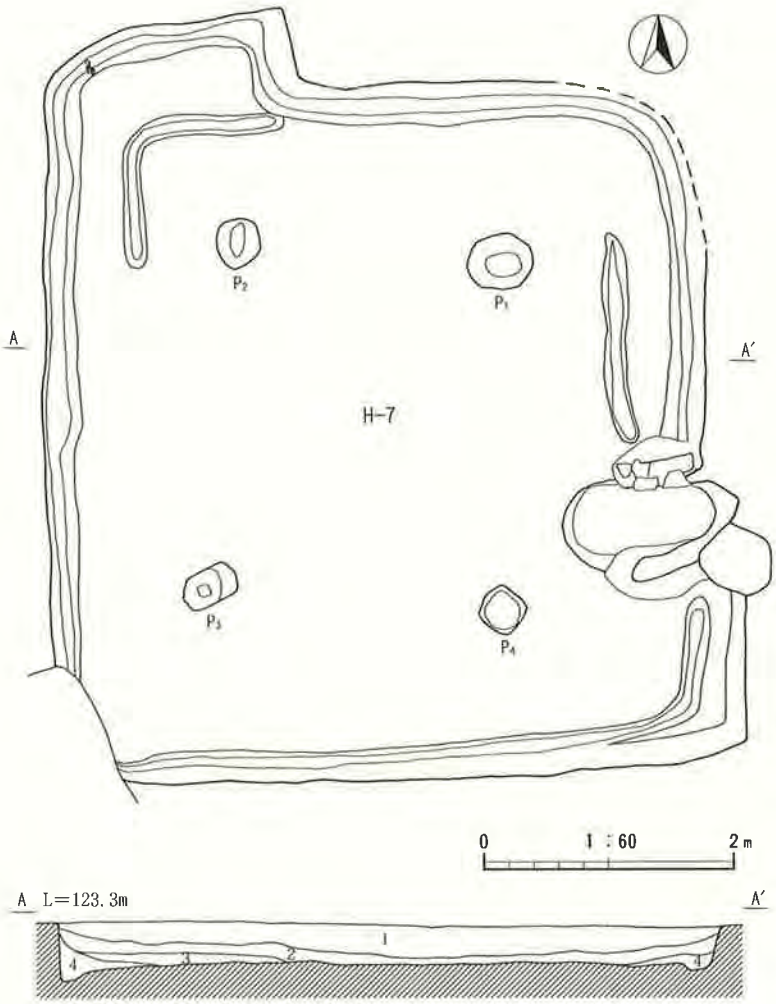
Ⅰ層	現耕作土		
Ⅱ層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まりややあり
Ⅲ層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
Ⅳ層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅳａ層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
Ⅳｂ層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
Ⅴ層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりややあり
Ⅴａ層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅴｂ層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅵ層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
１層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり
２層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
３層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり

H-4 号住居跡カマド層序説明

１層	暗褐色粗砂層	粘性ややあり	締まりあり
２層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
2a 層	暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
2b 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
３層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3a 層	暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
４層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
５層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
６層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
７層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
8a 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
8b 層	暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
8c 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
９層	黒褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり
10 層	極暗褐色微砂層	粘性あり	締まりあり

Fig.13　元総社蒼海遺跡群（40）H－4・6 号住居跡

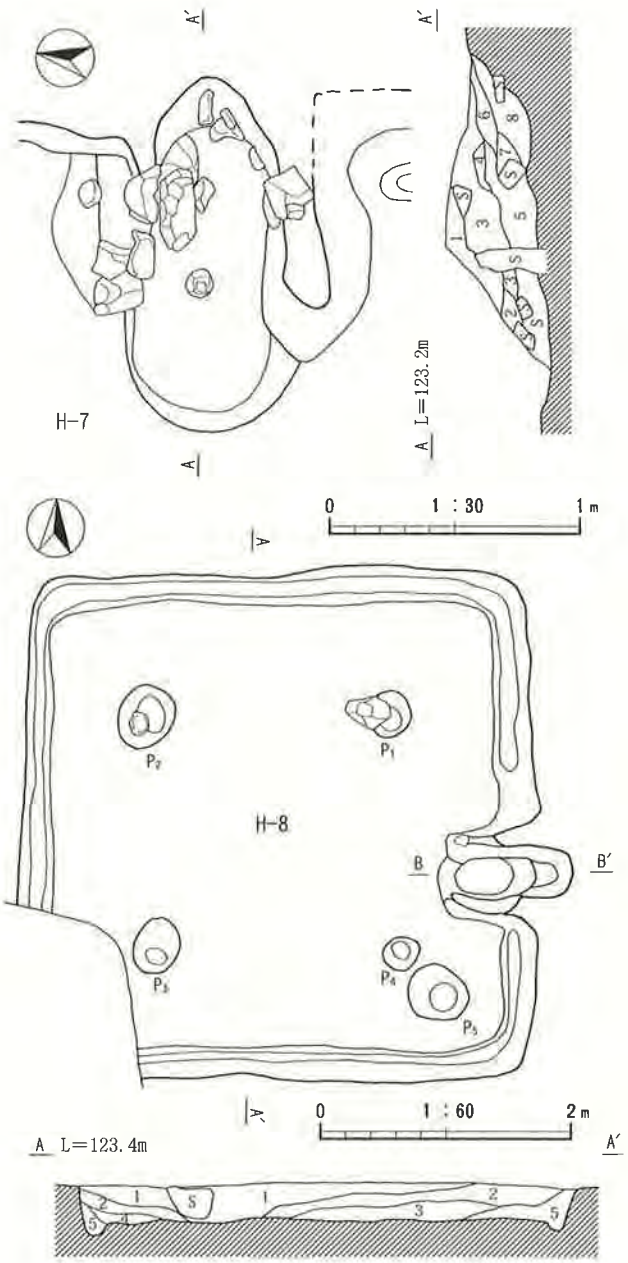




H-7 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色微砂層	
	粘性ややあり	締まり強い

Fig.14　元総社蒼海遺跡群（40）H－6・7号住居跡

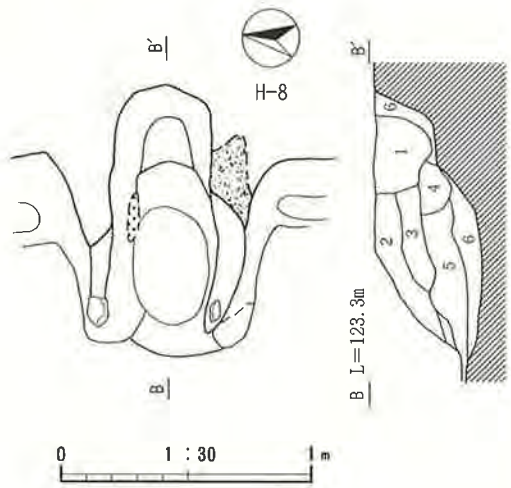


H-7 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	極暗赤褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	褐色細砂層	粘性なし	締まりややあり
5 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
6 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	極暗褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり
8 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

H-8 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
3 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりややあり
4 層	黒褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり
5 層	暗褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり



H-8 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	黒褐色微砂層	粘性あり	締まり強い
6 層	暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり

Fig.15　元総社蒼海遺跡群（40）H―７・８号住居跡

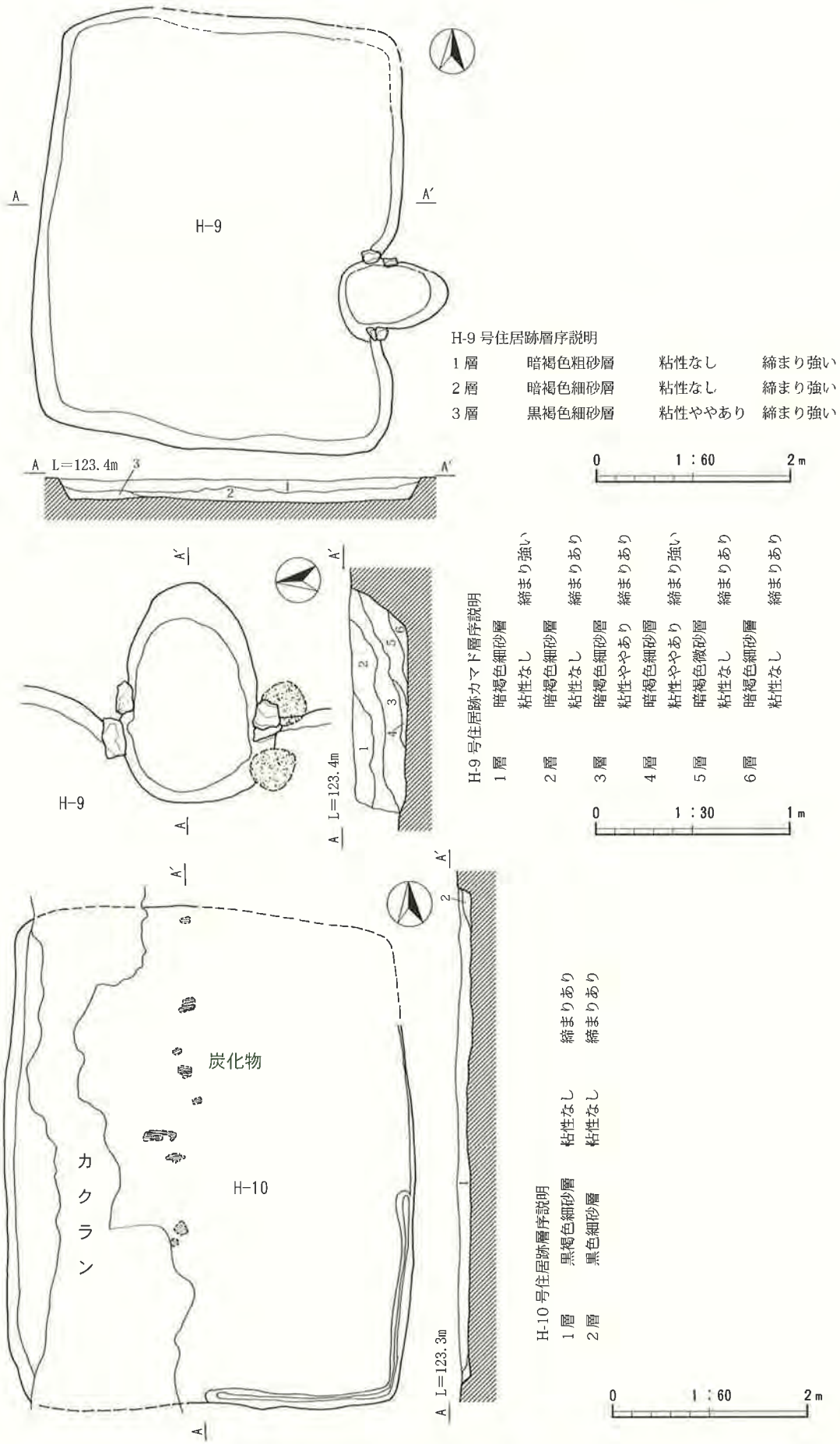
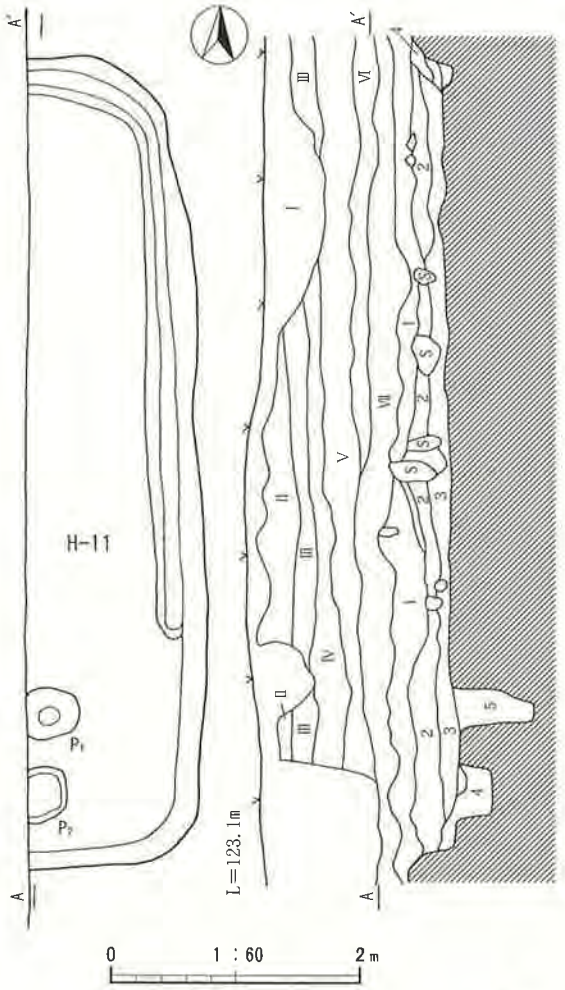
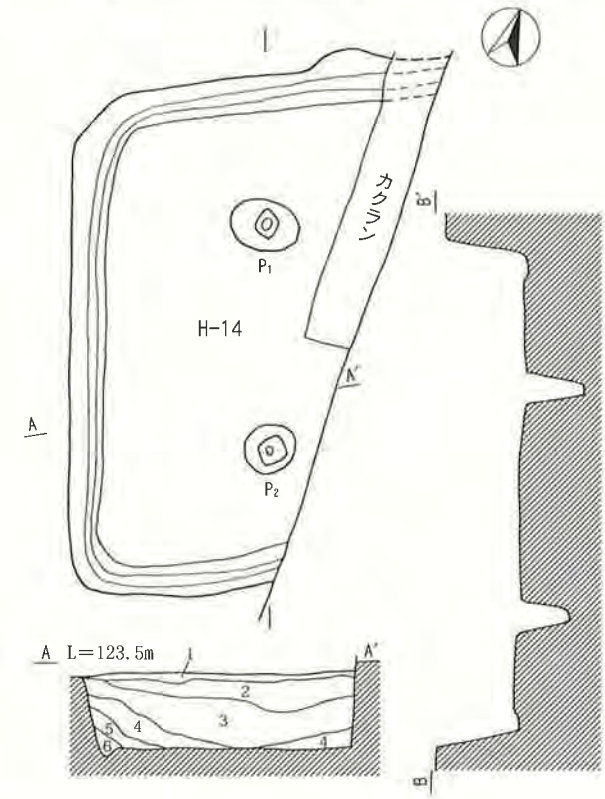


Fig.16　元総社蒼海遺跡群（40）H－9・10号住居跡



H-11 号住居跡層序説明

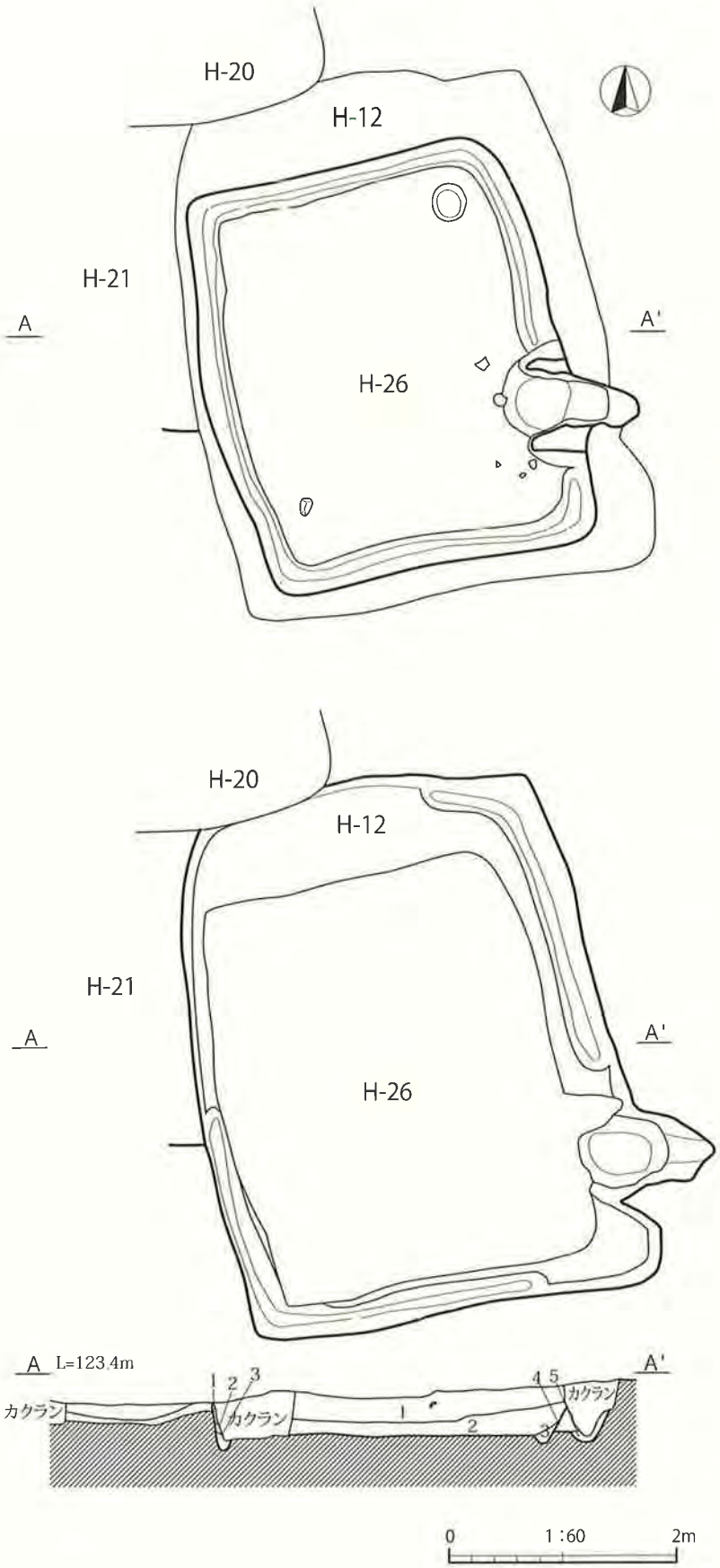
Ⅰ層	現耕作土		
Ⅱ層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅲ層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり
Ⅳ層	黒褐色粗砂層	粘性ややあり	締まりあり
Ⅴ層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
Ⅵ層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅶ層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
1層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり
2層	暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
3層	にぶい黄褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
4層	褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり
5層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり



H-14 号住居跡層序説明

1層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりややあり

Fig.17　元総社蒼海遺跡群（40）H―11・14号住居跡

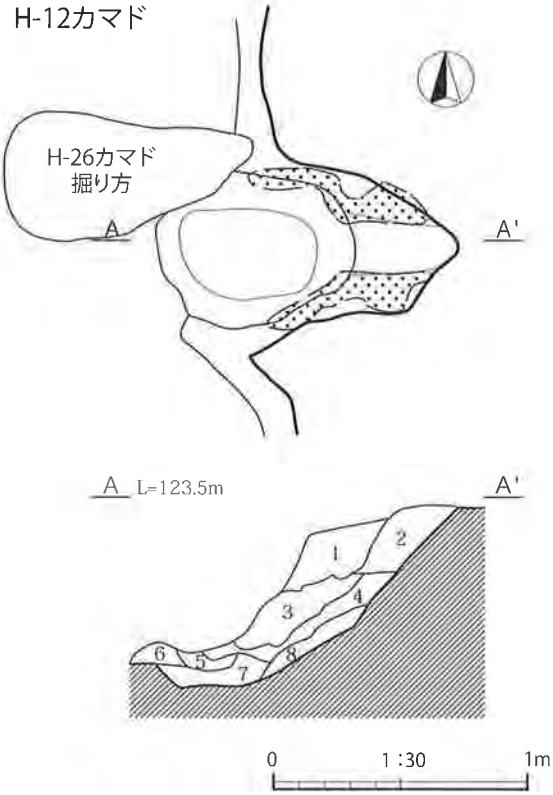


H-12・26 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
5 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い

Fig.18　元総社蒼海遺跡群（40）H－12・26号住居跡（1）

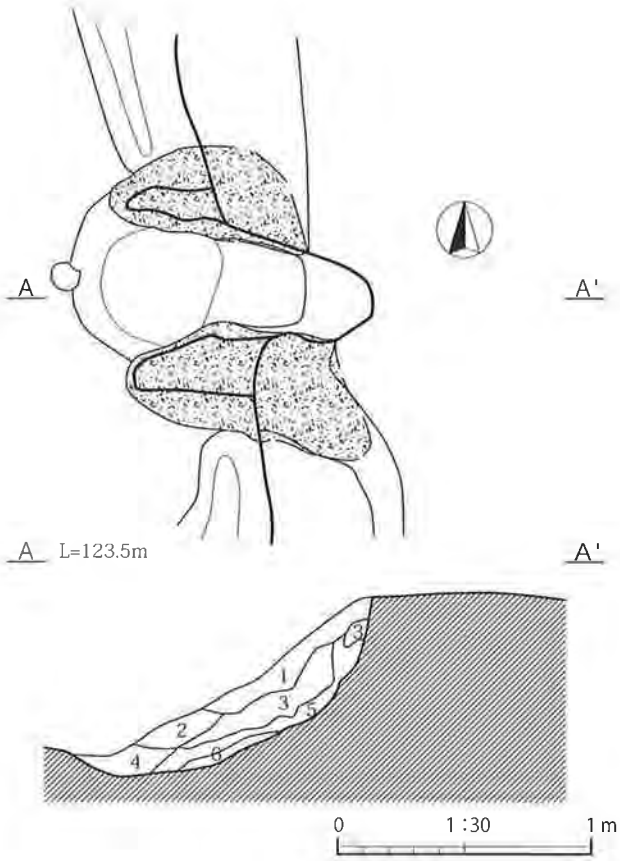
H-12カマド



H-12 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
2 層	極暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
5 層	極暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
8 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

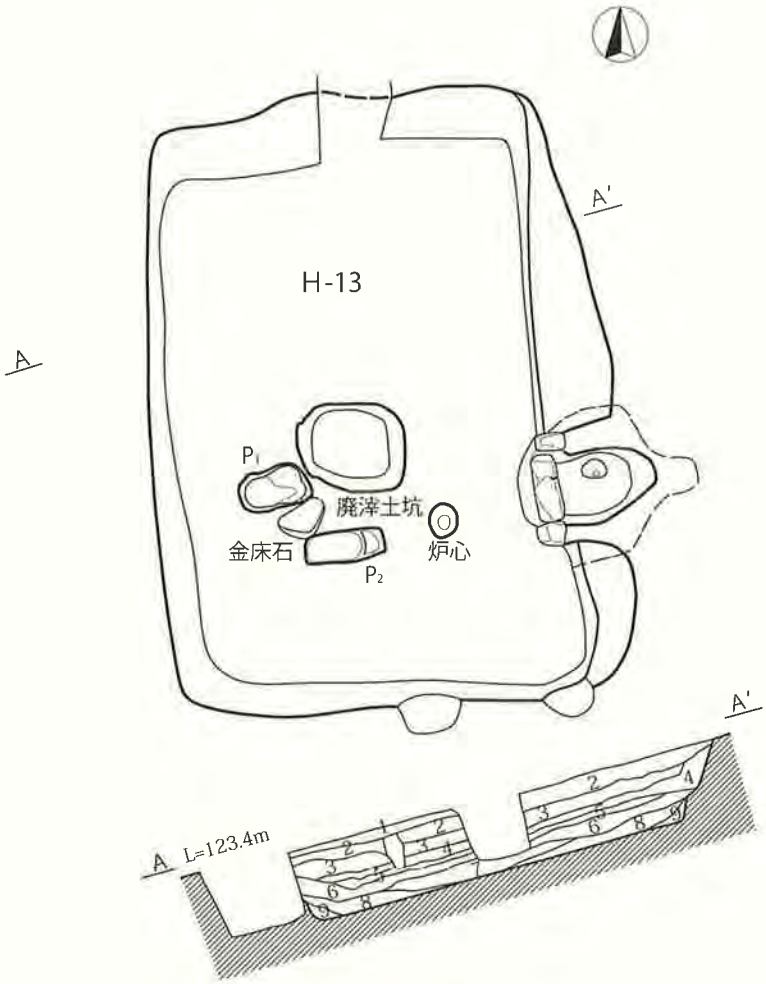
H-26カマド



H-2 6 号住居跡カマド層序説明

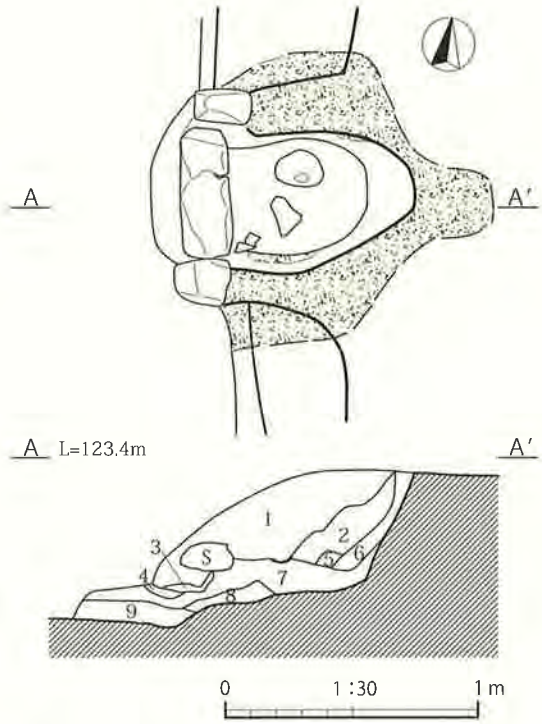
1 層	暗褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
3 層	暗赤褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
5 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
6 層	極暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり

Fig.19　元総社蒼海遺跡群（40）H―12・26号住居跡（2）



H-13 号住居跡層序説明

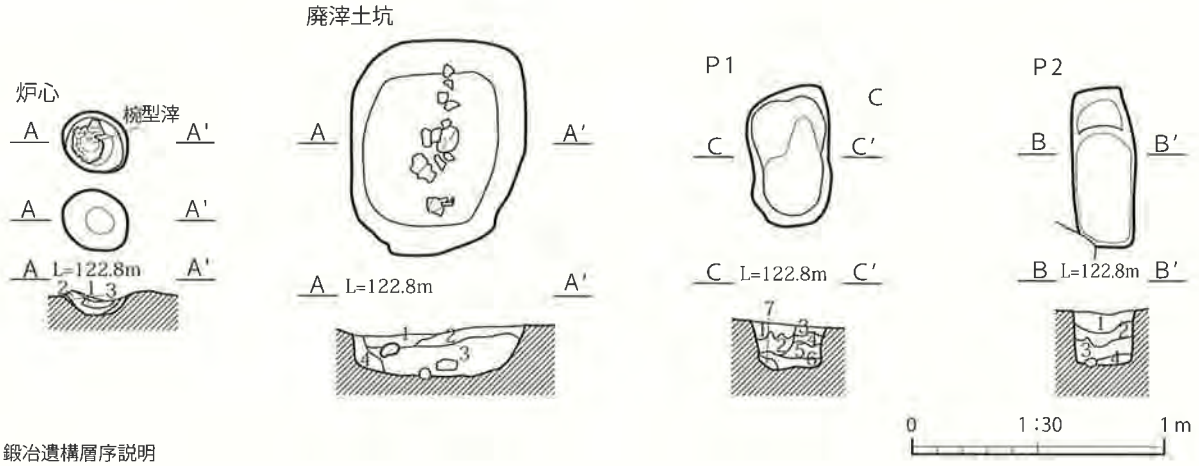
1 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
3 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
5 層	極暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
6 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
8 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
9 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり



H-13 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
9 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.20　元総社蒼海遺跡群（40）H―13号住居跡



鍛冶遺構層序説明

炉心

1層	黒褐色焼成灰層	粘性なし	締まりあり
2層	黒褐色焼成灰層	粘性なし	締まりややあり
3層	黒褐色酸化層	粘性なし	締まりあり

廃滓土坑

1層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
3層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
4層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり

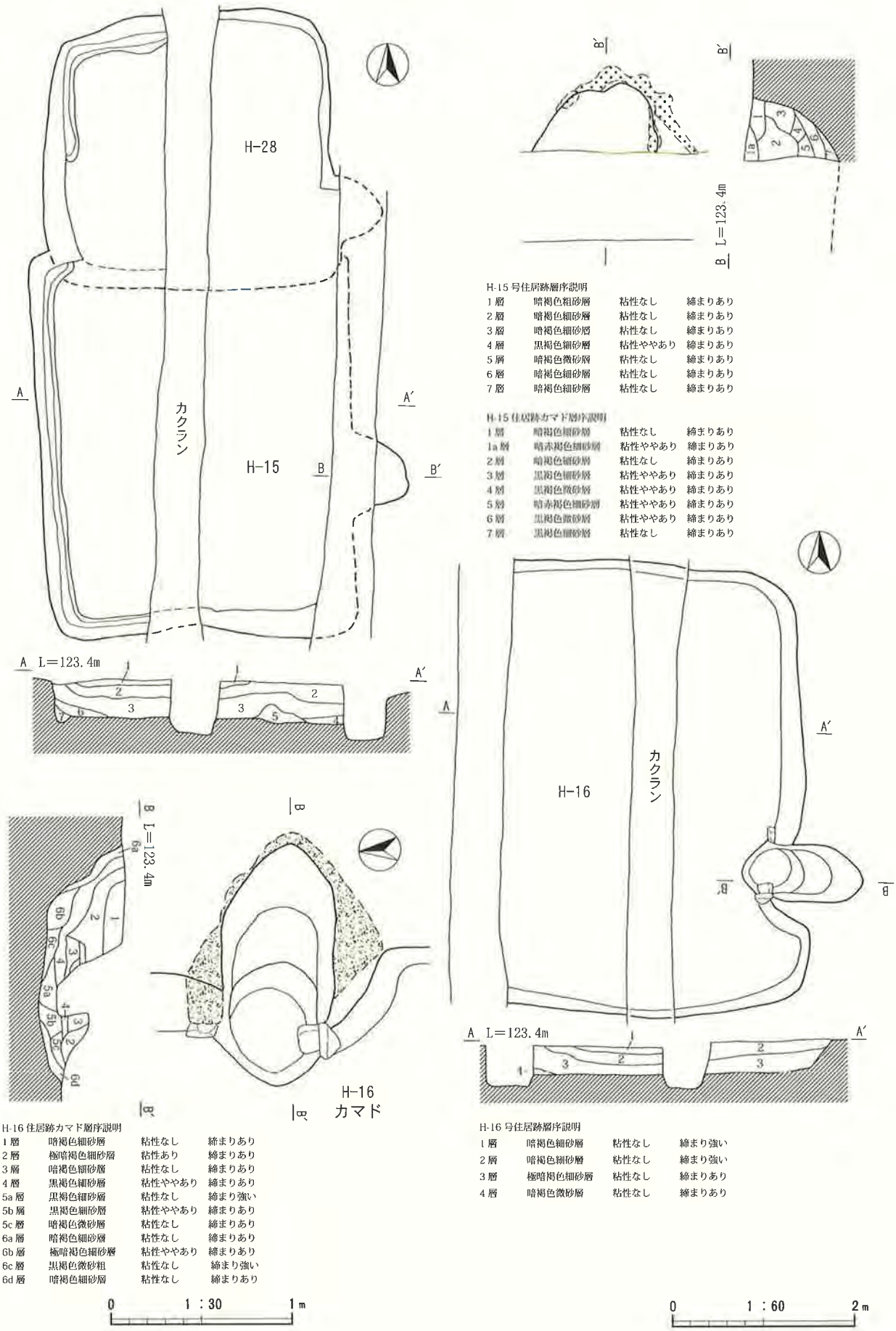
P1

1層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
6層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

P2

1層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

Fig.21　元総社蒼海遺跡群（40）H—13号住居跡、鍛冶遺構



H-15 号住居跡層序説明

1 層	暗褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
5 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

H-15 住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
1a 層	暗赤褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4 層	黒褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり
5 層	暗赤褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
6 層	黒褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

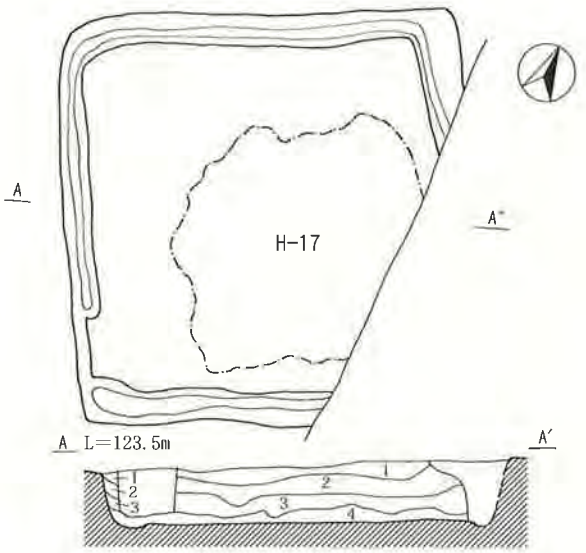
H-16 住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	極暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
5a 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5b 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
5c 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
6a 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6b 層	極暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
6c 層	黒褐色微砂粗	粘性なし	締まり強い
6d 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

H-16 号住居跡層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.22　元総社蒼海遺跡群（40）H―15・16・28号住居跡



H-17 号住居跡層序説明

1 層	褐色粗砂層	粘性ややあり	締まりあり
2 層	褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり
3 層	褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり
4 層	褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり

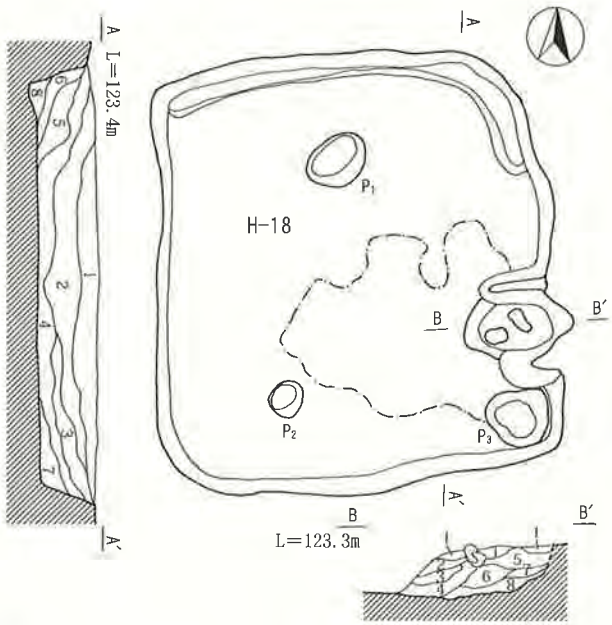
0　1：60　2m

H-18 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	極暗褐色細砂層	粘性あり	締まり強い
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりややあり

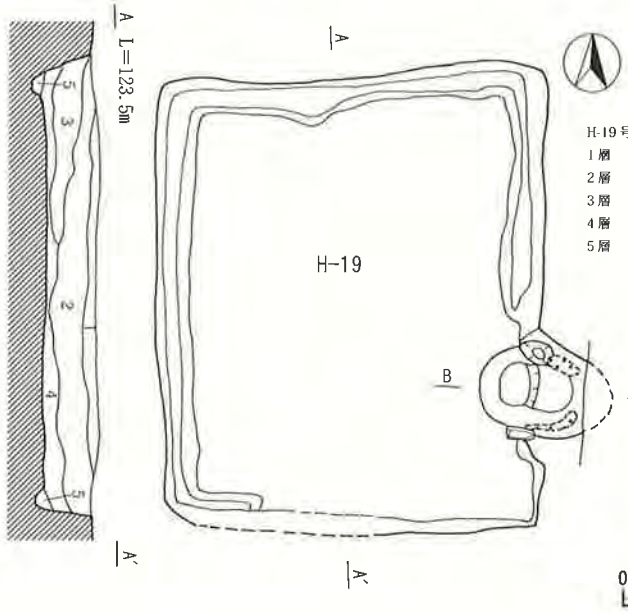
H-18 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4 層	暗褐色微砂層	粘性あり	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
6 層	黒褐色微砂層	粘性あり	締まりあり
7 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
8 層	黒褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり



0　1：60　2m

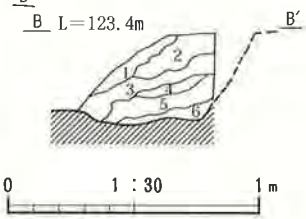
0　1：30　1m



H-19 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
5 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり

0　1：60　2m

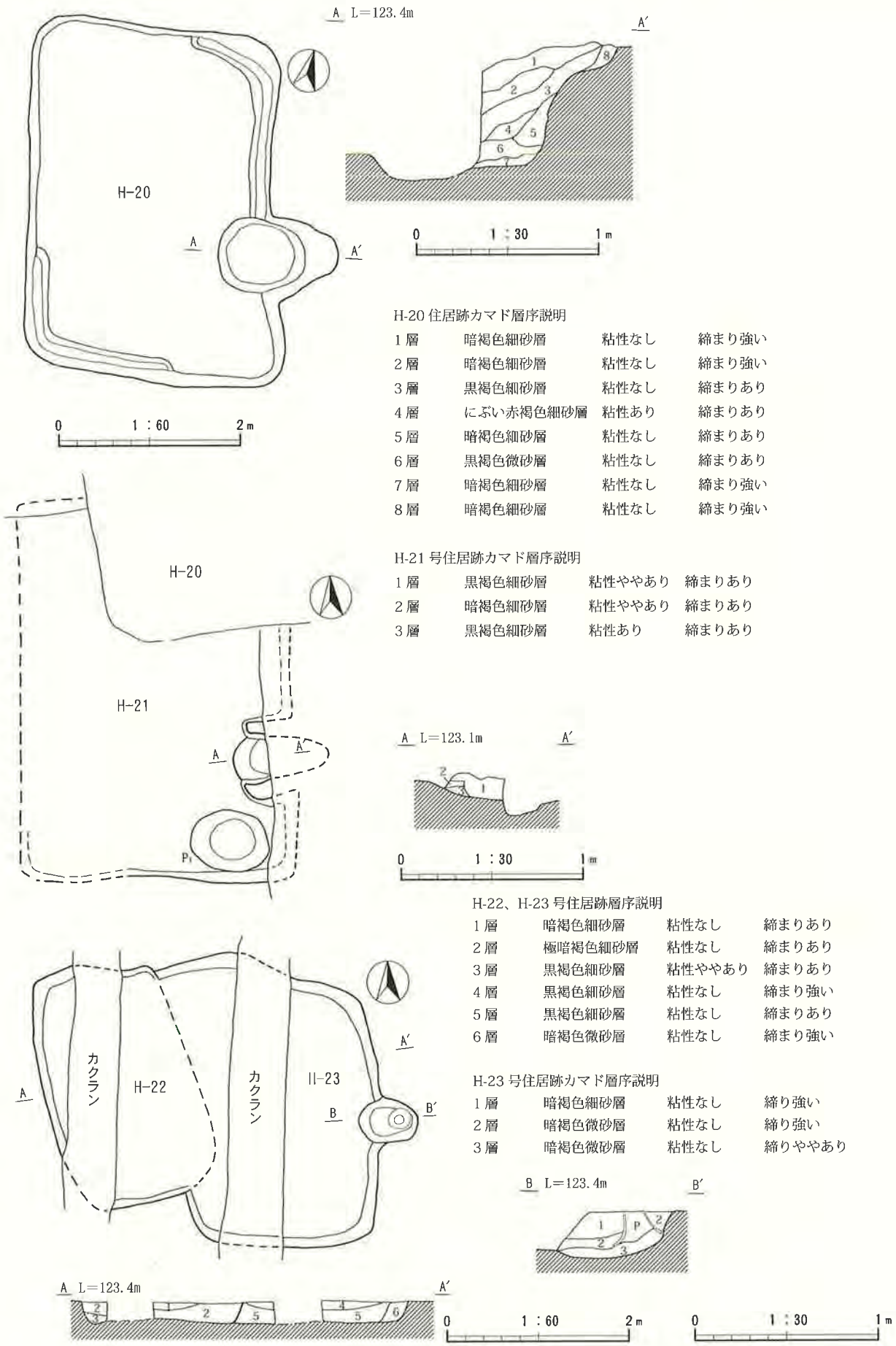


0　1：30　1m

H-19 住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗赤褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
5 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	黒褐色微砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.23　元総社蒼海遺跡群（40）H―17・18・19号住居跡



H-20 住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	にぶい赤褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	黒褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

H-21 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり

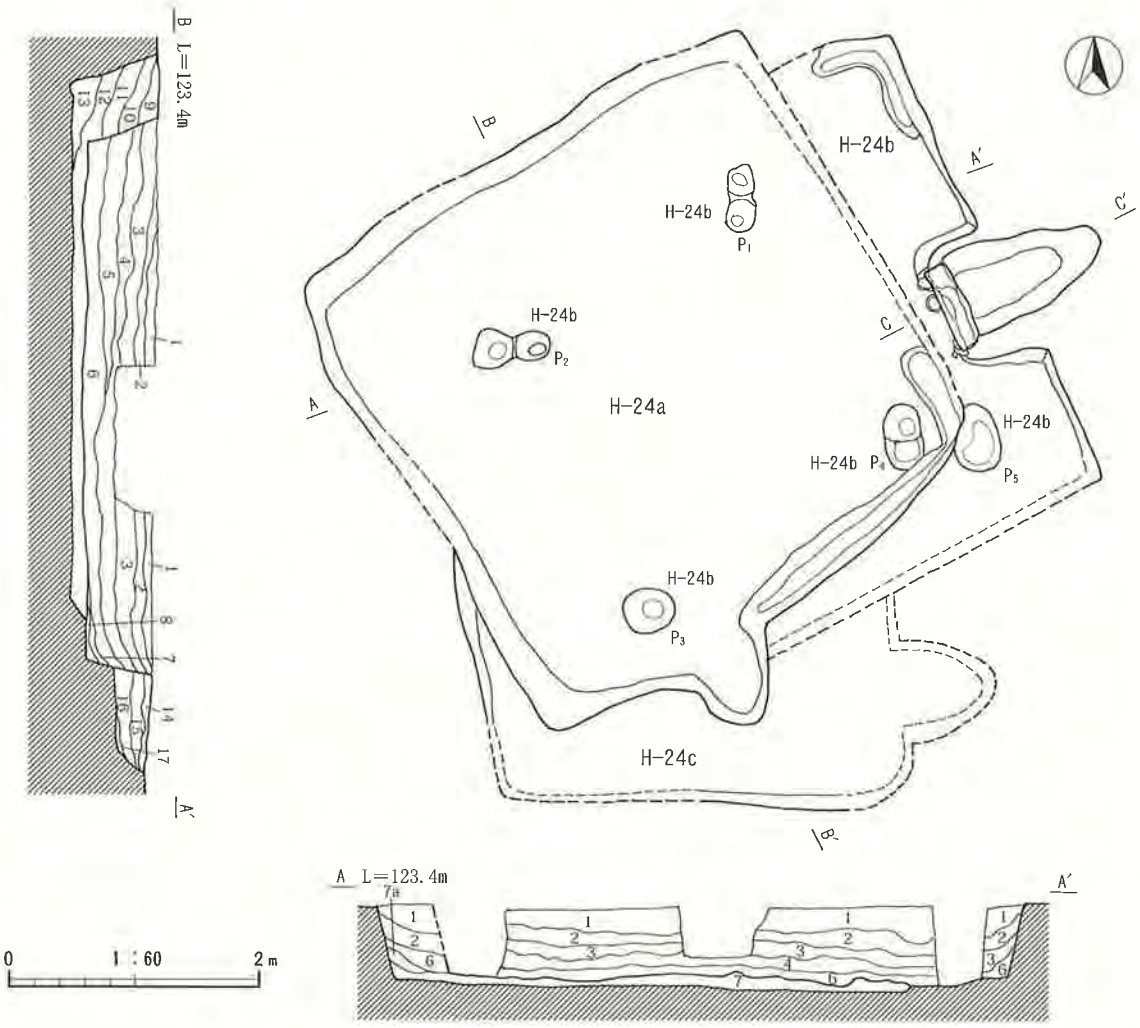
H-22、H-23 号住居跡層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まり強い

H-23 号住居跡カマド層序説明

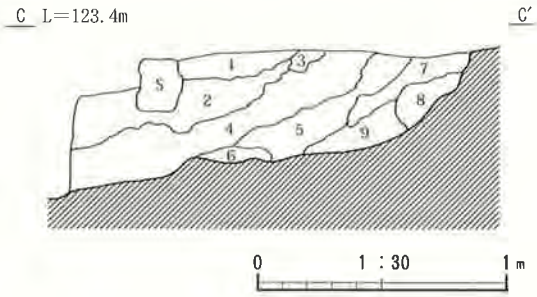
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締り強い
2 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締り強い
3 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締りややあり

Fig.24　元総社蒼海遺跡群（40）H―20・21・22・23号住居跡



H-24 号住居跡層序説明

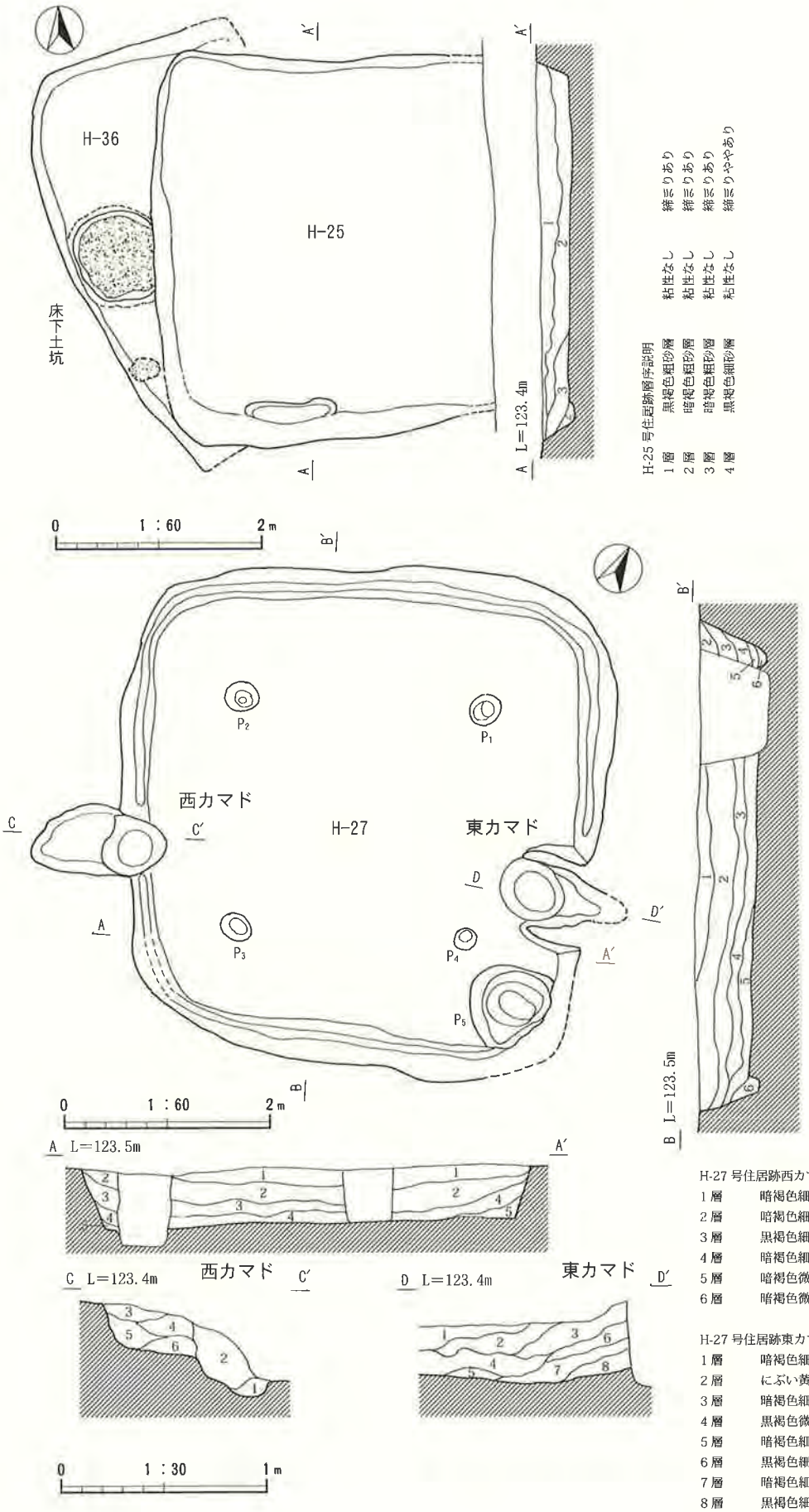
1 層	暗褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
7a 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
8 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まり強い
9 層	黒褐色	粘性ややあり	締まりあり
10 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
11 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
12 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
13 層	黒褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
14 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
15 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
16 層	黒褐色微砂層	粘性あり	締まりあり
17 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり



H-24b 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
8 層	暗赤褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
9 層	黒褐色微砂層	粘性あり	締まりあり

Fig.25　元総社蒼海遺跡群（40）H－24号住居跡



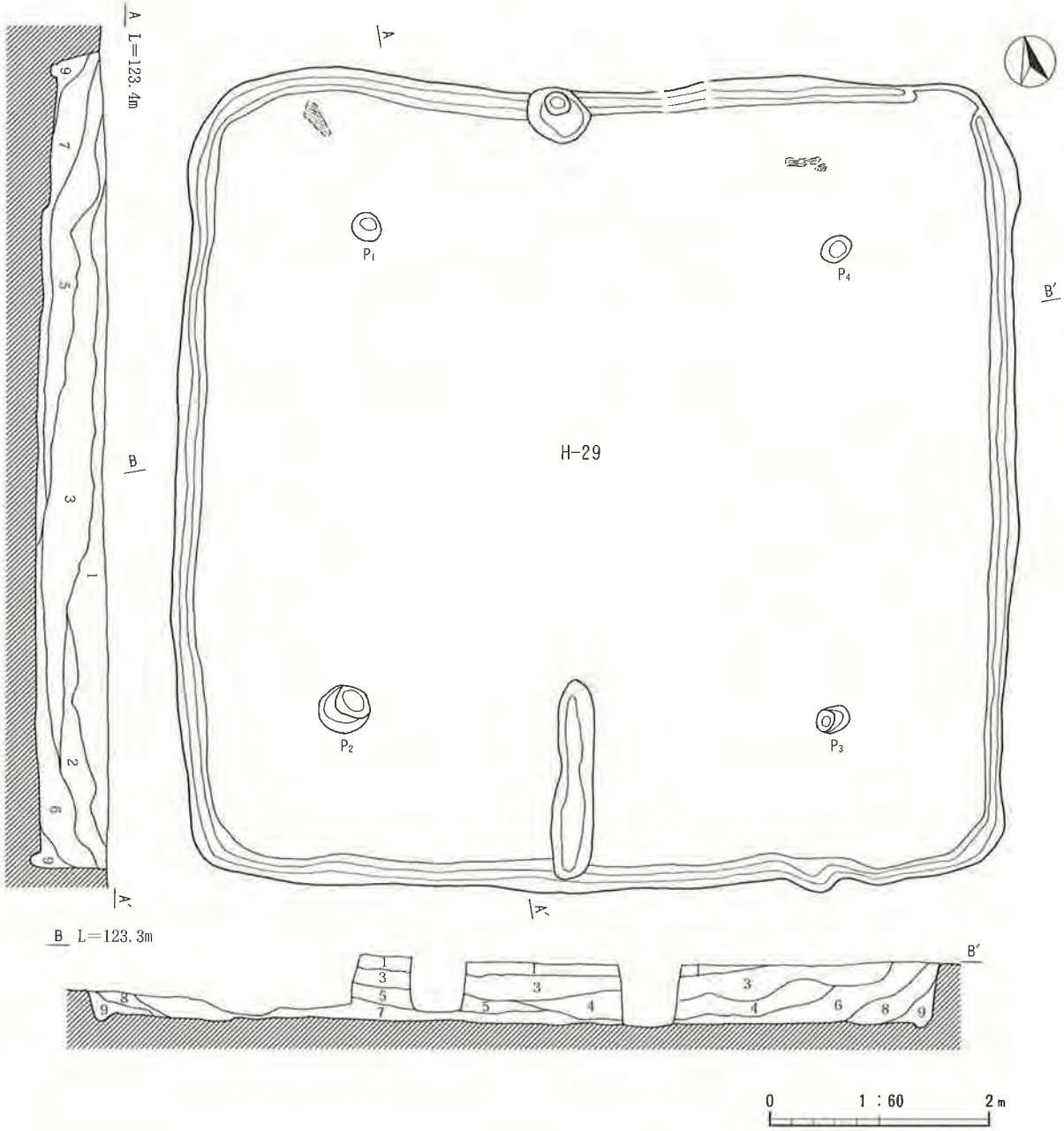
H-27 号住居跡西カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり

H-27 号住居跡東カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4 層	黒褐色微砂層	粘性ややあり	締まり強い
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
6 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い
7 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
8 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり

Fig.26　元総社蒼海遺跡群（40）H―25・27・36号住居跡



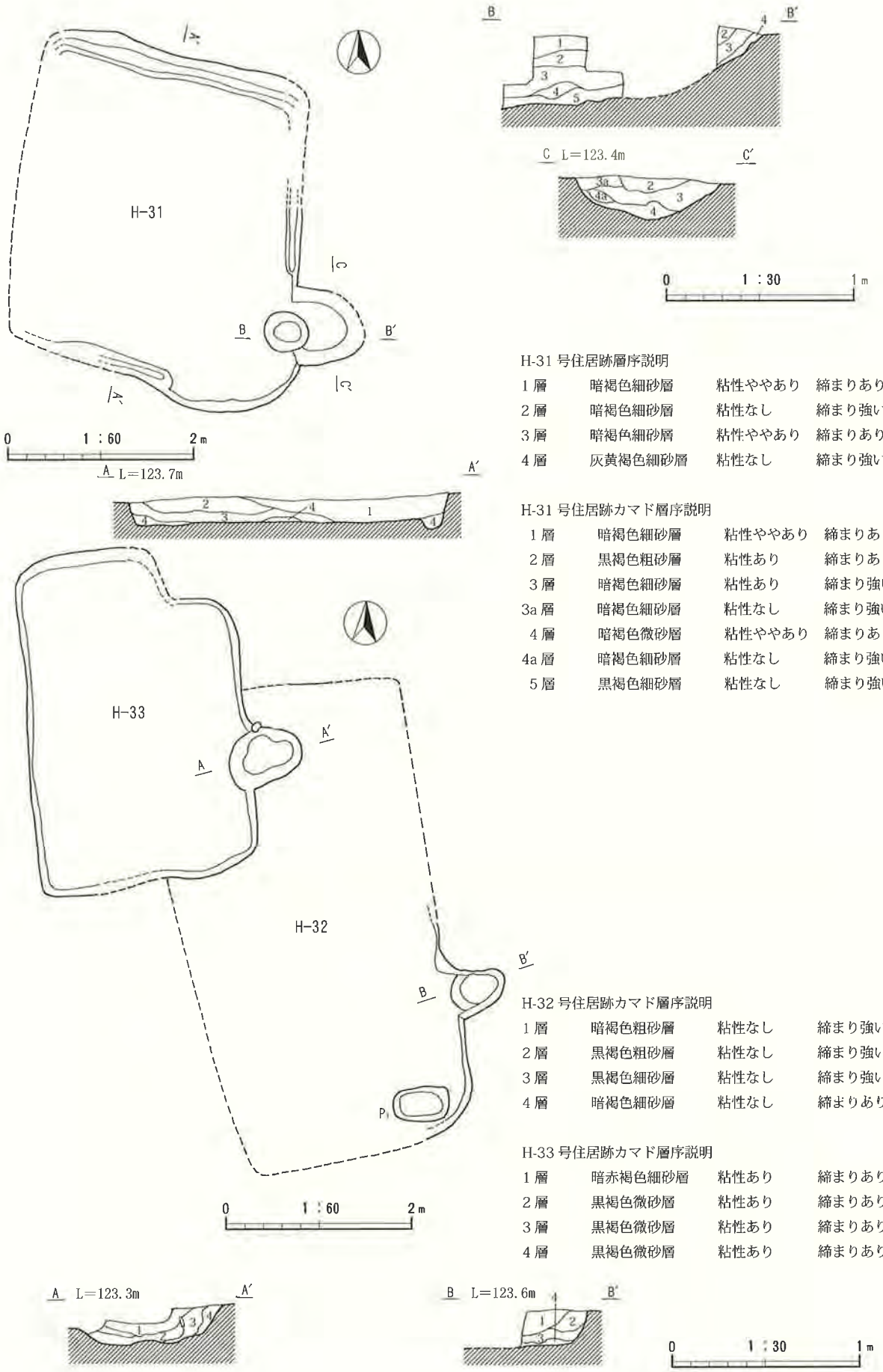
H-29 号住居跡東西層序説明

1 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
8 層	黒褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
9 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり

H-29 号住居跡南北層序説明

1 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
9 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.27　元総社蒼海遺跡群（40）H―29号住居跡



H-31 号住居跡層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4 層	灰黄褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

H-31 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
2 層	黒褐色粗砂層	粘性あり	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性あり	締まり強い
3a 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	暗褐色微砂層	粘性ややあり	締まりあり
4a 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

H-32 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

H-33 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗赤褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
2 層	黒褐色微砂層	粘性あり	締まりあり
3 層	黒褐色微砂層	粘性あり	締まりあり
4 層	黒褐色微砂層	粘性あり	締まりあり

Fig.28　元総社蒼海遺跡群（40）H―31・32・33号住居跡

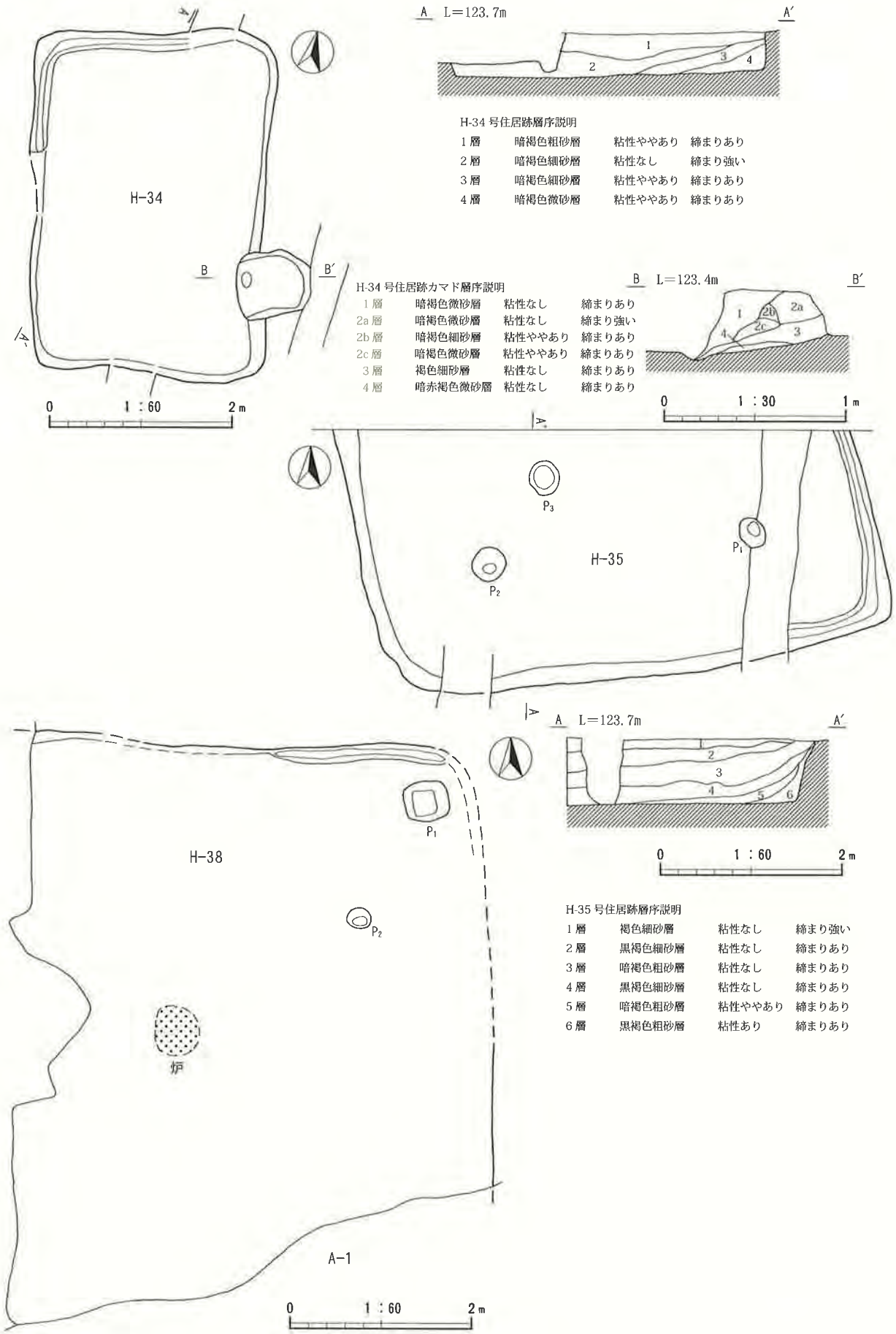
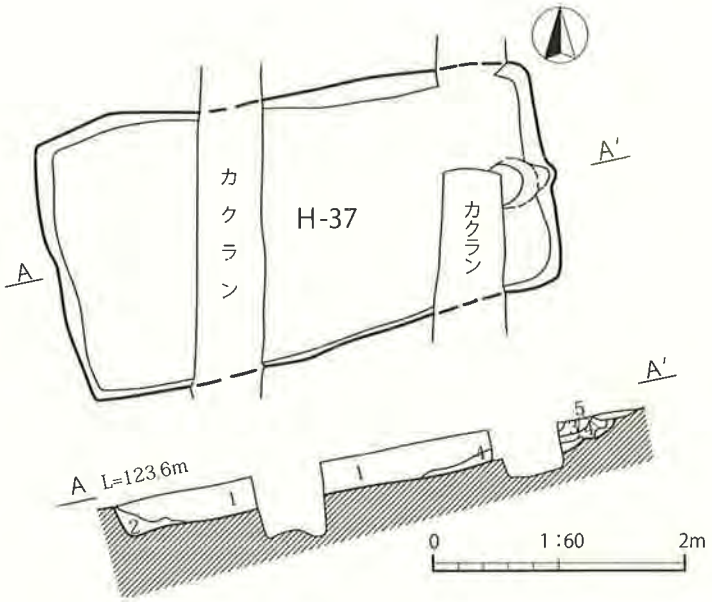
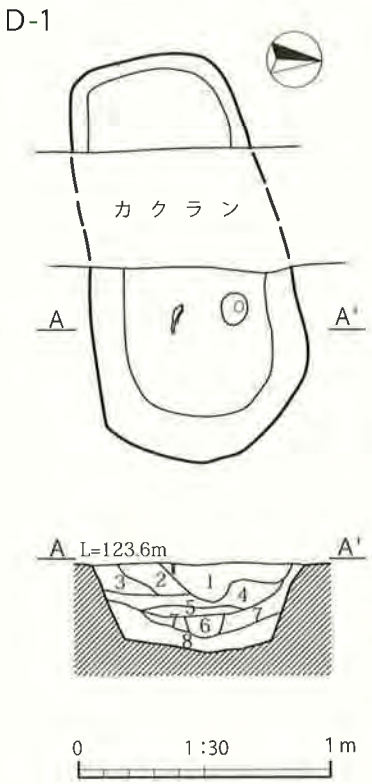


Fig.29　元総社蒼海遺跡群（40）H―34・35・38号住居跡



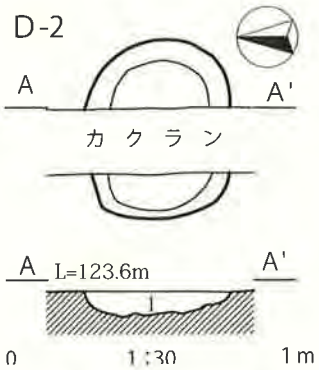
H-37 号住居跡層序説明

1 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり



D-1 号土坑層序説明

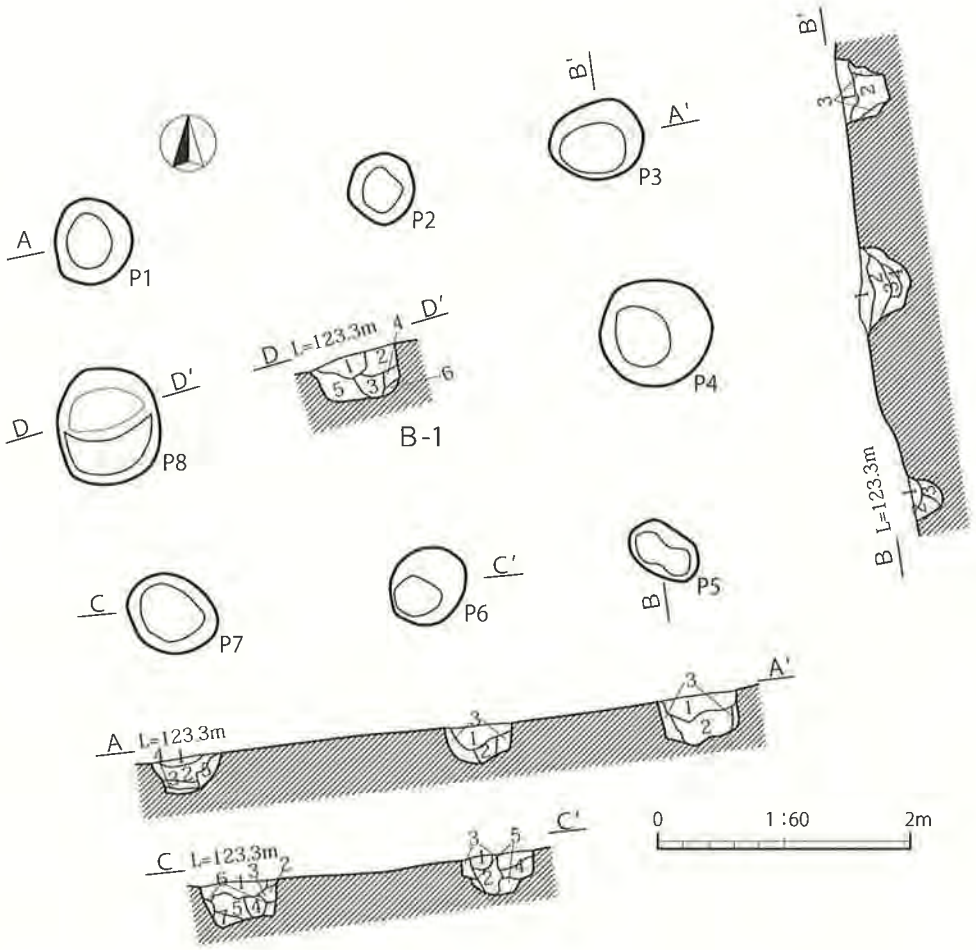
1 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
5 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
8 層	暗褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり



D-2 号土坑層序説明

1 層	黒褐色細砂層
	粘性なし
	締まりあり

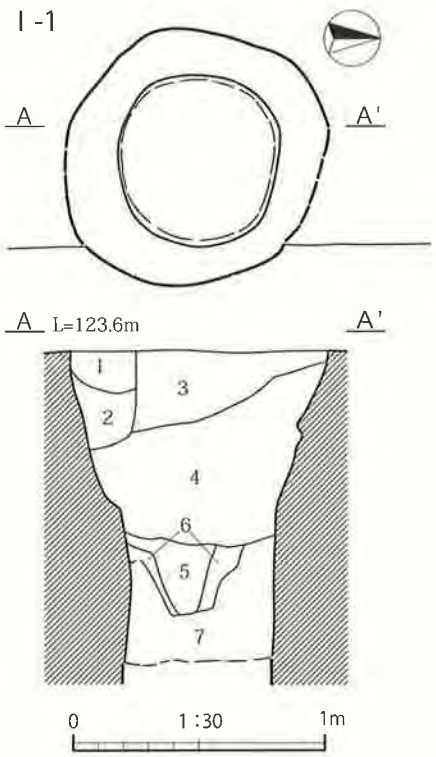
Fig.30　元総社蒼海遺跡群（40）H―37号住居跡、D―1・2号土坑



B-1 号掘立柱建物跡層序説明

P 1			
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
P 2			
1 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
2 層	極暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
P 3			
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
P 4			
1 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
2 層	極暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
5 層	極暗褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
P 5			
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
P 6			
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
P 7			
1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
P 8			
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり

Fig.31　元総社蒼海遺跡群（40）Ｂ－１号掘立柱建物跡



I-1 号井戸跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.32　元総社蒼海遺跡群（40）Ⅰ－1号井戸跡

Fig.33　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（1）

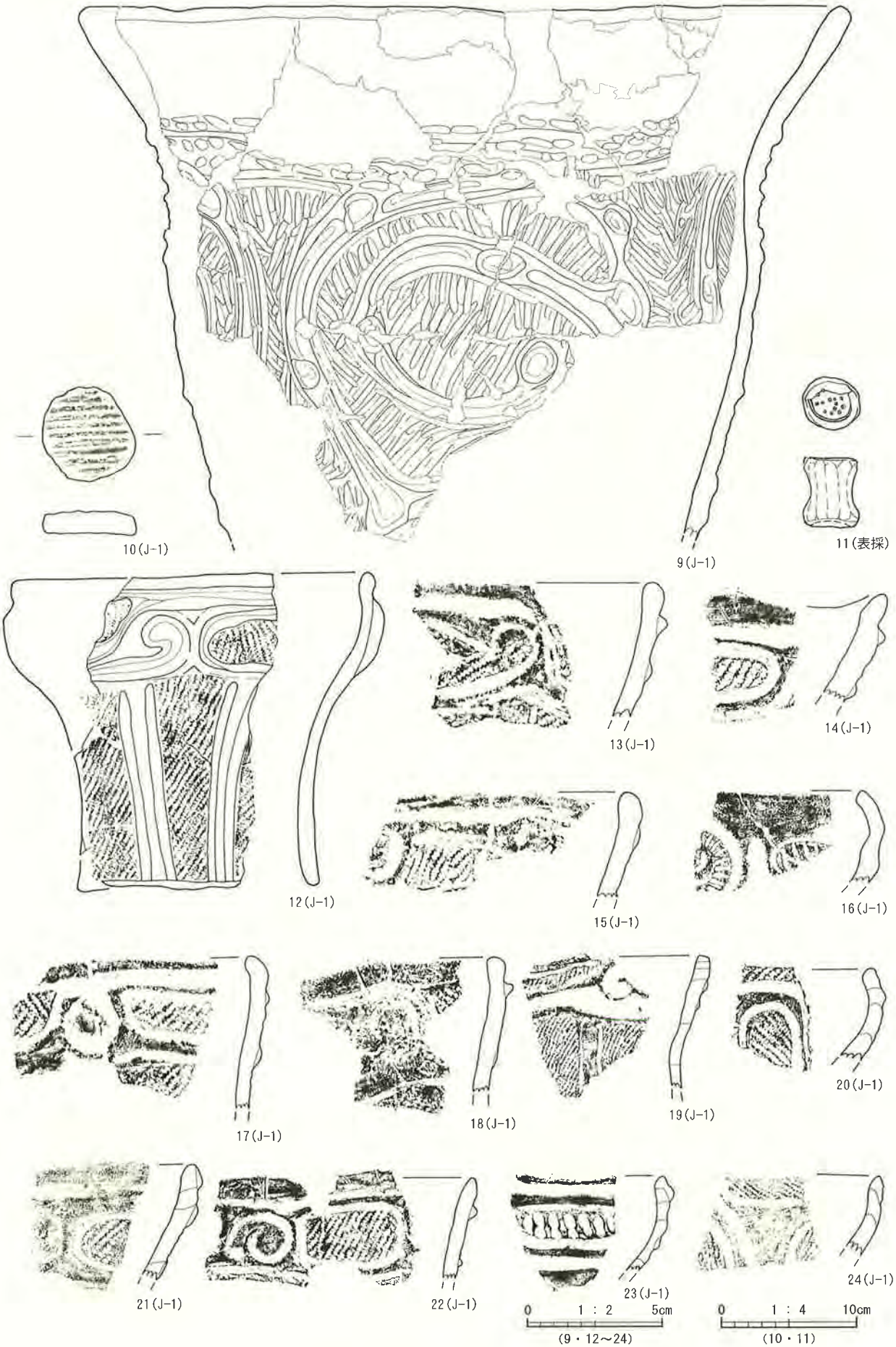


Fig.34　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（2）

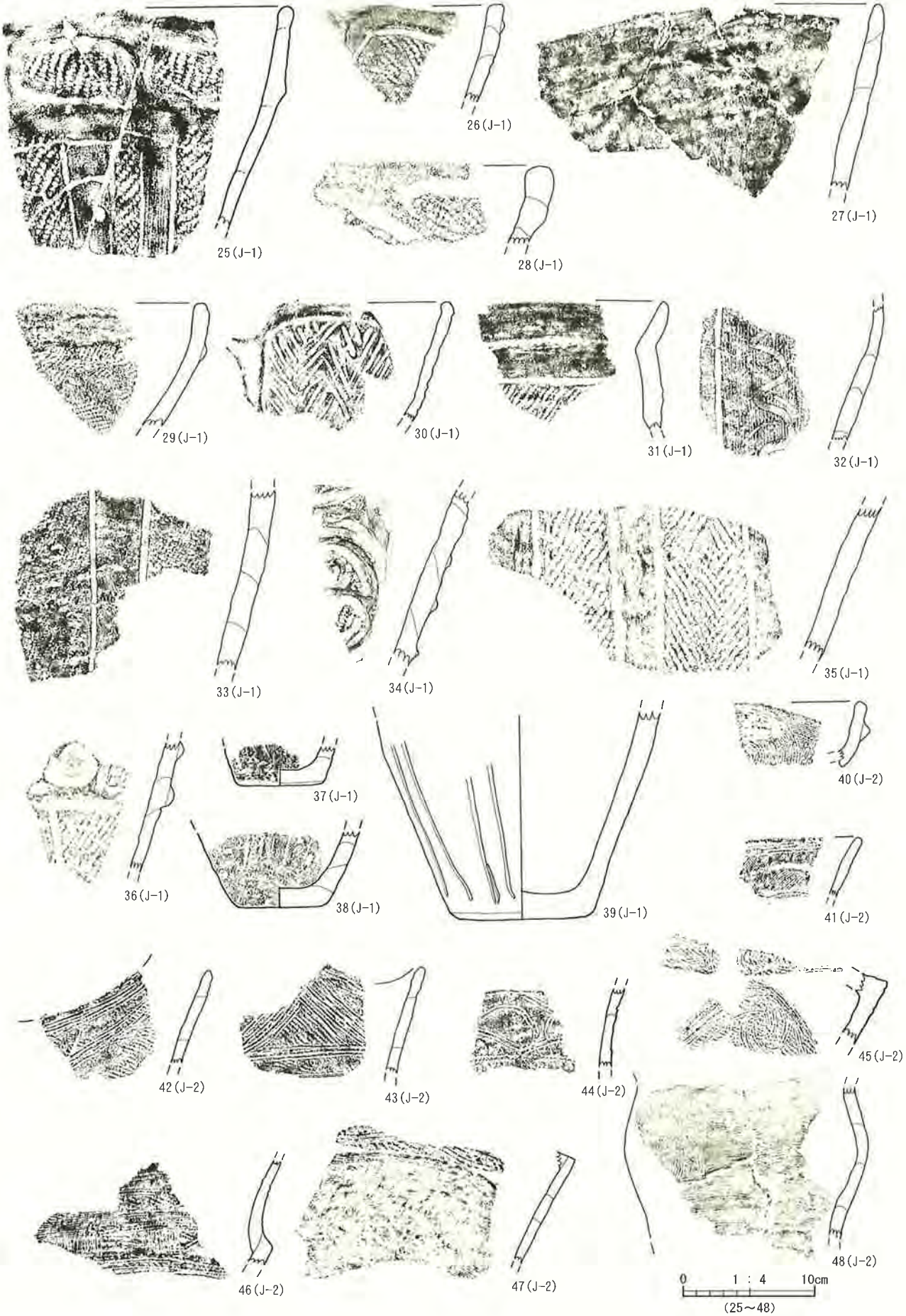


Fig.35　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（3）

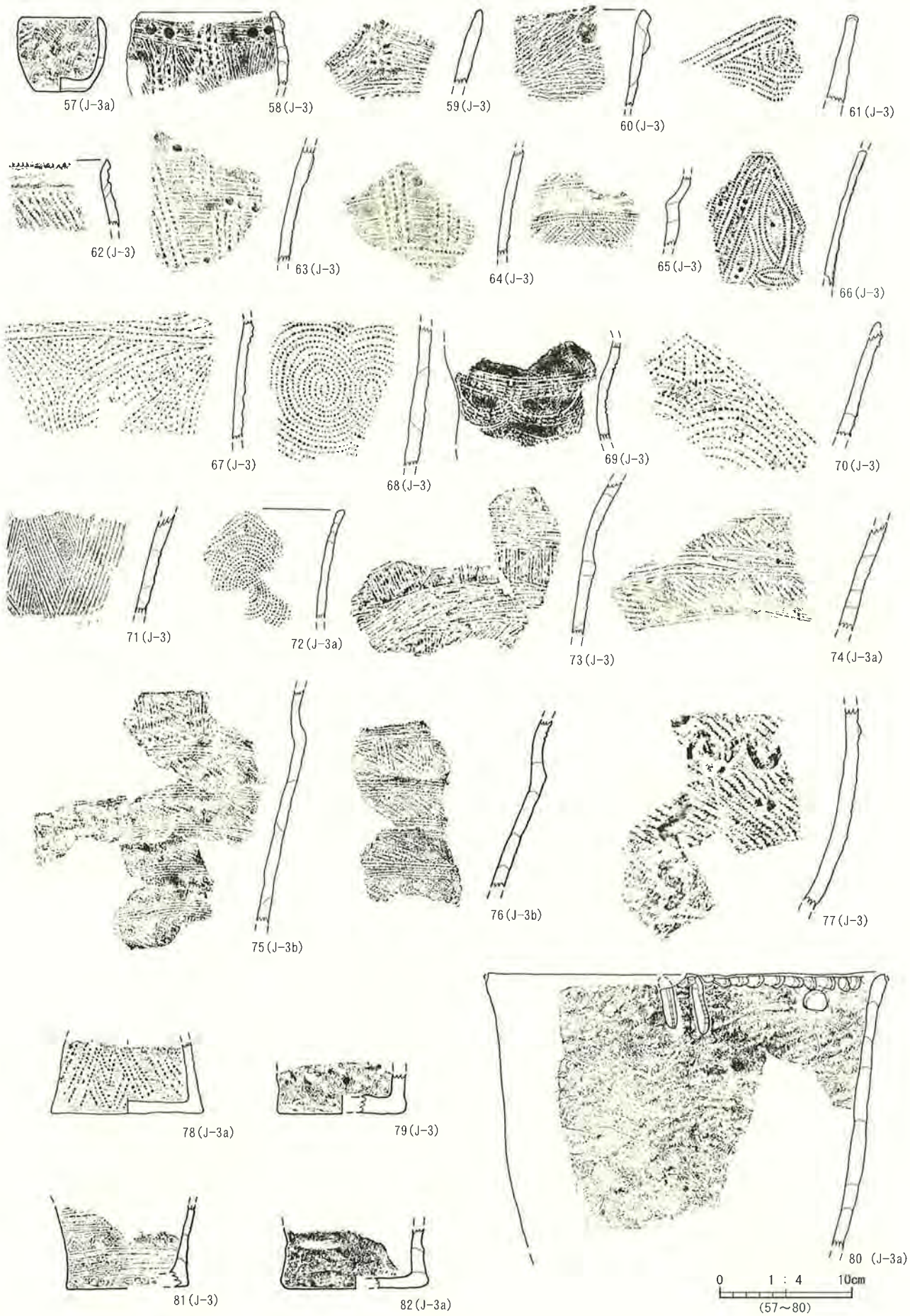


Fig.36　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（4）

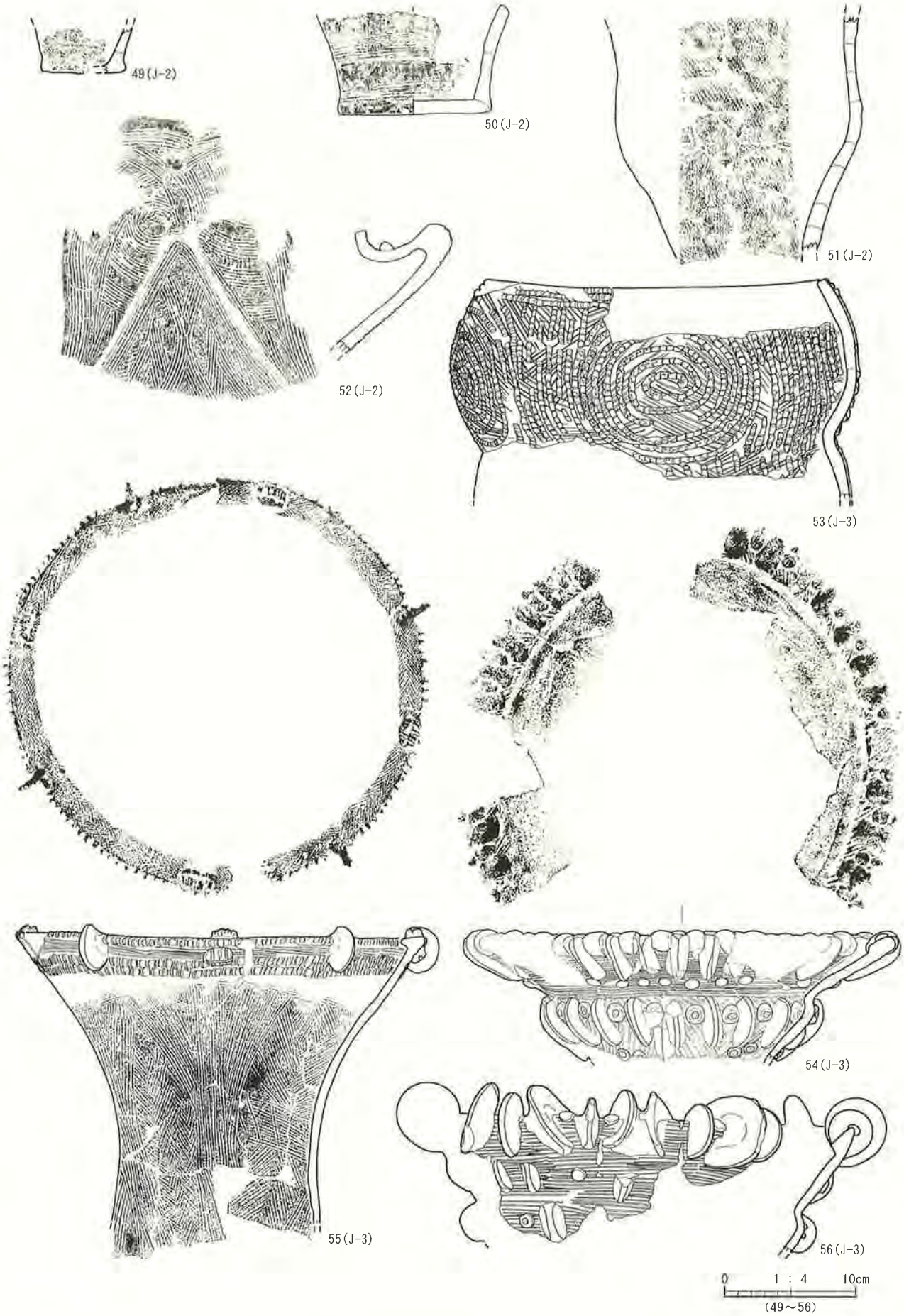


Fig.37　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（5）

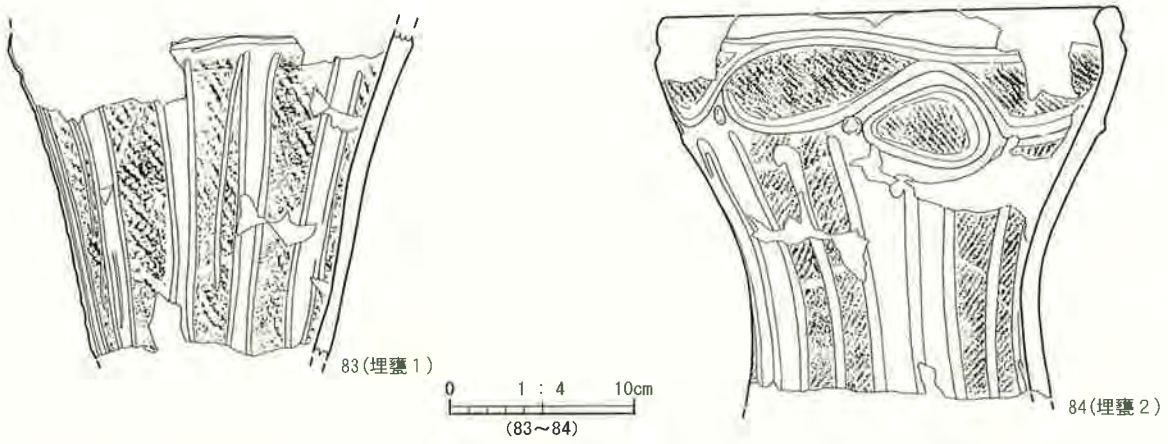


Fig.38　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・土器（6）

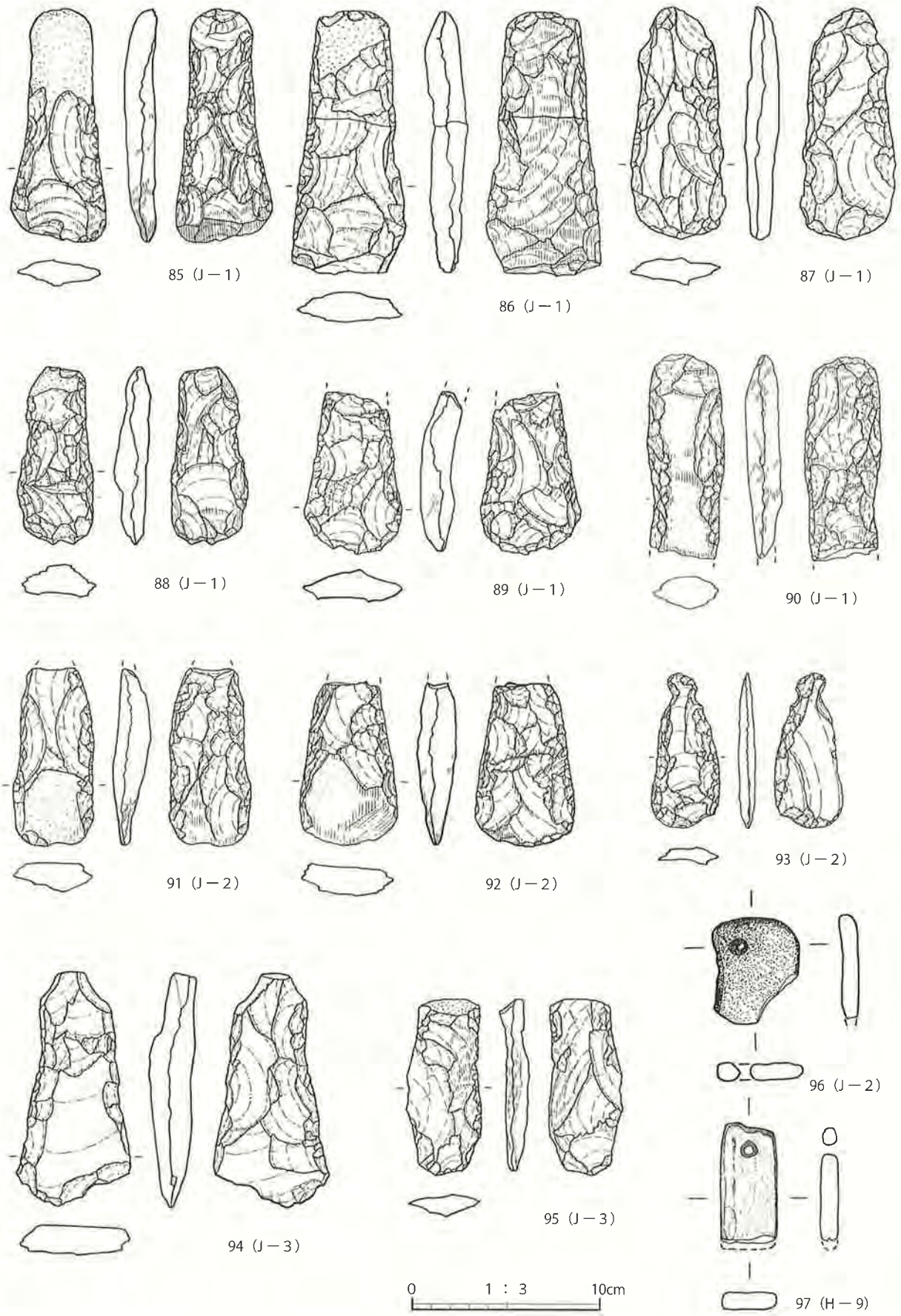


Fig.39　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・石器（1）

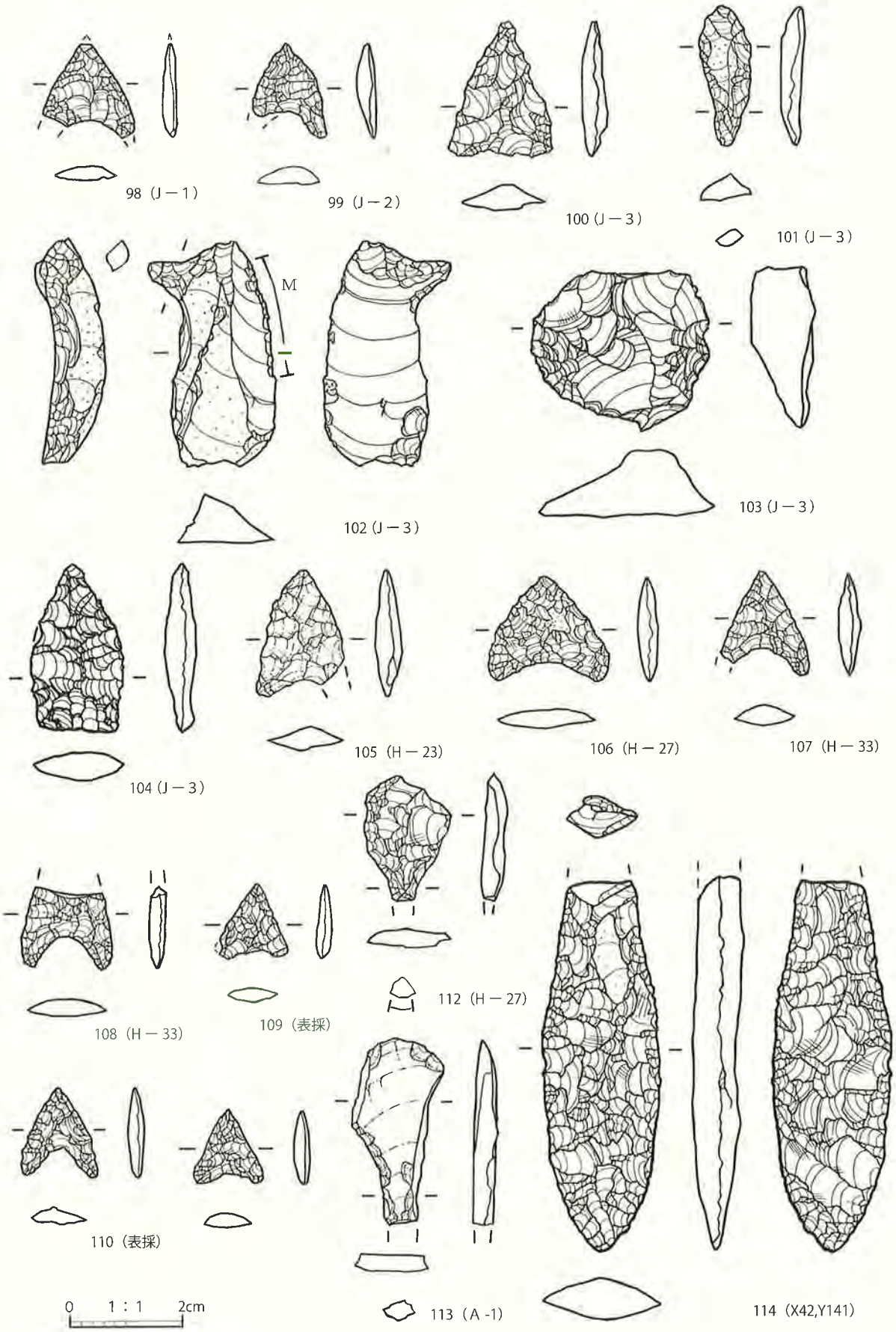


Fig.40　元総社蒼海遺跡群（40）縄文時代出土遺物・石器（2）

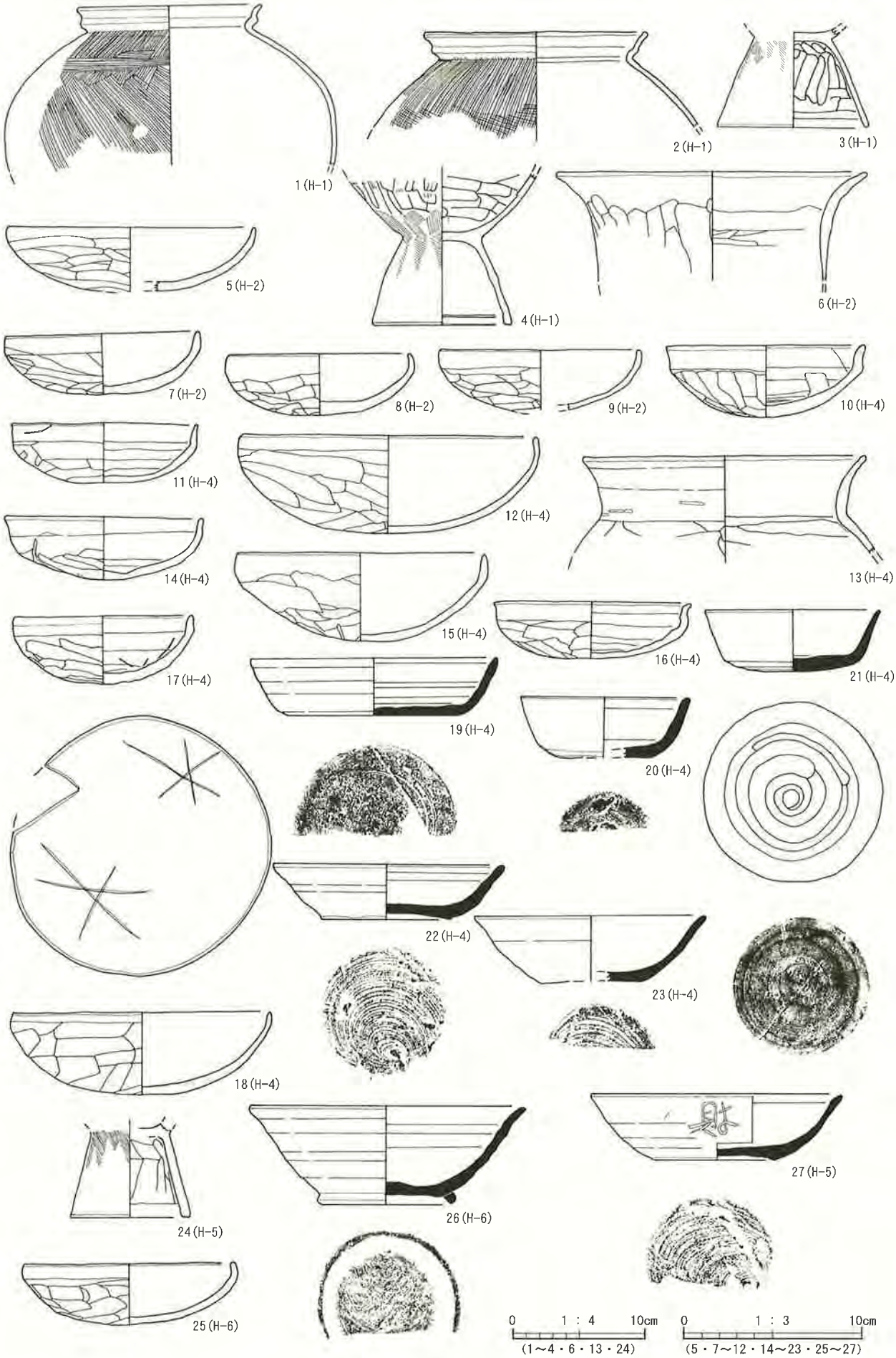


Fig.41 元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（1）

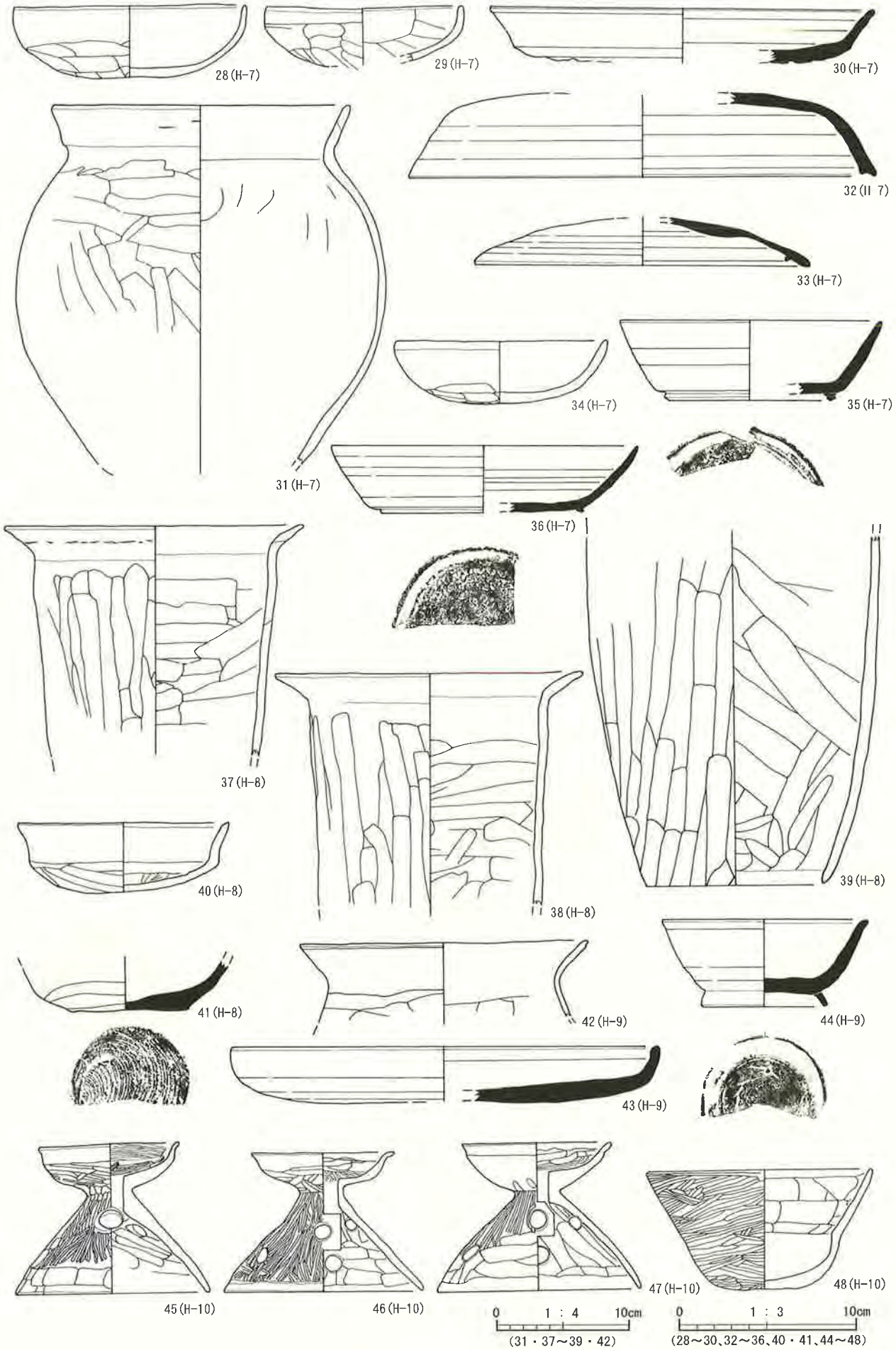


Fig.42　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（2）

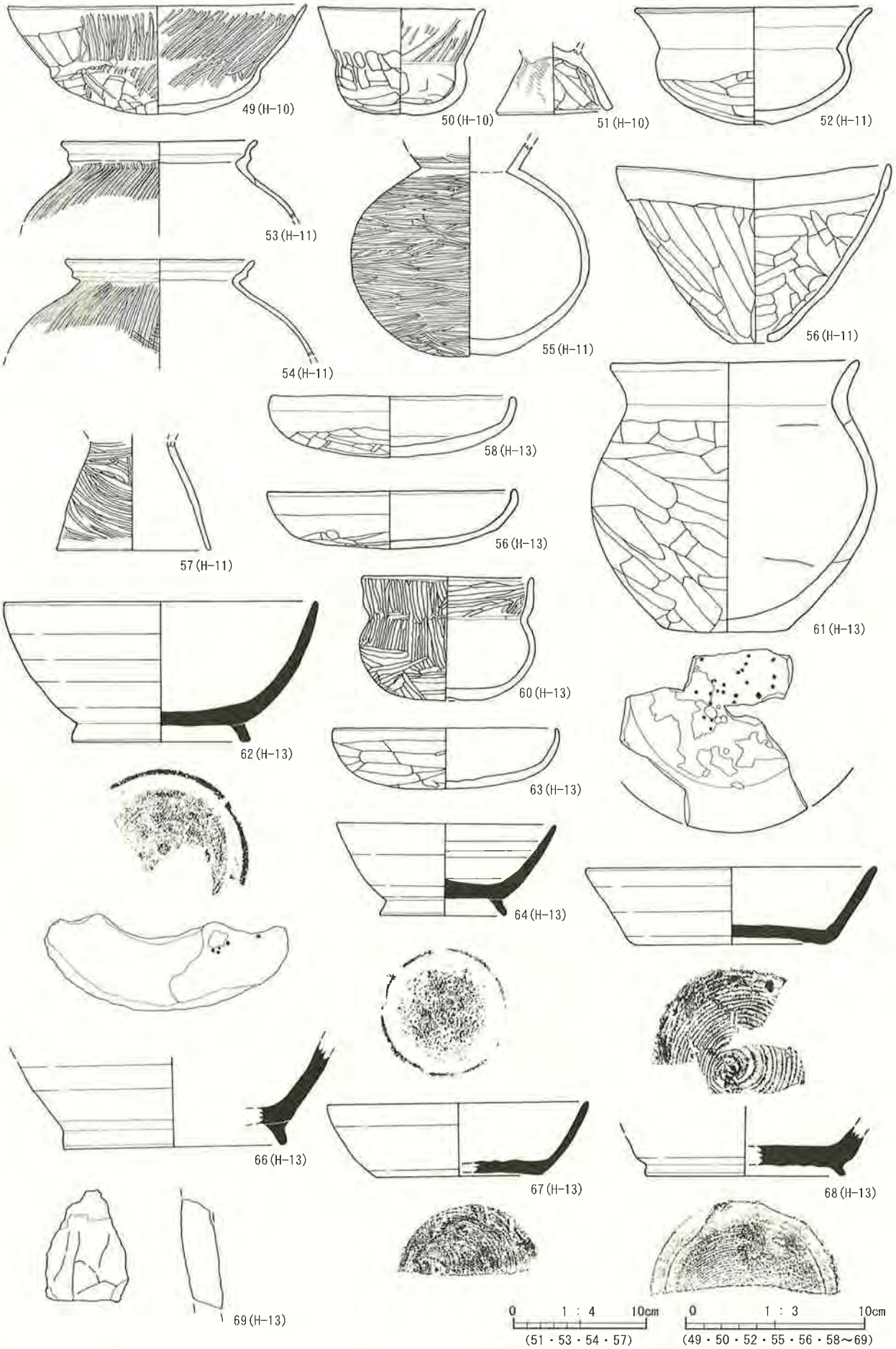


Fig.43　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（3）

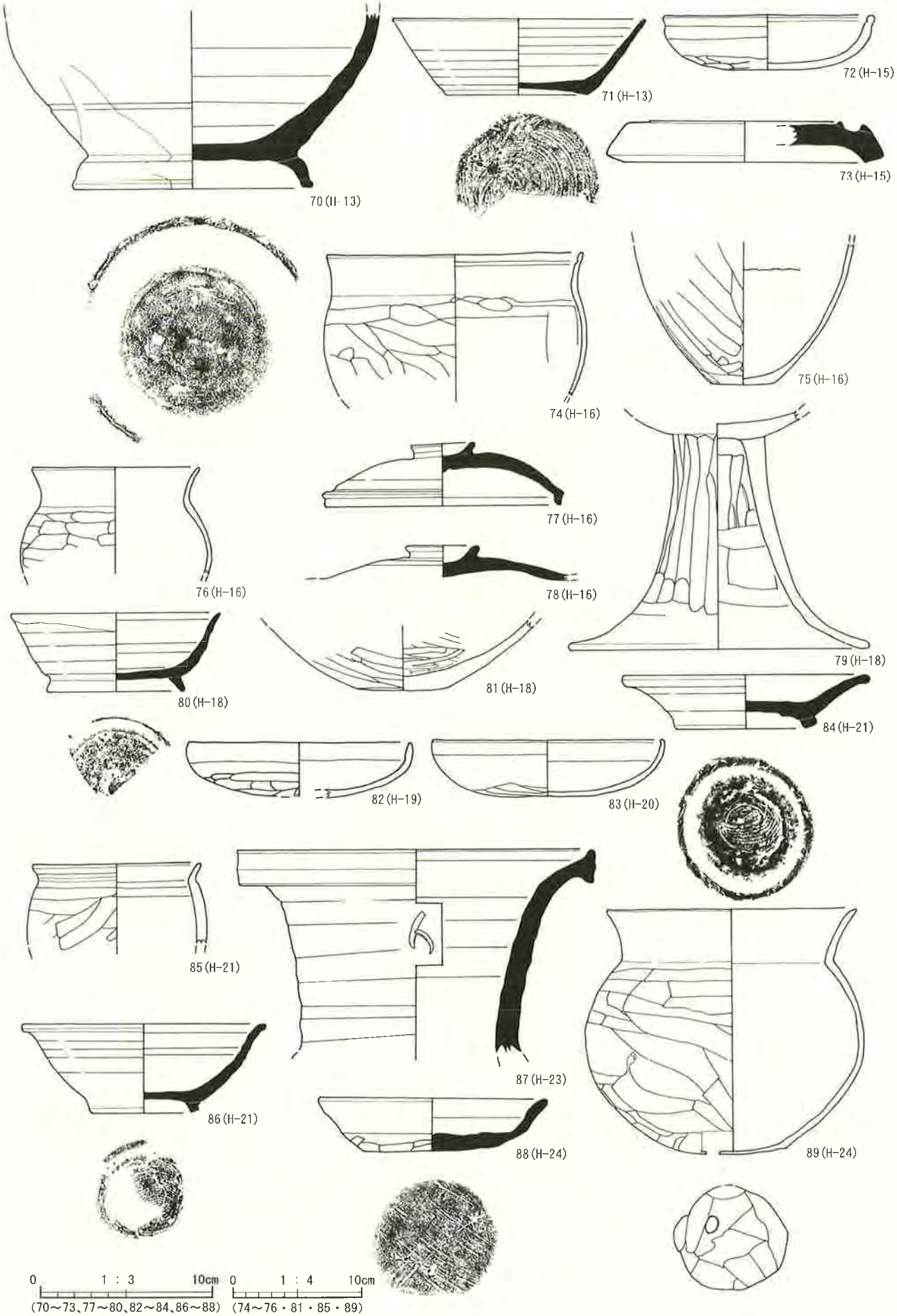


Fig.44　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（4）

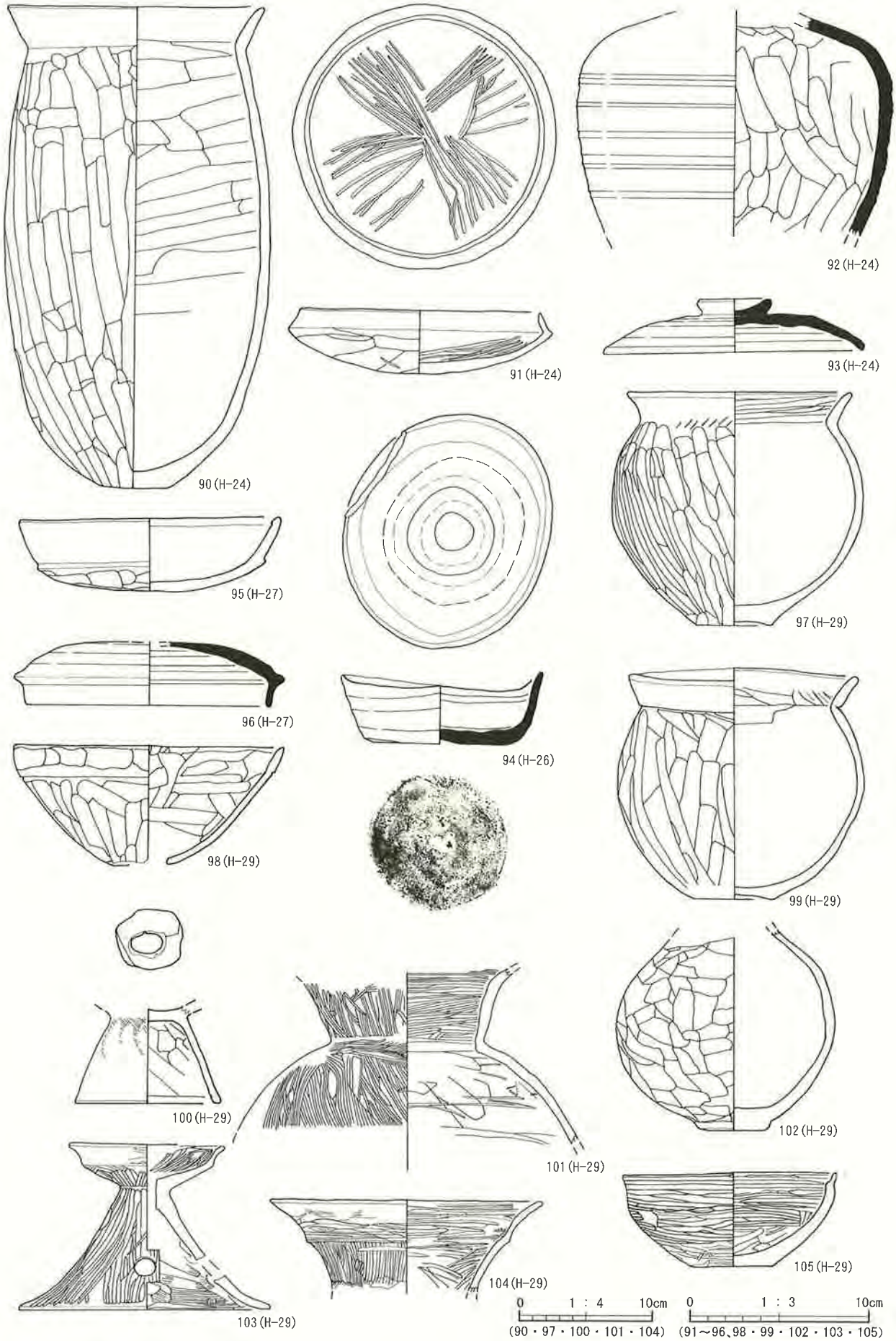


Fig.45　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（5）

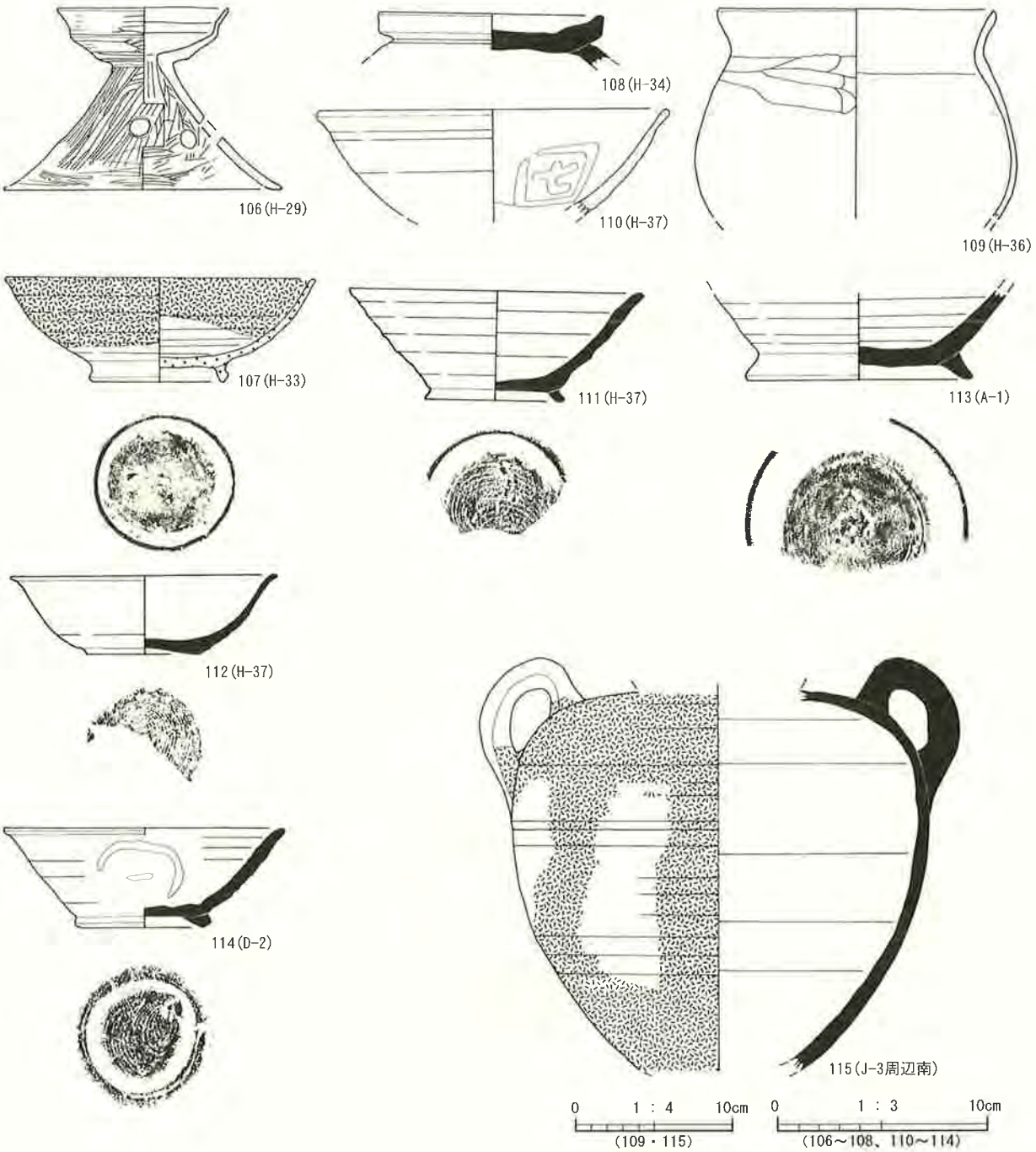


Fig.46　元総社蒼海遺跡群（40）出土遺物（6）

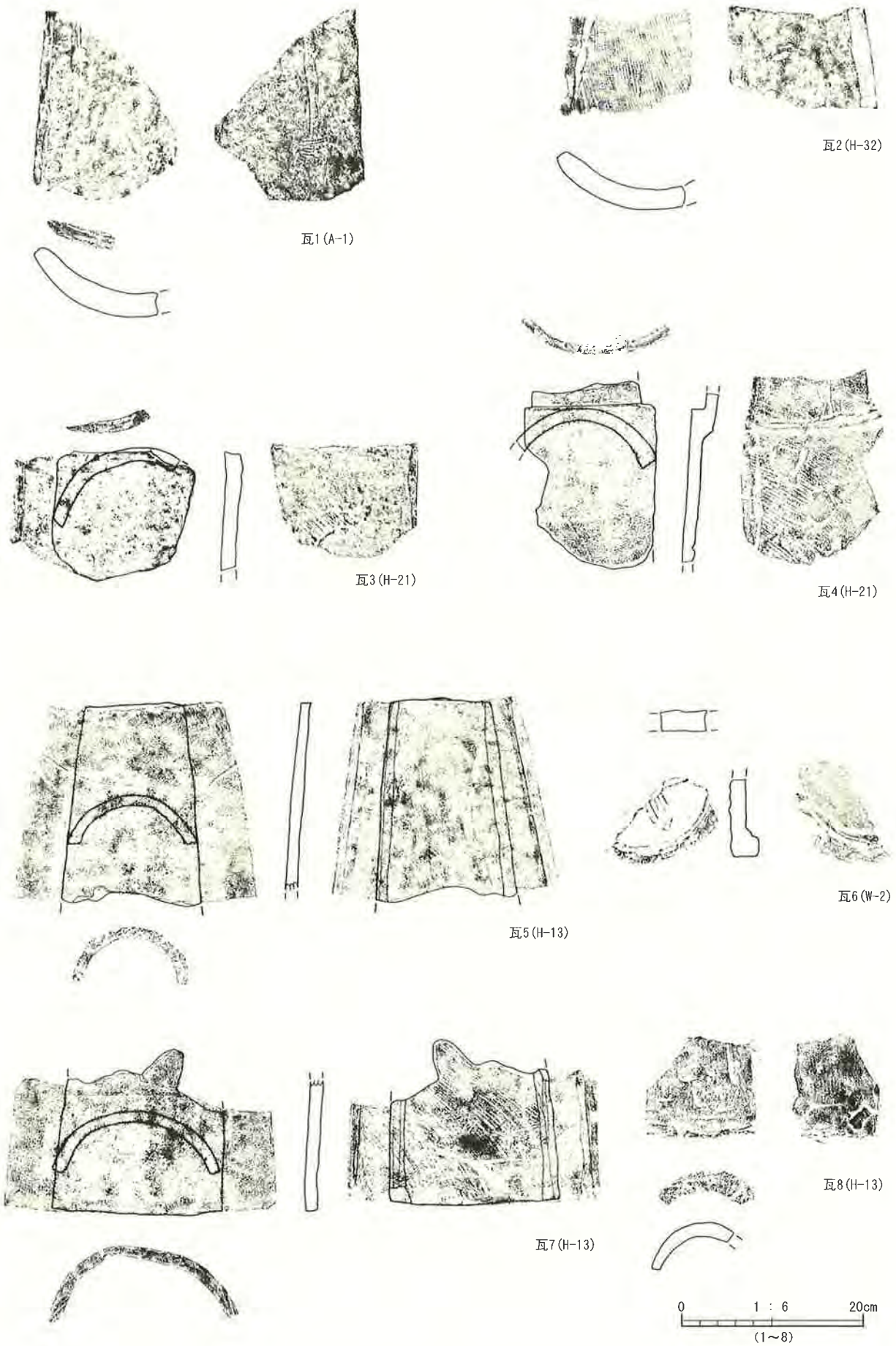


Fig.47　元総社蒼海遺跡群（40）出土瓦

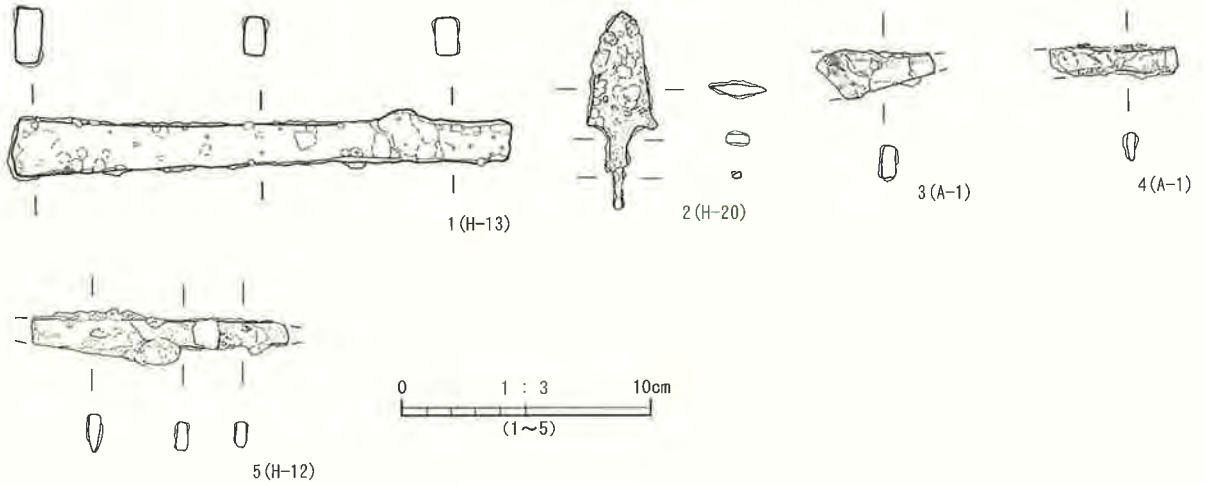


Fig.48　元総社蒼海遺跡群（40）出土鉄製品

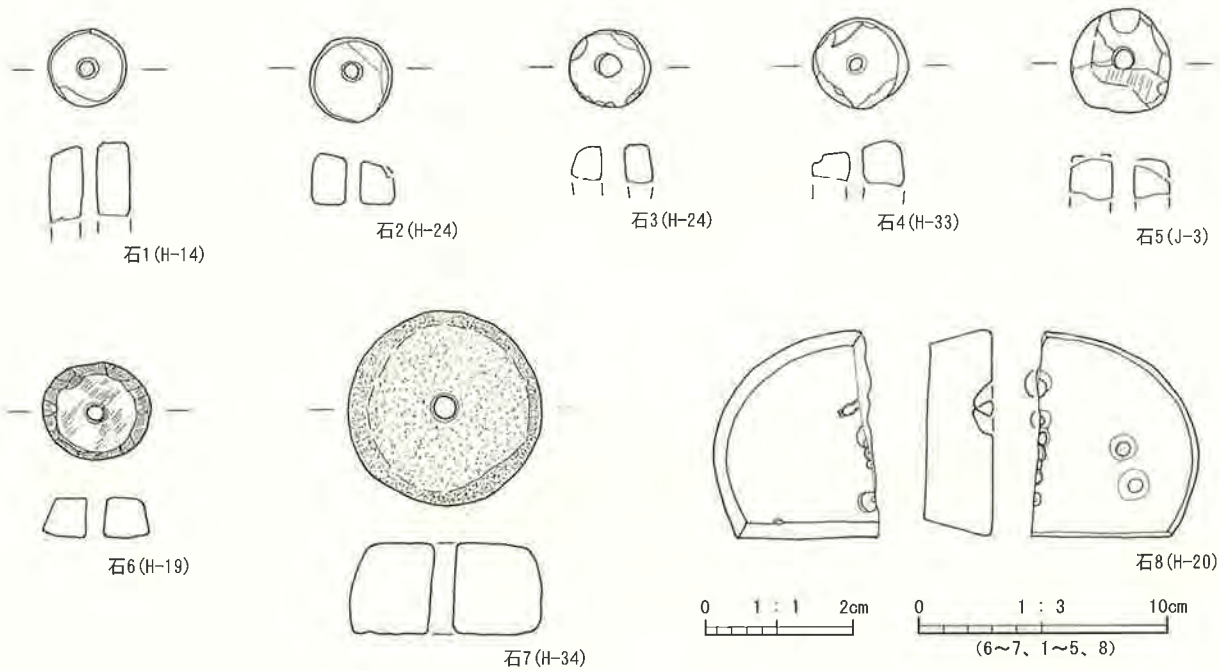


Fig.49　元総社蒼海遺跡群（40）出土石製品

Ⅴ　元総社蒼海遺跡群（46）

1　調査区の概要

本調査区は推定上野国分尼寺跡の南東方に位置し、標高約125m程を図る。

本調査区の発掘調査は、住居移転及び工事の兼ね合いから、路線中央部への下水施設の敷設に伴う立会い調査後の実施となった。その際、南北の工事区の北半分は遺構確認面を抜く産業廃棄物等を充塡するカクランが存在、東西工事区では遺構は確認されなかった。立会い調査及び過去の調査である蒼海遺跡群（24）31区の結果から遺構の存在が希薄であったため、比較的調査面積の取れる東西調査区の北側、東西15.6m×南北3.0mを発掘調査することとし、竪穴住居跡が１軒、時期不明の井戸跡１基を検出した。

2　基本層序

Ⅰ層　黒褐色細砂層　　耕作土。

Ⅱ層　黒褐色粗砂層　　班鉄を確認。

Ⅲ層　黒褐色粗砂層　　Ⅱ層に酷似。斑鉄が認められない。

Ⅳ層　黒褐色粗砂層　　砂層ブロック混入。Hr-FP 混入。

Ⅴ層　黒褐色粗砂層　　Ⅳ層に酷似。Hr-FP、As-C 混入。

Ⅵ層　黒褐色細砂層　　As-C 混入。

Ⅶ層　暗褐色細砂層　　総社砂層。

※　遺構はⅥ層を掘り込む。

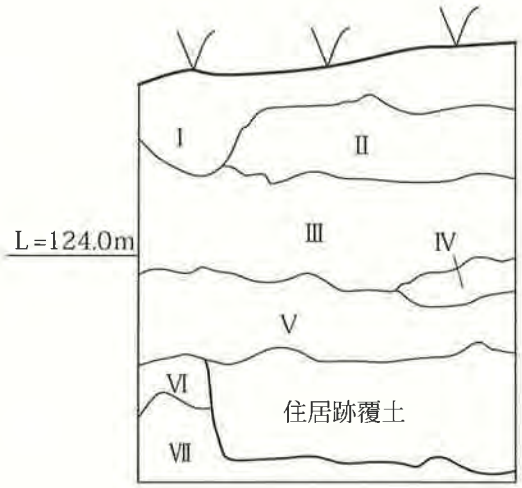


Fig.50　元総社蒼海遺跡群（46）基本層序

3　遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.54、PL.19）

位置　X52・53、Y101・102グリッド　**主軸方向**　N－109°－E　**形状等**　角丸方形　東西(4.32)m、南北(3.37)m、壁現高36.0cm　**面積**　7.72m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**重複**　なし　**竈**　主軸方向N－106°－E　全長84.5cm、最大幅81.3cm、焚口部幅38.7cm。　**出土遺物**　土師器、須恵器、灰釉陶器片、瓦　**時期**　10世紀前半

(2)　井戸跡

Ｉ－１号井戸跡（Fig54、PL.19）

位置　X50、Y102グリッド　**形状等**　円形　上幅(1.14)m×(1.02)m、深さ(2.2)m。ロート状に開口し、ほぼ垂直に掘り込まれる。　**重複**　なし　**出土遺物**　須恵器片、土師器・坏片　**時期**　出土遺物からは７世紀第３四半期

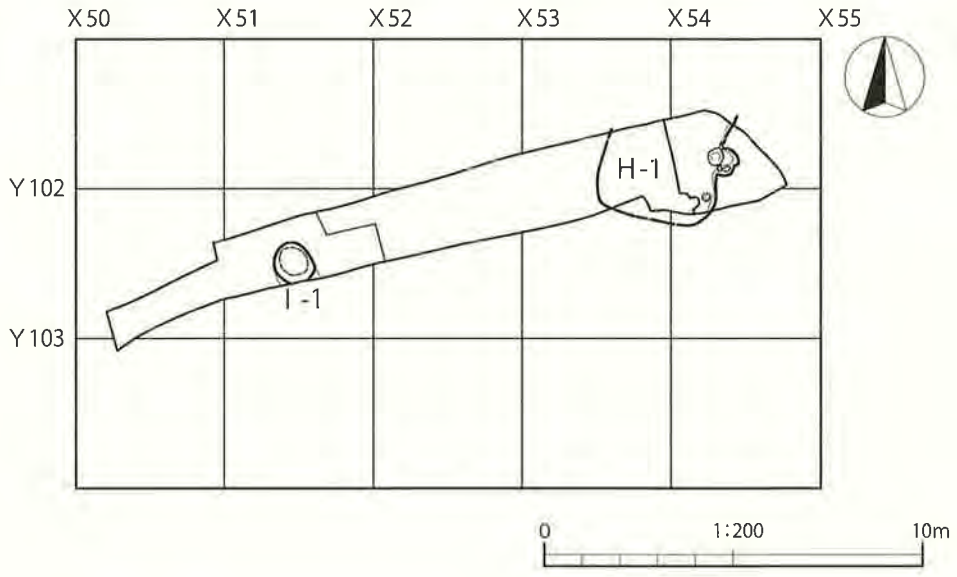


Fig.51　元総社蒼海遺跡群（46）調査区全体図

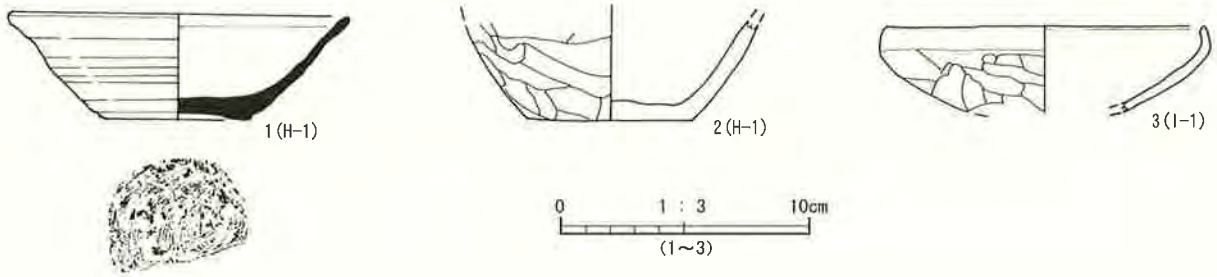
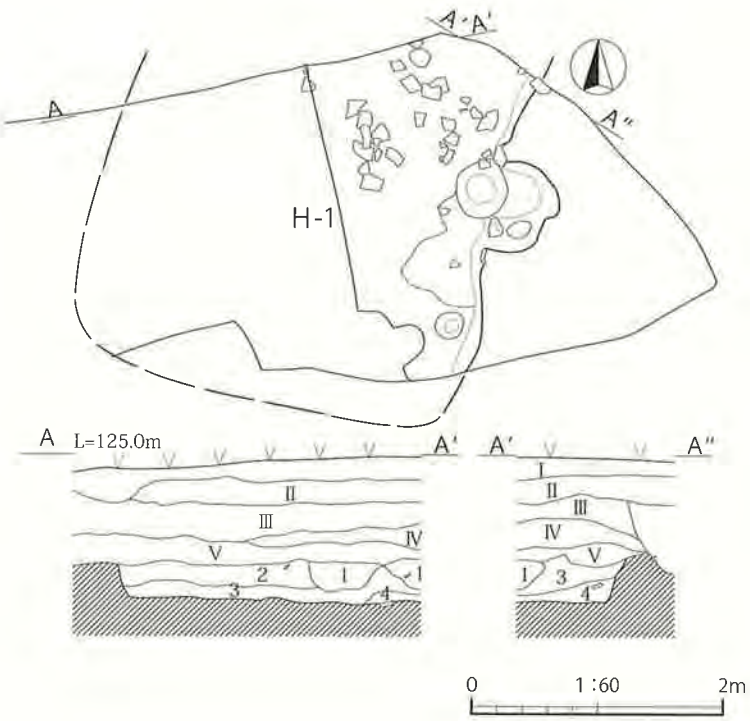
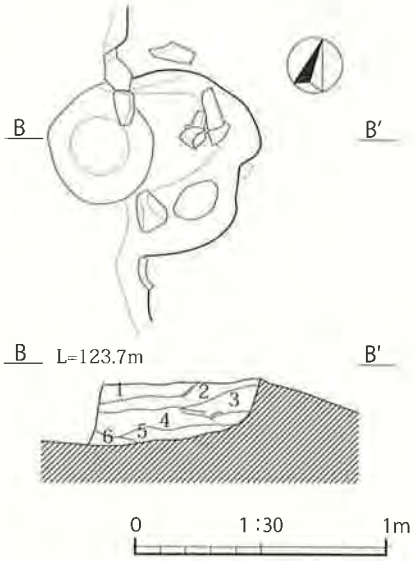


Fig.52　元総社蒼海遺跡群（46）出土遺物



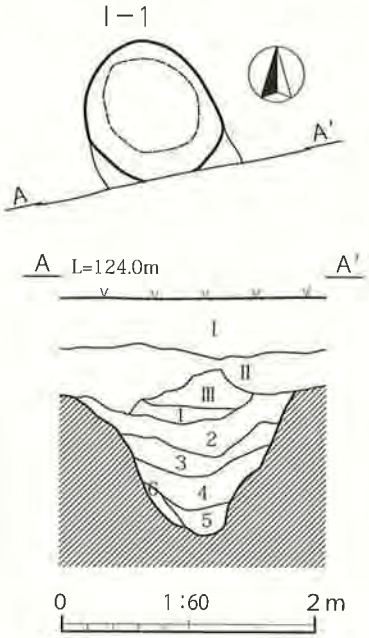


H-1 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり
2 層	極暗褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
4 層	暗褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり
5 層	極暗褐色細砂層	
	粘性あり	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり
8 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり

H-1 号住居跡層序説明

Ⅰ層	現耕作土		
Ⅱ層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まりややあり
Ⅲ層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
Ⅳ層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
Ⅴ層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりややあり
1 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりややあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い



I-1 号井戸跡層序説明

Ⅰ層	現耕作土		
Ⅱ層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まりややあり
Ⅲ層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.53　元総社蒼海遺跡群（46）H－1 号住居跡、I－1 号井戸跡

Fig.54　元総社蒼海遺跡群（46）出土瓦（1）

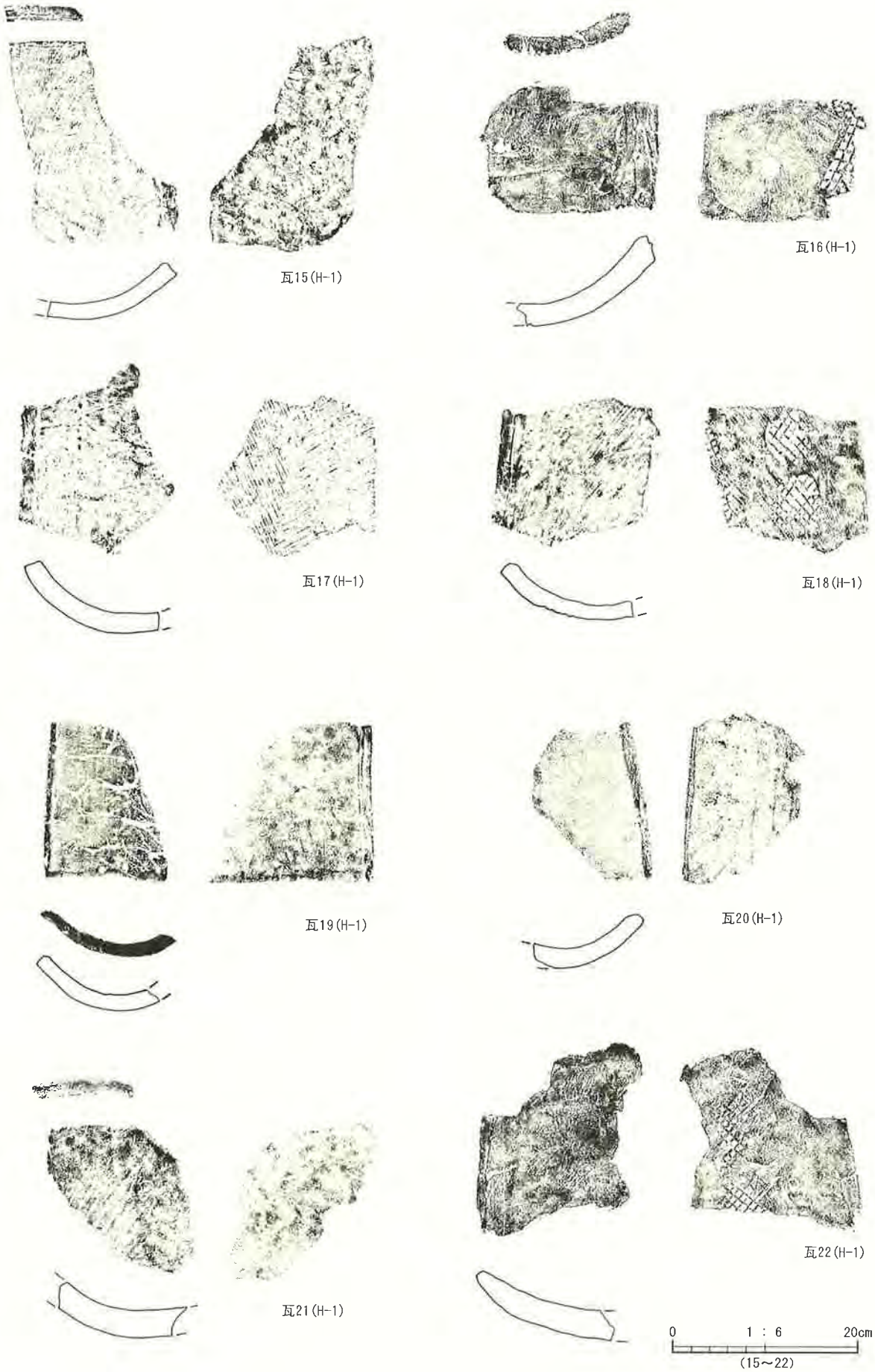


Fig.55　元総社蒼海遺跡群（46）出土瓦（2）

Ⅵ　元総社蒼海遺跡群（49）

1　調査区の概要

本調査区は、元総社蒼海遺跡群（43）の北西に隣接し、標高約119m程である。検出した遺構は、竪穴住居跡６軒と井戸２基である。

本調査区の発掘調査は、住居移転及び工事の兼ね合いから、路線中央部への下水施設の敷設に伴う立会い調査後の実施となった。そのため、調査区中央に下水施設敷設に伴う幅約1.30mのカクランが存在する。また、北部、の調査前篠藪であった箇所は、篠の伐採・抜根に伴うと思われるカクランにより、遺構は確認できなかった。以上の理由により全体的に遺構の保存状態は悪く、遺構は比較的保存状態の良い南部からの検出であった。

2　基本層序

Ⅰ層　暗褐色土　コンクリート片等の産業廃棄物によって構成される盛り土。

Ⅱａ層　暗褐色土　盛り土前の耕作土。砂質土。

Ⅱｂ層　黒褐色土　盛り土前の耕作土。砂質土。斑鉄が発達する。

Ⅲ層　黒褐色土　砂質土。As-C、Hr-FP 混入。

Ⅳ層　暗褐色土　Ⅲ層より漸移的に変化する。砂の粒度は細かくなる。混入する As-C、Hr-FP も少なくなる。

Ⅴ層　暗褐色土　総社砂層を起因とする。砂質土層。

※住居跡はⅣ層を掘り込んで構築される。

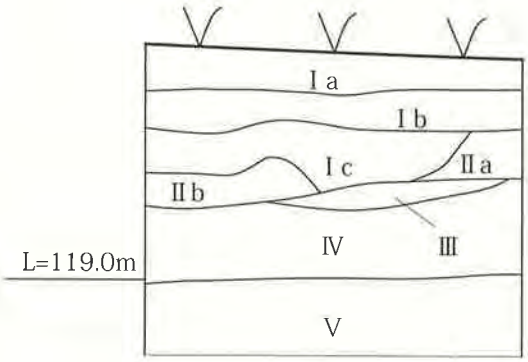


Fig.56　元総社蒼海遺跡群（49）基本層序

3　遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.59、PL.20）

位置　X138・139、Y221～223グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　隅丸方形　東西[3.64]m、南北5.16m、壁現高27cm　**面積**　[18.20]m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－90°－E　全長(74)cm、最大幅(104)cm　**ピット**　Ｐ１　長軸48cm、短軸46cm、深さ16.5cm　**壁周溝**　北・南・西壁　**重複**　Ｉ－１号井戸跡と重複し、Ｉ－１号井戸跡より古い。　**出土遺物**　須恵器・甕片・蓋、灰釉陶器・皿、羽釜、高台椀、鉄滓　**時期**　不明

Ｈ－２号住居跡（Fig.60・61、PL.21）

位置　X137・38、Y220～221グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　隅丸方形　東西(3.30)m、南北3.56m、壁現高39cm　**面積**　(10.36)m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　南東隅。主軸方向N－110°－E　全長(144)cm、最大幅(72)cm、焚口部幅(40)cm　**ピット**　Ｐ１　長軸40cm、短軸32cm、深さ46.5cm　Ｐ２　長軸40cm、短軸30cm、深さ16.5cm　**壁周溝**　北・南・東壁　**重複**　Ｈ－３・４・５と重複し、Ｈ－３・５より新しく、Ｈ－４より古い。　**出土遺物**　カワラケ、羽釜、土師器・甕　**時期**　10世紀前半

Ｈ－３号住居跡（Fig.60、PL.21）

位置　X137・38、Y220～221グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　方形　東西(3.04)m、南北(1.00)m、

壁現高52cm　**面積**　1.57m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出　**壁周溝**　なし　**重複**　H－2と重複し、本住居跡が古い。　**出土遺物**　土師器片　**時期**　不明

H－4号住居跡（Fig.60・62、PL.23）

位置　X137・38、Y220～221グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　方形　東西(0.88)m、南北(3.84)m、壁現高21cm　**面積**　(2.91)m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　南東隅。主軸方向N－151°－E　全長[116]cm、最大幅[76]cm、焚口部幅[38]cm　**壁周溝**　なし　**出土遺物**　須恵器・大甕片、土師器・坏片、羽釜片　**時期**　10世紀後半

H－5号住居跡（Fig.60・61、PL.22）

位置　X188・189、Y220・221グリッド　**主軸方向**　N－94°－E　**形状等**　隅丸方形　東西[3.12]m、南北[4.12]m、壁現高32cm　**面積**　[9.01]m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－90°－E　全長59cm、最大幅50cm、焚口部幅30cm　**壁周溝**　北・西壁　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

H－6号住居跡（Fig.62、PL.23）

位置　X187・188、Y222グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　方形　東西(1.60)m、南北(0.28)m　**面積**　(0.47)m²　**床面**　床面は調査区外にあり不明。　**竈**　東壁。主軸方向N－97°－E　全長(92)cm、最大幅(44)cm　**壁周溝**　不明　**出土遺物**　高台椀　**時期**　10世紀後半

(2)　溝跡

W－1号溝跡（Fig.58）

位置　X137・138、Y214・218～220グリッド　**主軸方向**　N－9°－W　**形状等**　断面U字形　最大上幅0.72m、最小上幅0.20m、最大下幅0.52m、最小下幅0.12m、深さ23.5cm、長さ24.08m　**時期**　不明

(3)　土坑・井戸跡

D－1号土坑（Fig.58）

位置　X137・138、Y224グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　方形　東西幅0.45m、南北幅1.90m、深さ33cm　**出土遺物**　瓦　**時期**　不明

D－2号土坑（Fig.63、PL.21）

位置　X137・138、Y219グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　長方形　最大幅1.72m、最小幅1.56m、深さ52.0cm　**出土遺物**　羽釜片、高台椀　**時期**　10世紀前半

D－3号土坑（Fig.63、PL.124）

位置　X137・138、Y218・219グリッド　**主軸方向**　N－71°－E　**形状等**　長楕円形　最大幅1.20m、最小幅0.80m、深さ21cm　**出土遺物**　須恵器片、土師器片、羽釜片　**時期**　10世紀

I－1号井戸跡（Fig63、PL.22）

位置　X138、Y223・224グリッド　**形状等**　上幅(2.20)m×(1.80)m、深さ(2.40)m。ロート状に開口し、ほぼ垂に掘り込まれる。　**重複**　なし　**出土遺物**　石臼　**時期**　不明

Ｉ－２号井戸跡（Fig59、PL.22）

位置　X138、Y222･223グリッド　**形状等**　上幅(1.40)ｍ×(1.28)ｍ、深さ(1.50)ｍ。ロート状に開口。　**重複**　Ｈ－１と重複、Ｈ－１より新しい。　**出土遺物**　瓦　**時期**　不明

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.73、PL.28）

位置　X137～138、Y219・220グリッド　**主軸方向**　Ｎ－119°－Ｅ　**形状等**　隅丸方形　東西(2.32)ｍ、南北(1.34)ｍ、壁現高４㎝　**面積**　2.06㎡　**床面**　ほぼ平坦である。　**出土遺物**　須恵器片、土師器片　**時期**　重複関係から10世紀前半以前

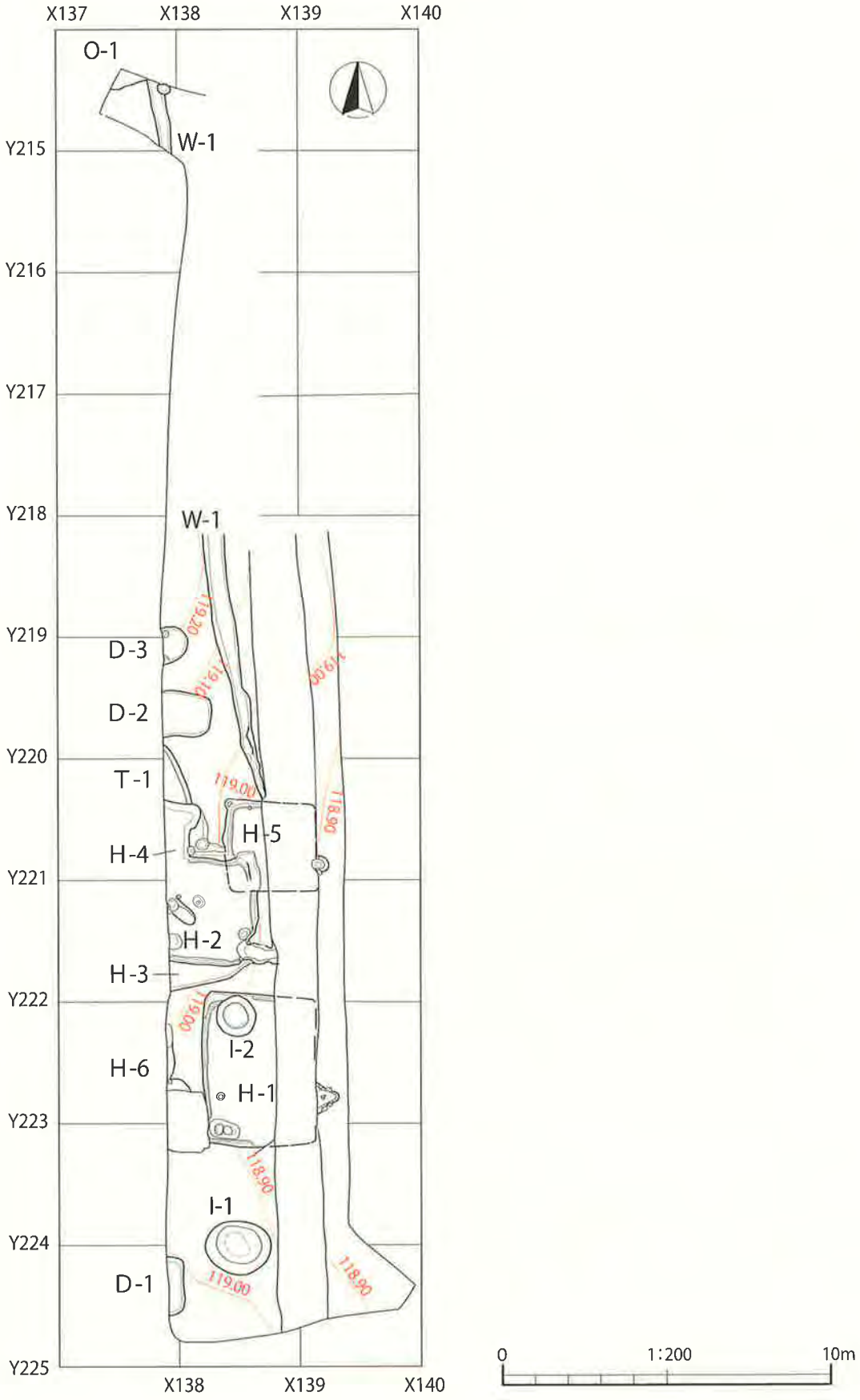
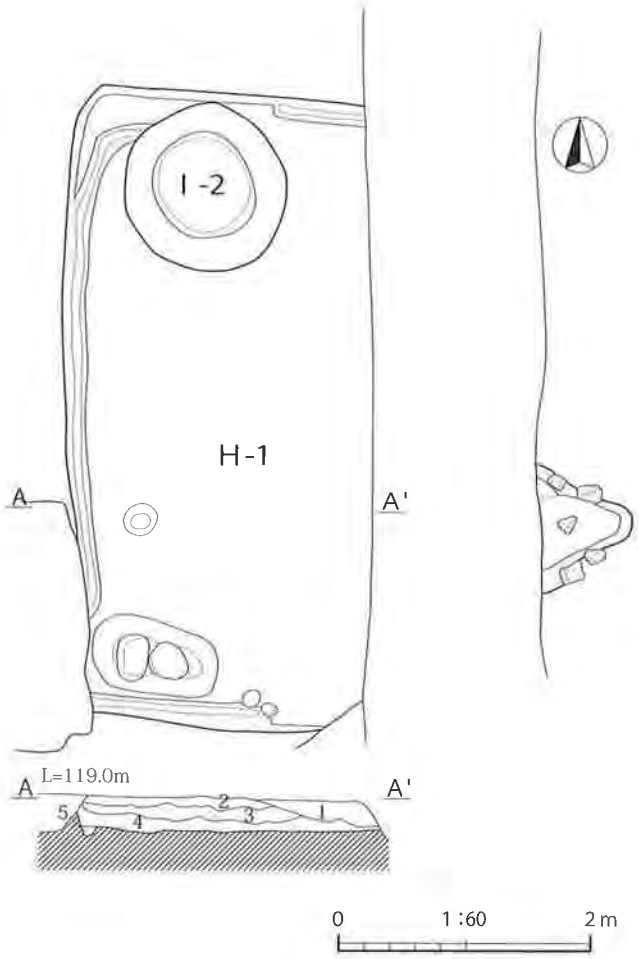
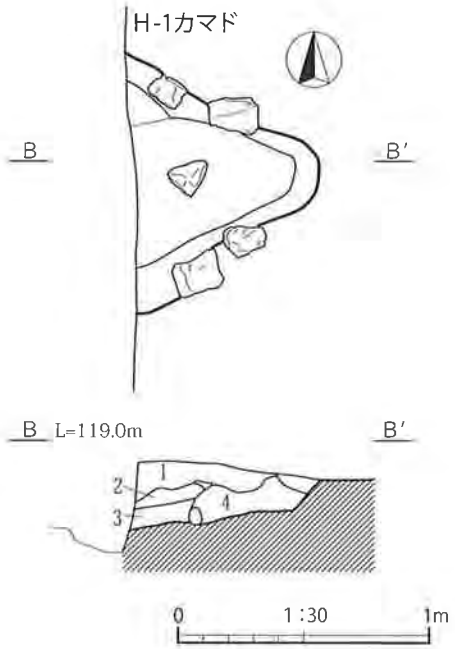


Fig.57　元総社蒼海遺跡群（49）調査区全体図



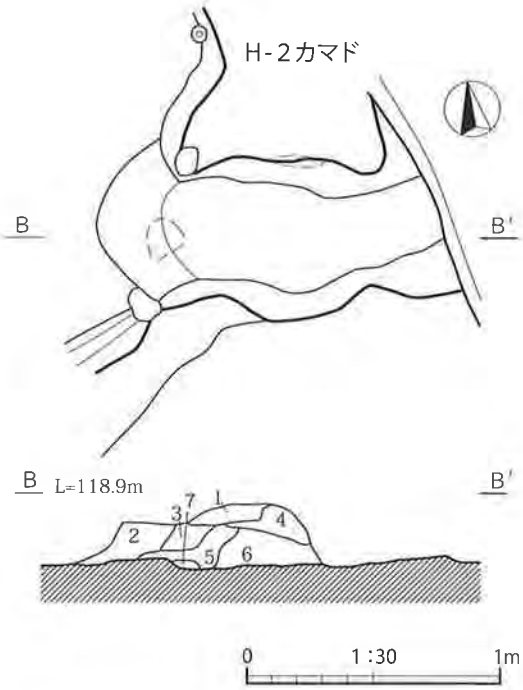
H-1 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり



H-1 号住居跡竈層序説明

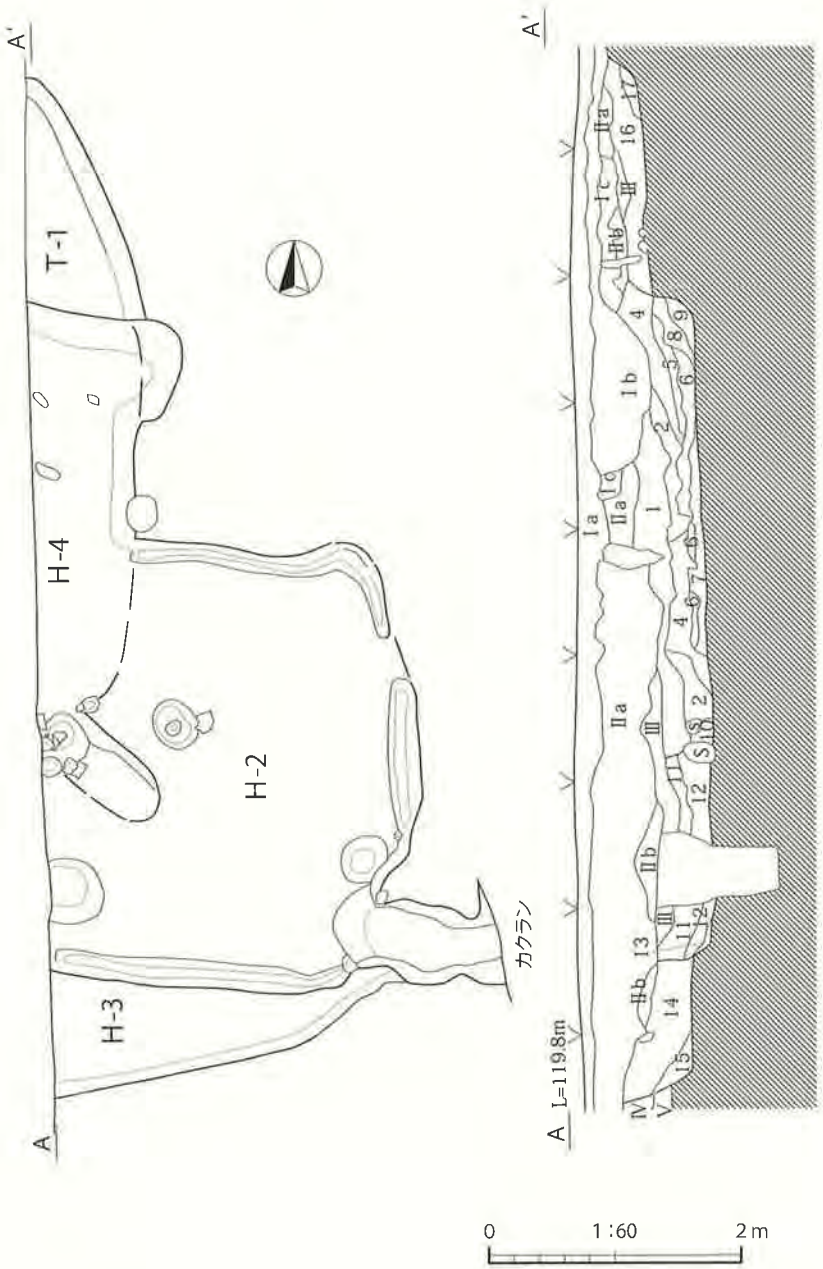
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い



H-2 号住居跡竈層序説明

1 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色微砂層	
	粘性なし	締まりあり
6 層	極暗褐色微砂層	
	粘性なし	締まりあり
7 層	暗褐色細砂ブロック	
	粘性なし	締まりあり

Fig.58　元総社蒼海遺跡群（49）H―1号住居跡



基本層序説明

Ⅰａ層　現耕作土

Ⅰｂ層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

Ⅰｃ層　にぶい黄褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

Ⅱａ層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

Ⅱｂ層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

Ⅲ層　暗褐色細砂層
粘性あり　締まりなし

Ⅳ層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

Ⅴ層　暗褐色微細砂層
粘性なし　締まりあり

H-２号住居跡層序説明

11 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

12 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

13 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

H-３号住居跡層序説明

14 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

15 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

H-４号住居跡層序説明

1 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

2 層　黒褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

3 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

4 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

5 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

6 層　褐色中砂層
粘性なし　締まりあり

7 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まり強い

8 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

9 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

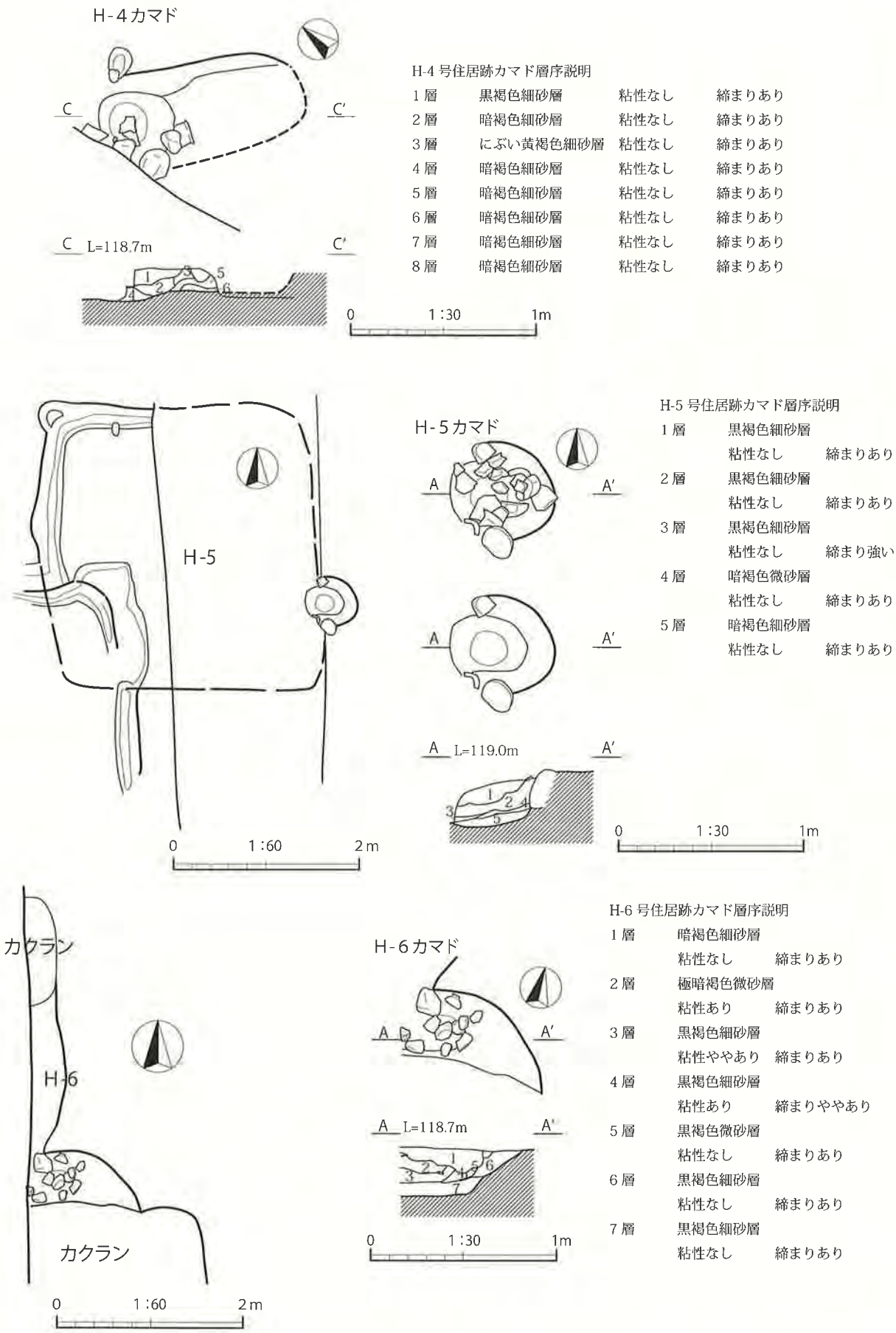
10 層　暗褐色細砂層
粘性あり　締まりあり

T-1 号竪穴状遺構層序説明

16 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

17 層　暗褐色細砂層
粘性なし　締まりあり

Fig.59　元総社蒼海遺跡群（49）H－２～４号住居跡、T－１号竪穴状遺構



H-4 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
8 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

H-5 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
4 層	暗褐色微砂層	
	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり

H-6 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
2 層	極暗褐色微砂層	
	粘性あり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	
	粘性ややあり	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	
	粘性あり	締まりややあり
5 層	黒褐色微砂層	
	粘性なし	締まりあり
6 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり

Fig.60　元総社蒼海遺跡群（49）H―2・4号住居跡竈

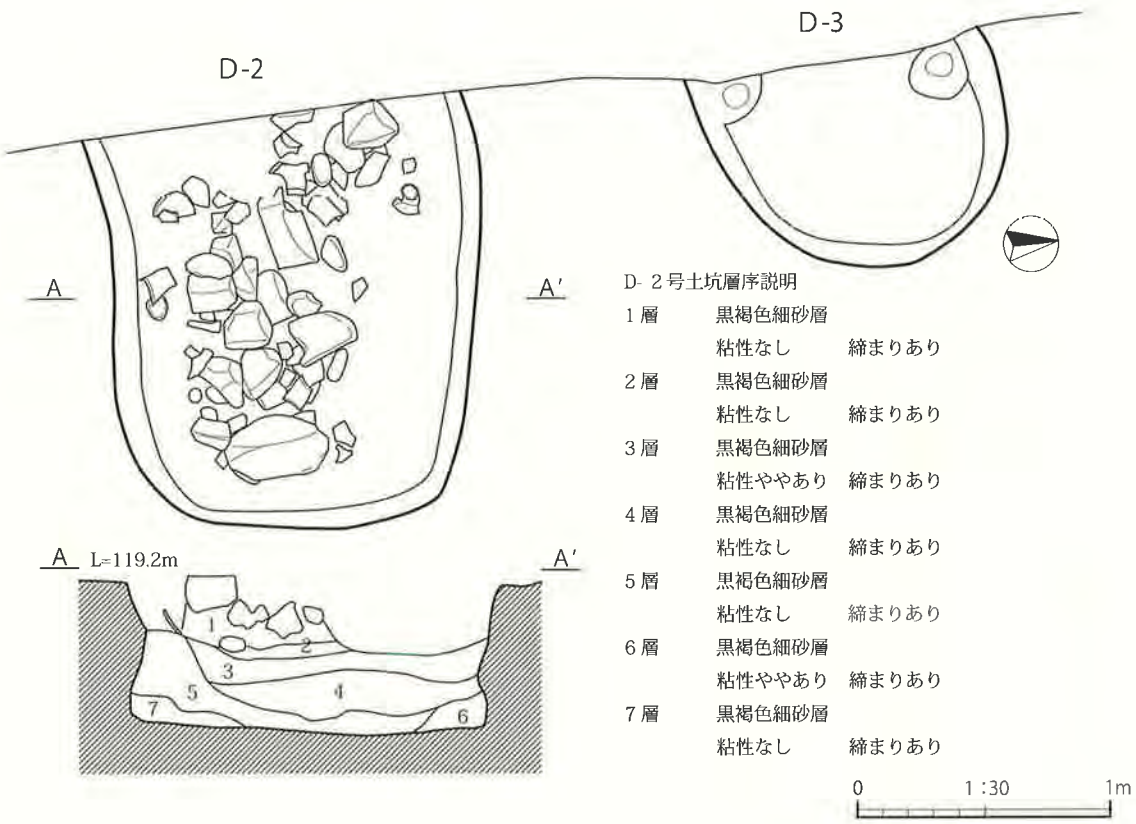


Fig.61　元総社蒼海遺跡群（49）H―5・6号住居跡

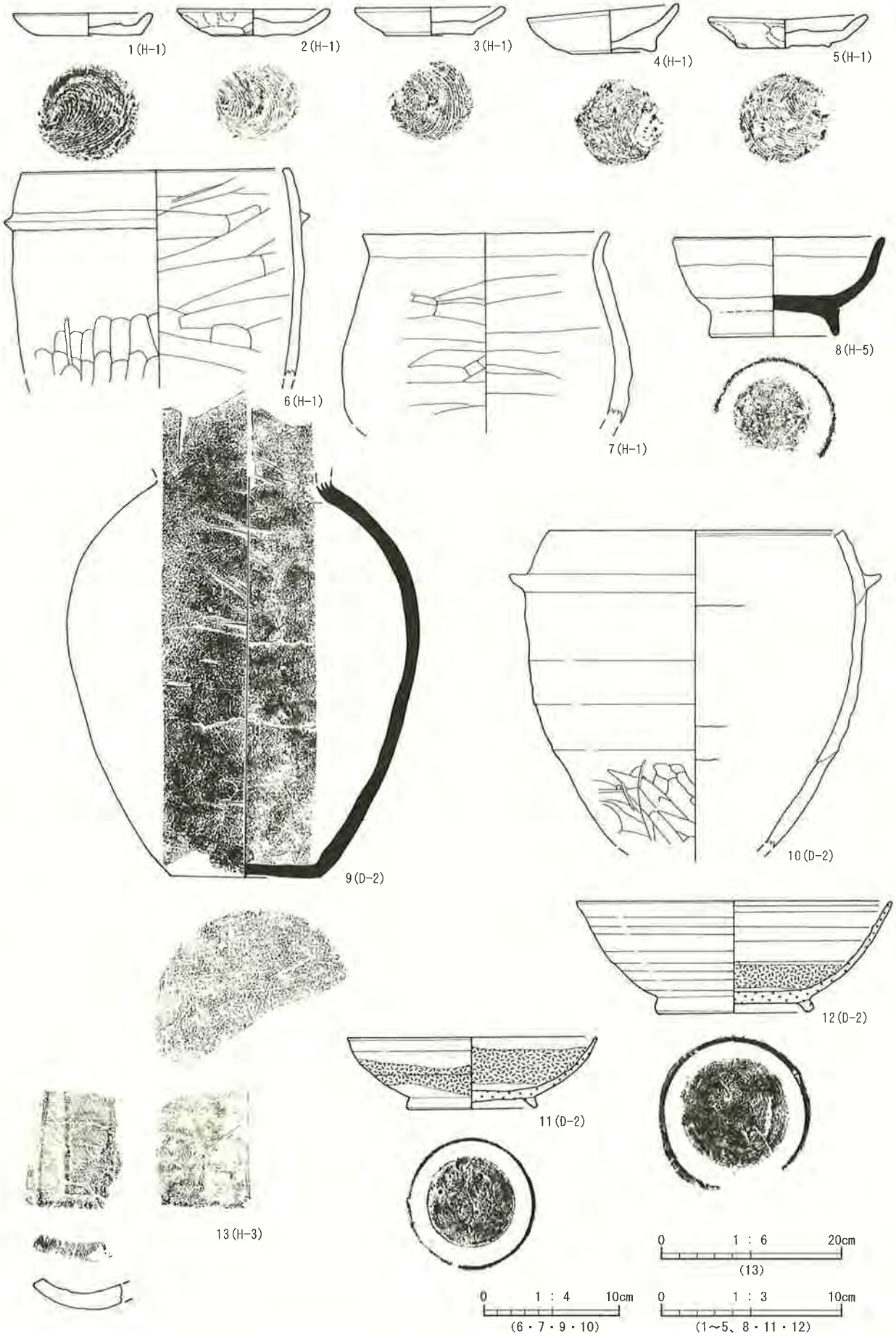


Fig.62　元総社蒼海遺跡群（49）出土遺物

Ⅶ　元総社蒼海遺跡群（50）

1　調査区の概要

本調査区は蒼海遺跡群の南西部、染谷川の左岸に位置する。調査区東西に長い長方形を呈する。周辺は、住宅が立ち並ぶ一角で、調査前には、集合住宅が立っていた。遺構の保存状況はあまり良くなく、検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡が１軒、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡が18軒、土坑４基、竪穴状遺構が１基が検出された。

2　基本土層

グランドレベルの直下には厚さ90cmの産業廃棄物（コンクリートブロックなど）が存在し、部分的には遺構を破壊する箇所も存在した。比較的に保存状態の良いところではこの産業廃棄物層の直下に近年のもとと推定できる水田耕作土が存在し、酸化鉄が確認できた。

Ⅰａ層　暗褐色土　現耕作土。プラスチック等の近年の遺物を含む。
Ⅰｂ層　暗褐色土　現耕作土。
Ⅰｃ層　にぶい黄褐色土　粒度がやや大きい砂質土。
Ⅱａ層　暗褐色土　砂質土。As-C、Hr-FP 混入。
Ⅱｂ層　黒褐色土　砂質土。As-C、Hr-FP 混入。
Ⅲ層　黒褐色土　砂質土。As-C、Hr-FP 混入。
Ⅳ層　暗褐色土　Ⅲ層より漸移的に変化する。砂の粒度は細かくなる。混入する As-C、Hr-FP も少なくなる。
Ⅴ層　暗褐色土　総社砂層を起因とする。砂質土層。
※住居跡はⅣ層を掘り込んで構築される。

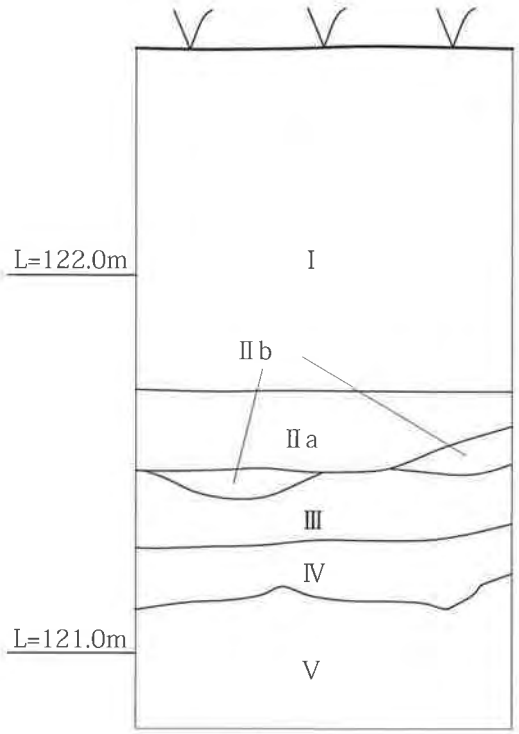


Fig.63　元総社蒼海遺跡群（50）基本層序

3　縄文時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡（Fig.67、PL.23）

位置　X59・60、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－63°－E　**形状等**　角丸方形　東西(5.32)m、南北(3.24)m、壁現高43cm　**面積**　7.60m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**炉**　未検出。調査区外に存在するものと思われる。**ピット**　Ｐ１　長軸(12)cm、短軸16cm、深さ19cm　Ｐ２　長軸36cm、短軸24cm、深さ28cm　Ｐ３　長軸20cm、短軸16cm、深さ23.5cm　Ｐ４　長軸22cm、短軸20cm、深さ19cm　Ｐ５　長軸20cm、短軸18cm、深さ33cm　Ｐ６　長軸22cm、短軸20cm、深さ18cm　Ｐ７　長軸12cm、短軸10cm、深さ15.5cm　Ｐ８　長軸12cm、短軸10cm、深さ11cm　Ｐ９　長軸20cm、短軸16cm、深さ17cm　Ｐ10　長軸22cm、短軸12cm、深さ10cm　Ｐ11　長軸18cm、短軸16cm、深さ20cm　**壁周溝**　なし　**重複**　Ｈ－17と重複。　**出土遺物**　縄文土器片（諸磯ｃ式期）・剥片　**時期**　縄文時代前期諸磯ｃ式期

4　古墳時代～奈良・平安時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.68、PL.24）

位置　X50・51、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－100°－E　**形状等**　方形　東西(2.60)m、南北(2.04)m、壁現高29cm　**面積**　4.69m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　南東隅。主軸方向N－150°－E　**壁周溝**　なし　**重複**　なし　**出土遺物**　土師器片、灰釉陶器片　**時期**　不明（形状からは平安時代の終り）

H－2号住居跡（Fig.68）

位置　X51、Y188グリッド　**主軸方向**　N－66°－E　**形状等**　東西(1.42)m、南北(1.71)m、壁現高34cm　**面積**　0.93m²　**床面**　ほぼ平坦である　**竈**　未検出　**ピット**　P1　長軸48cm、短軸46cm、深さ29cm　**壁周溝**　なし　**重複**　H－3と重複。本住居が古い。　**出土遺物**　須恵器片、土師器片、灰釉陶器片　**時期**　8世紀前半

H－3号住居跡（Fig.68）

位置　X51、Y189グリッド　**主軸方向**　N－65°－E　**形状等**　やや丸みを帯びる方形。東西(2.34)m、南北(2.53)m、壁現高30cm　**面積**　3.74m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出　**壁周溝**　なし　**重複**　H－2・H－4と重複。H－2より新しく、H－4より古い。　**出土遺物**　土師器・椀　**時期**　8世紀後半

H－4号住居跡（Fig.68）

位置　X51、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　角丸方形　東西(0.88)m、南北(3.28)m、壁現高27.5cm　**面積**　2.42m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出　**壁周溝**　なし　**出土遺物**　須恵器片、土師器・坏片　**時期**　9世紀前半

H－5号住居跡（Fig.69、PL.24）

位置　X51～53、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　角丸方形　東西5.84m、南北(3.68)m、壁現高16.5cm　**面積**　14.24m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　東壁。主軸方向N－90°－E　全長120.0cm、最大幅(30)cm、煙道長(70)cm　**ピット**　P1　長軸32cm、短軸30cm、深さ49cm　P2　長軸44cm、短軸32cm、深さ32cm　**壁周溝**　北壁・東壁　**出土遺物**　高台椀、須恵器・甕、土師器　**時期**　9世紀後半

H－6号住居跡（Fig.69、PL.24）

位置　X52・53、Y188グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　角丸方形　東西[3.04]m、南北(3.04)m、壁現高11cm　**面積**　3.26m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出　**壁周溝**　なし　**重複**　H－5・9と重複し、いずれよりも古い。　**出土遺物**　須恵器片、土師器片、灰釉陶器片、瓦片　**時期**　8世紀後半

H－7号住居跡（Fig.70、PL.25）

位置　X53・54、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－83°－E　**形状等**　角丸方形　東西3.50m、南北(2.88)m、壁現高12cm　**面積**　9.36m²　**床面**　シルト質粘土　**竈**　未検出　**ピット**　P1　長軸40cm、短軸28cm、深さ10cm　P2　長軸40cm、短軸30cm、深さ15cm　P3　長軸22cm、短軸20cm、深さ7cm　**壁周溝**　北壁・西壁　**重複**　H－8・9と重複し、いずれよりも古い。　**出土遺物**　高台椀　**時期**　重複関係から9世紀代

Ｈ－８号住居跡（Fig.70）

位置　X53・54、Y188グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**形状等**　角丸方形　東西(2.08)m、南北(1.80)m、壁現高13cm　**面積**　(3.83)m²　**床面**　攪乱により不明　**竈**　主軸方向N－85°－E　全長(52.0)cm、最大幅60.0cm　**壁周溝**　不明　**貯蔵穴**　南東済　D－4　**重複**　H－7と重複し、H－7より新しい。　**出土遺物**　須恵器、土師器、羽釜、瓦　**時期**　10世紀前半

Ｈ－９号住居跡（Fig.70、PL.25・26）

位置　X52～54、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－171°－E　**形状等**　西壁が丸みを帯びる隅丸長方形　東西(4.45)m、南北(3.72)m、壁現高19.5cm　**面積**　13.63m²　**床面**　ほぼ平坦　**竈**　南西隅。主軸方向N－203°－E　全長82cm、最大幅70cm　**重複**　H－6・7・8・10・11と重複し、H－6・7・10・11より新しく、H－8より古い。　**出土遺物**　須恵器、土師器・甕、羽釜、灰釉陶器片、瓦　**時期**　10世紀代

Ｈ－10号住居跡（Fig.70、PL.26）

位置　X54、Y188グリッド　**主軸方向**　N－119°－E　**形状等**　不明　竈周辺のみ検出　**面積**　1.00m²　**床面**　不明　**竈**　東壁。主軸方向N－108°－E　全長78cm、最大幅50cm　**壁周溝**　東壁　**出土遺物**　須恵器、土師器、瓦　**時期**　9世紀前半

Ｈ－11号住居跡（Fig.70、PL.26）

位置　X53・54、Y186～188グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　方形　東西不明　南北(3.96)m、壁現高17.5cm　**面積**　12.89m²　**床面**　ほぼ平坦　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－91°－E　全長88cm、最大幅55cm　**出土遺物**　須恵器・甕、土師器・甕、瓦、灰釉陶器片　**時期**　10世紀代

Ｈ－12号住居跡（Fig.68、PL.24）

位置　X51、Y187グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　不明　南壁のみ検出　東西(2.66)m、南北(0.30)m、壁現高8.5cm　**面積**　0.60m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出　**壁周溝**　なし　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

Ｈ－13号住居跡（Fig.71、PL.27）

位置　X56・57、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－116°－E　**形状等**　隅丸長方形　東西(3.12)m、南北(1.76)m、壁現高30.5cm　**面積**　3.73m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　東壁。主軸方向N－105°－E　全長(84.0)cm、最大幅(38.0)cm　**壁周溝**　なし　**貯蔵穴**　南東隅　**出土遺物**　須恵器、土師器、灰釉陶器片、羽釜　**時期**　10世紀前半

Ｈ－14号住居跡（Fig.72、PL.28）

位置　X61、Y186・187グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　方形　東西(1.44)m、南北(3.32)m、壁現高５cm　**面積**　3.90m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出　**壁周溝**　なし　**出土遺物**　須恵器、土師器、灰釉陶器片　**時期**　10世紀前半

Ｈ－15号住居跡（Fig.72、PL.28）

位置　X61・62、Y186・187グリッド　**主軸方向**　N－101°－E　**形状等**　隅丸方形　東西(2.80)m、南北(3.92)

m、壁現高6㎝　**面積**　8.85㎡　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出　**壁周溝**　西壁・北壁　**出土遺物**　須恵器、土師器、鉄製品　**時期**　9世紀第4四半期

H－16号住居跡（Fig.72）

椀位置　X61、Y186・187グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　方形　東西(1.08)m、南北(2.32)m、壁現高4㎝　**面積**　2.45㎡　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　東壁。主軸方向N－90°－E　全長63㎝、最大幅65㎝、焚口部幅65㎝　**壁周溝**　なし　**出土遺物**　須恵器、土師器、灰釉陶器片、瓦、羽釜　**時期**　10世紀後半

H－17号住居跡（Fig.72、PL.27）

位置　X60、Y186・187グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**形状等**　角丸長方形　東西(1.80)m、南北(3.90)m、壁現高11.5㎝　**面積**　(5.89)㎡　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　南東隅。主軸方向N－136°－E　全長86㎝、最大幅48㎝、焚口部幅36㎝　**壁周溝**　なし　**出土遺物**　須恵器、土師器、灰釉陶器片、瓦、羽釜　**時期**　10世紀後半

H－18号住居跡（Fig.72）

位置　X60・61、Y186・187グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　東西(3.04)m、南北(2.20)m、壁現高5㎝　**面積**　(0.74)㎡　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　未検出　**壁周溝**　なし　**出土遺物**　高台椀、羽釜片、須恵器、緑釉陶器片　**時期**　10世紀前半

(2)　土坑・ピット・竪穴状遺構

D－1号土坑（Fig.73、PL.24）

位置　X51、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　円形　最大幅0.78m、最小幅0.72m、深さ26㎝　**出土遺物**　土師器片　**時期**　不明

D－2号土坑（Fig.73、PL.24）

位置　X51、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－128°－E　**形状等**　楕円形　最大幅0.85m、最小幅0.74m、深さ13.0㎝　**出土遺物**　**時期**　不明

D－3号土坑（Fig.73、PL.24）

位置　X52、Y187グリッド　**主軸方向**　N－116°－E　**形状等**　楕円形　最大幅1.04㎝、最小幅0.90m、深さ28.0㎝　**出土遺物**　**時期**　不明

D－4号土坑　欠番（H－8の貯蔵穴として処理）

D－5号土坑（Fig.73）

位置　X60、Y186・187グリッド　**主軸方向**　N－67°－E　**形状等**　やや歪な円形　最大幅0.80m、最小幅0.70m、深さ24.0㎝　**出土遺物**　高台椀・羽釜片、瓦　**時期**　10世紀代

D－6号土坑（Fig.73）

位置　X60、Y186・187グリッド　**主軸方向**　N－67°－E　**形状等**　やや歪な円形　最大幅0.80m、最小幅0.70m、深さ24.0㎝　**出土遺物**　高台椀、灰釉陶器、瓦　**時期**　9世紀代

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.73、PL.28）

位置　X58、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－110°－E　**形状等**　隅丸方形　東西(2.32)m、南北(1.34)m、壁現高４cm　**面積**　2.06m²　**床面**　ほぼ平坦である。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

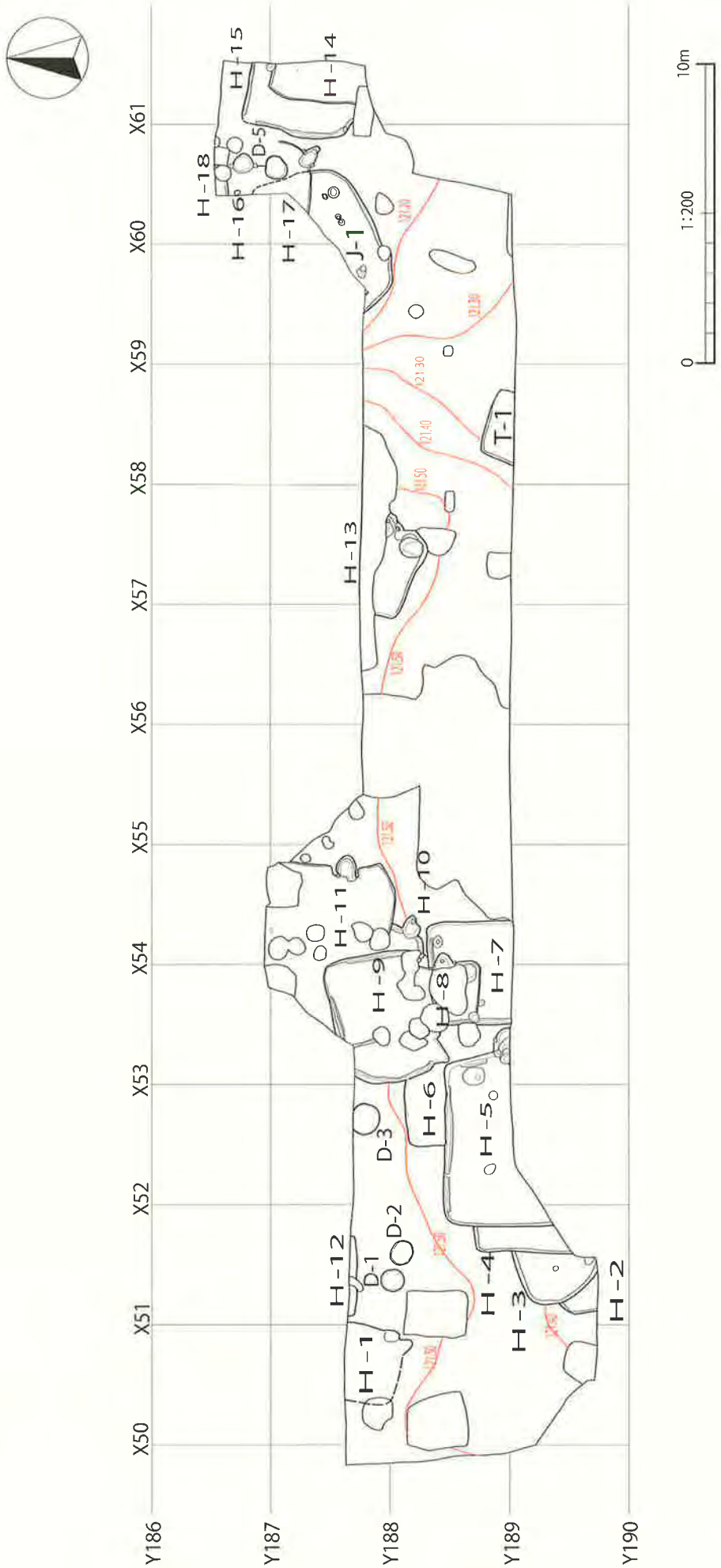
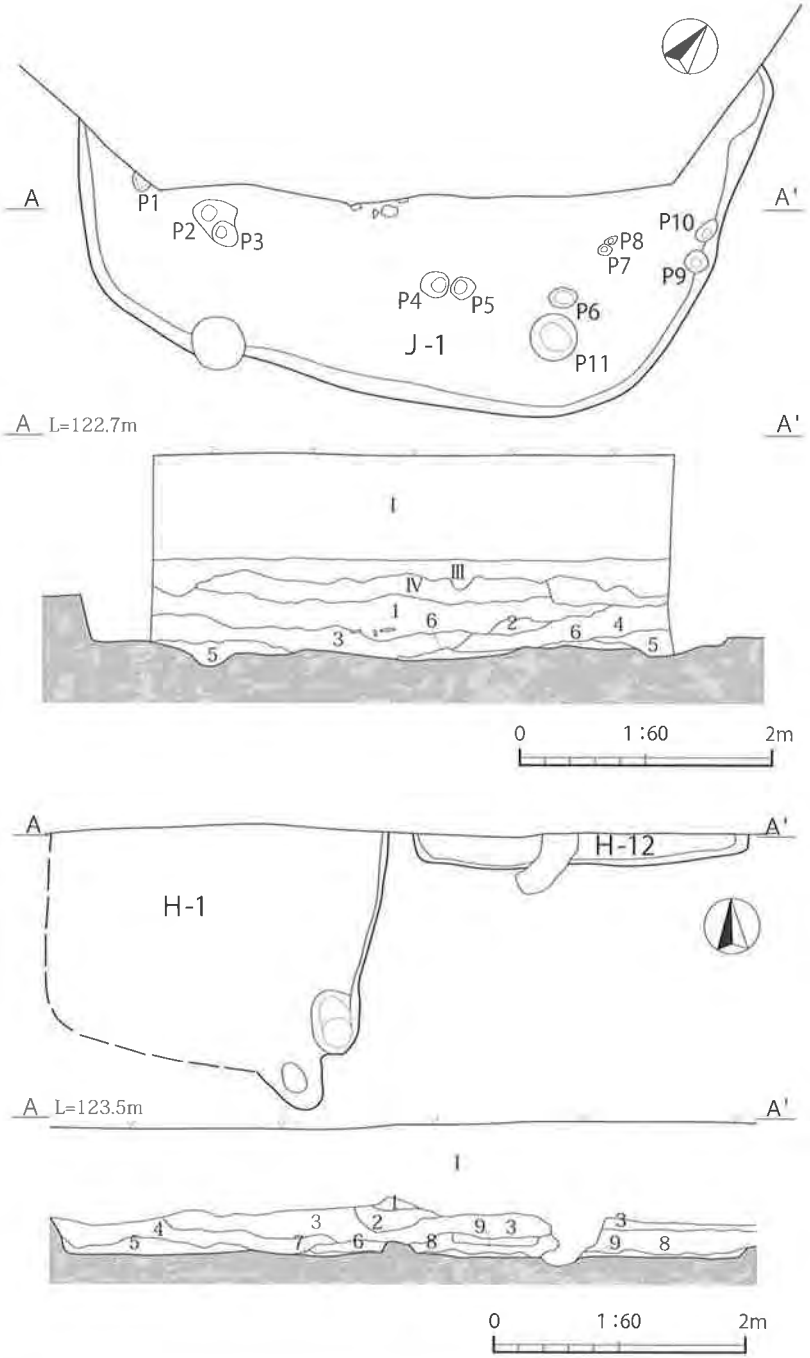


Fig.64　元総社蒼海遺跡群（50）調査区全体図



J-1 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
5 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色微砂層	
	粘性なし	締まりあり

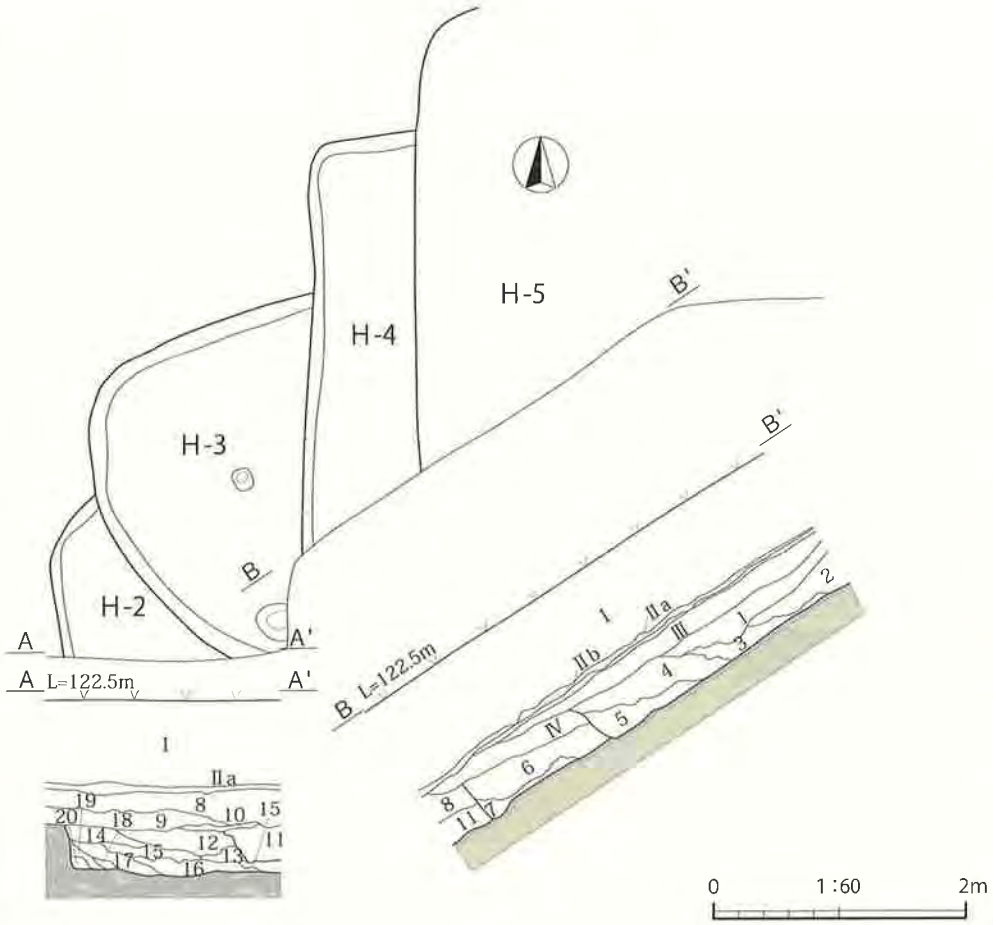
H-1 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
6 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い

H-12 号住居跡層序説明

3 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
8 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
9 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い

Fig.65　元総社蒼海遺跡群（50）Ｊ－１号住居跡、Ｈ－１・12号住居跡



H-2 号住居跡層序説明

8 層	暗褐色微砂層	粘性ややあり	締まり強い
9 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まり強い
10 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
11 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まり強い
12 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
13 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
14 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まり強い
15 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
16 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
17 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
18 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
19 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
20 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まり強い

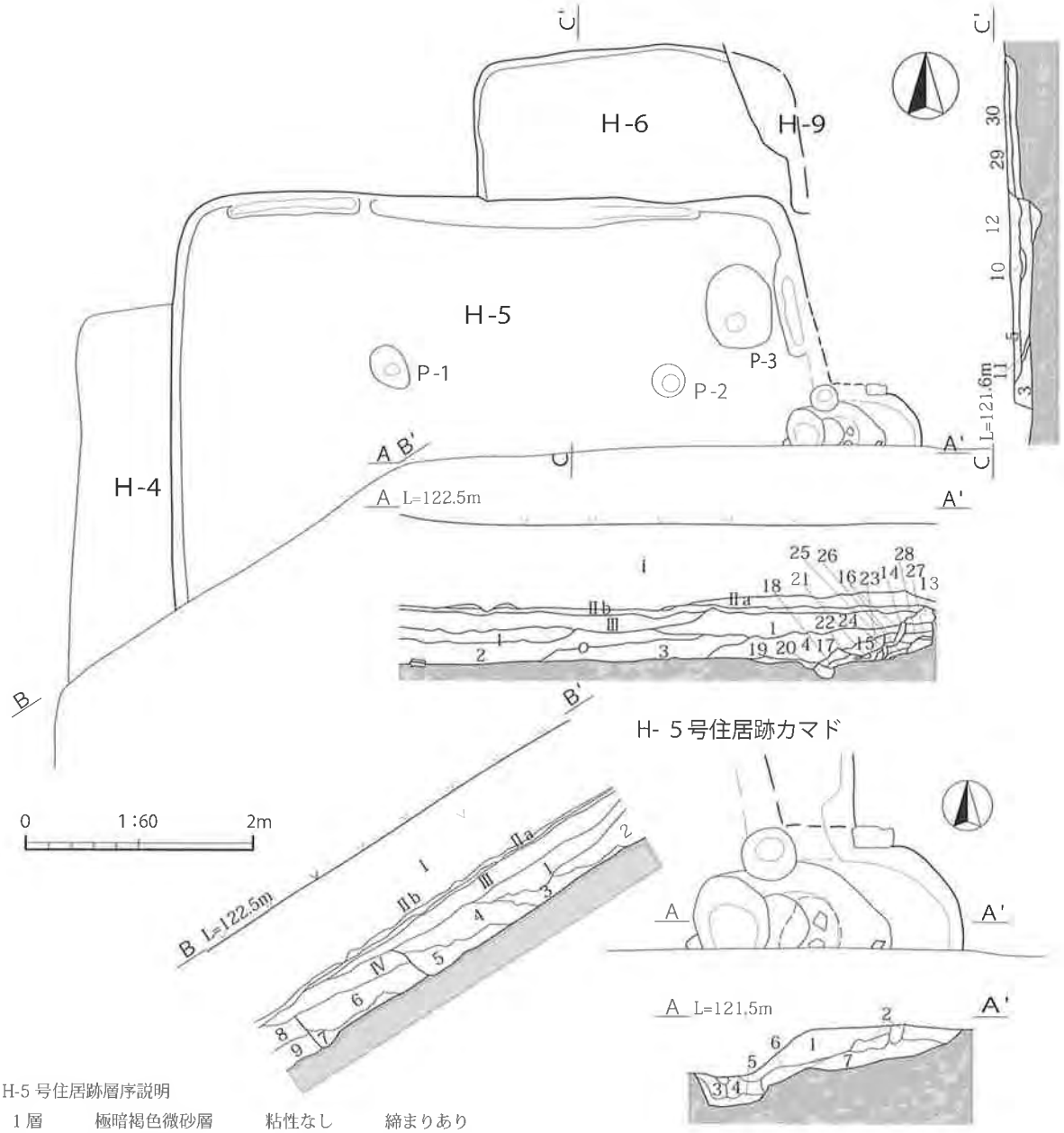
H-3 号住居跡層序説明

8 層	暗褐色微砂層	粘性ややあり	締まり強い
11 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まり強い

H-4 号住居跡層序説明

6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.66　元総社蒼海遺跡群（50）H－2～4 号住居跡



H-5 号住居跡層序説明

1 層	極暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	極暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
10 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
11 層	黒褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
12 層	黒褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
13 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
14 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
15 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
16 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
17 層	極暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
18 層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
19 層	極暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
20 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
21 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
22 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
23 層	極暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
24 層	暗赤褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
25 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
26 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
27 層	黒褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
28 層	黒褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
29 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
30 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

H-6 号住居跡層序説明

29 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まり強い
30 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い

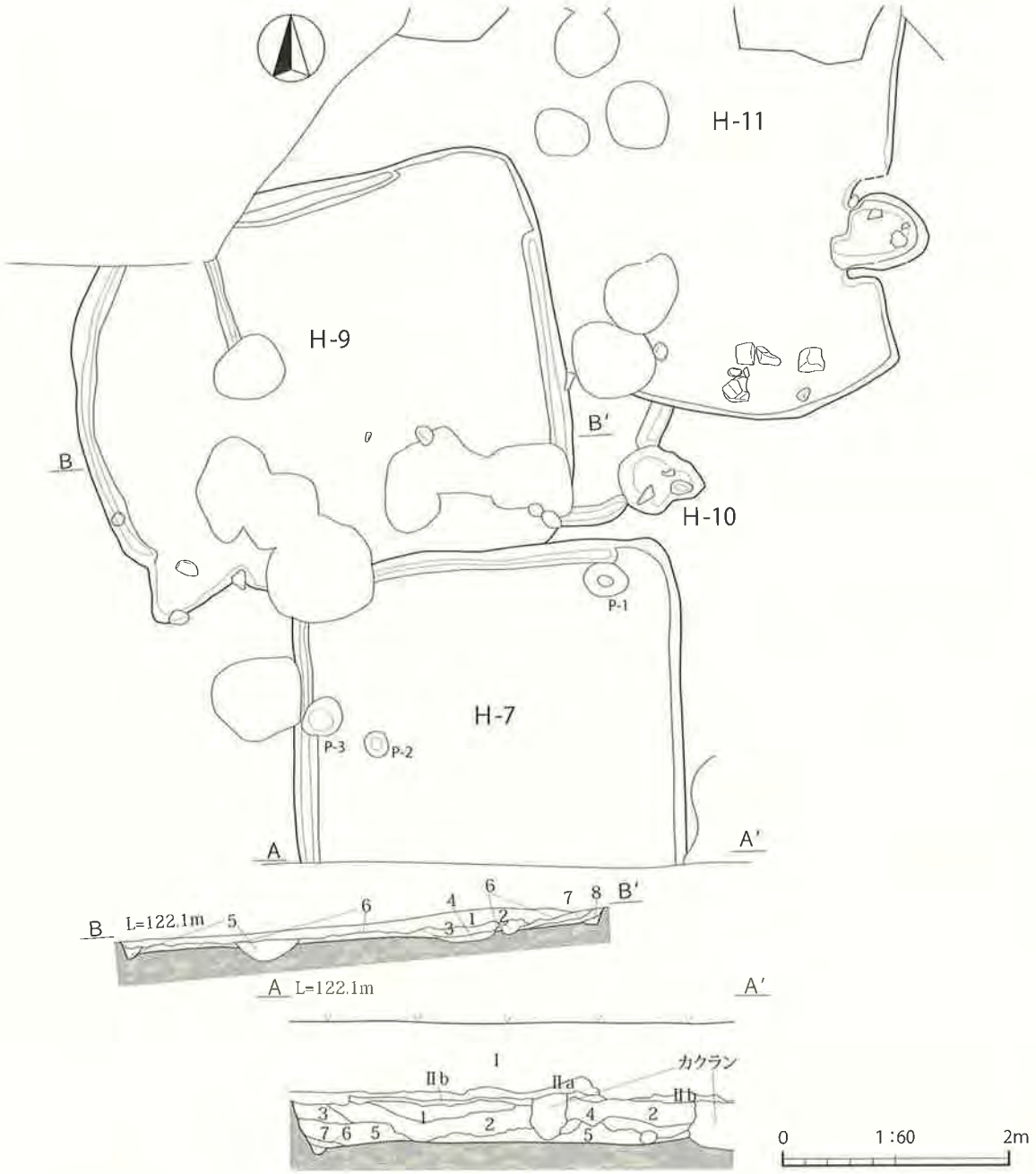
Fig.67　元総社蒼海遺跡群（50）H－5・6号住居跡

H-5 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	極暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

H-7 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	暗褐色微砂層	粘性ややあり	締まり強い
5 黒	褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

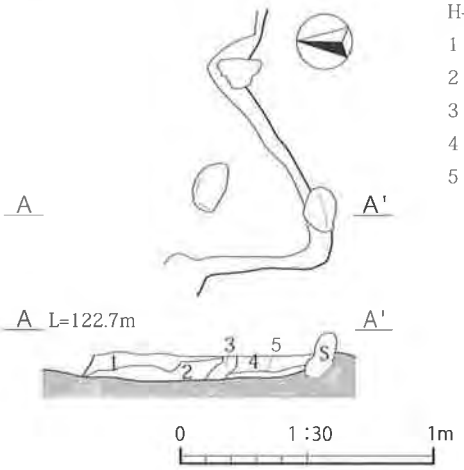


H-9 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い
4 層	黒褐色粗砂層	粘性ややあり	締まり強い
5 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
6 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
7 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.68　元総社蒼海遺跡群（50）H－7・9～11号住居跡

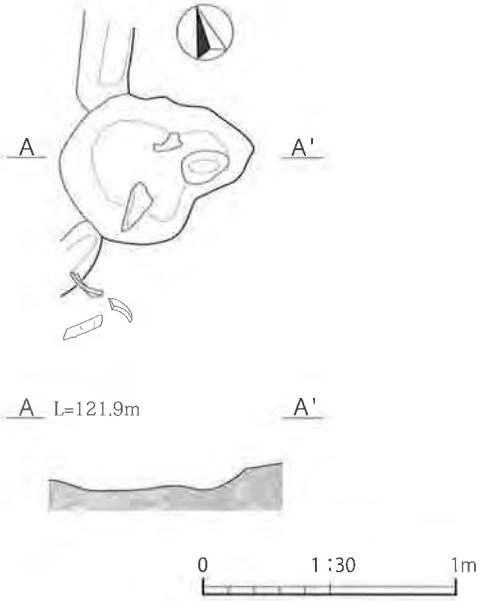
H- 9号住居跡カマド



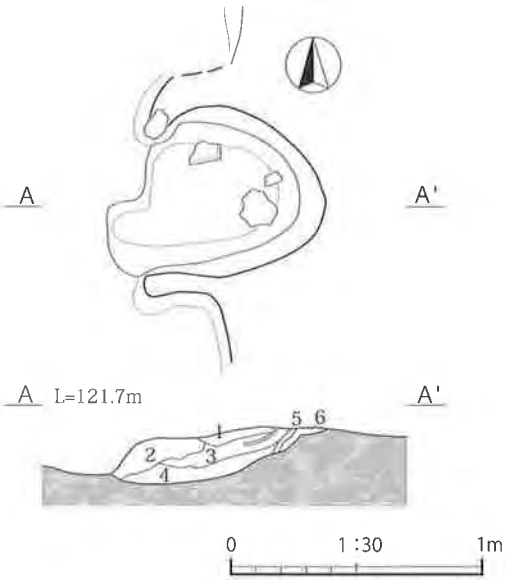
H-9 号住居跡カマド層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	暗褐色微砂層	粘性なし	締まりあり

H-10 号住居跡カマド



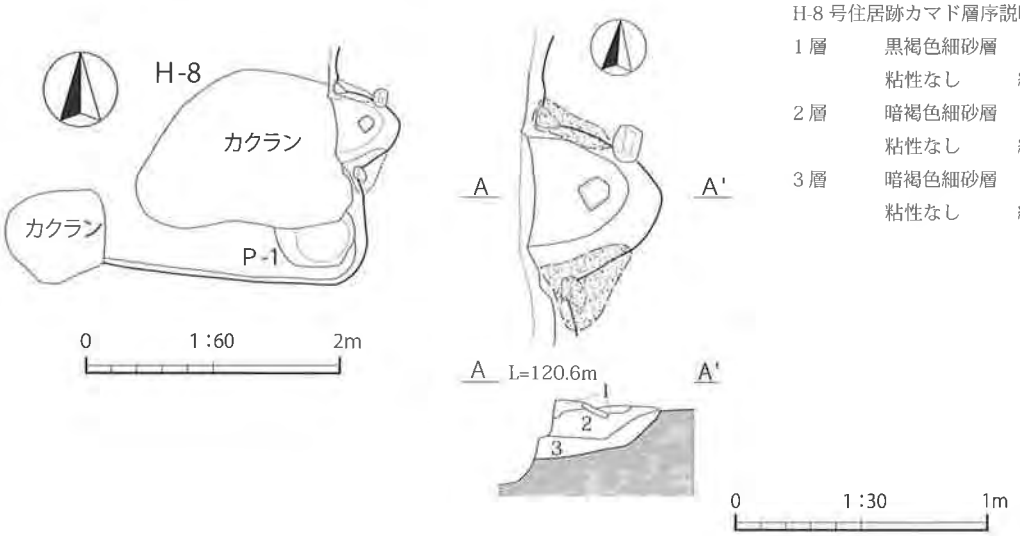
H-11 号住居跡カマド



H-11 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
6 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

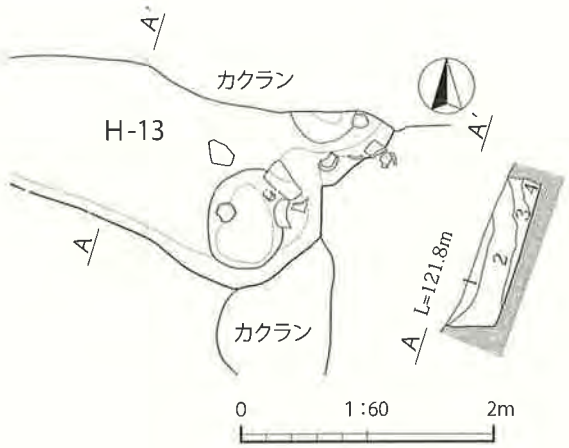
H-8 号住居跡カマド



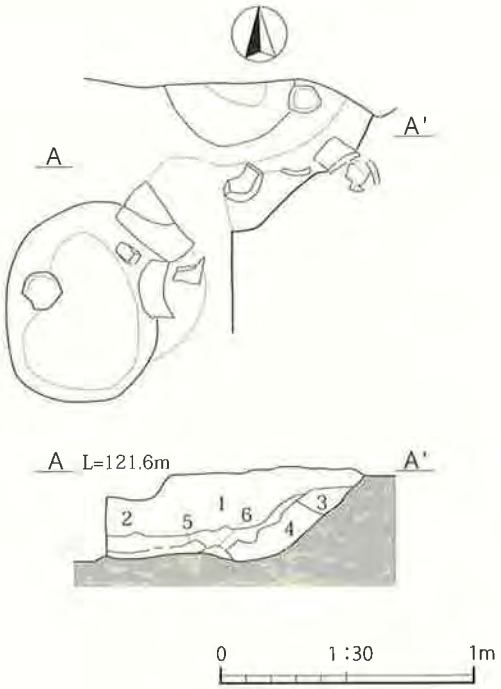
H-8 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	
	粘性なし	締まりあり
2 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い
3 層	暗褐色細砂層	
	粘性なし	締まり強い

Fig.69　元総社蒼海遺跡群（50）H―8～11号住居跡



H-13 号住居跡カマド

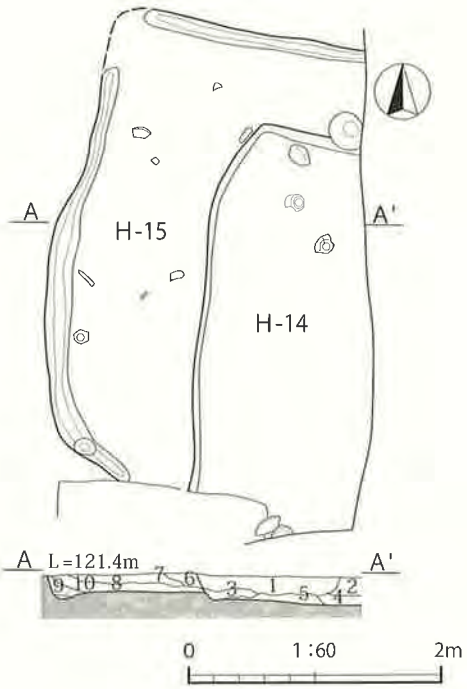


H-13 号住居跡層序説明

1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3 層	暗赤褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり

H-13 号住居跡カマド層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6 層	赤褐色細砂層	粘性なし	締まりあり



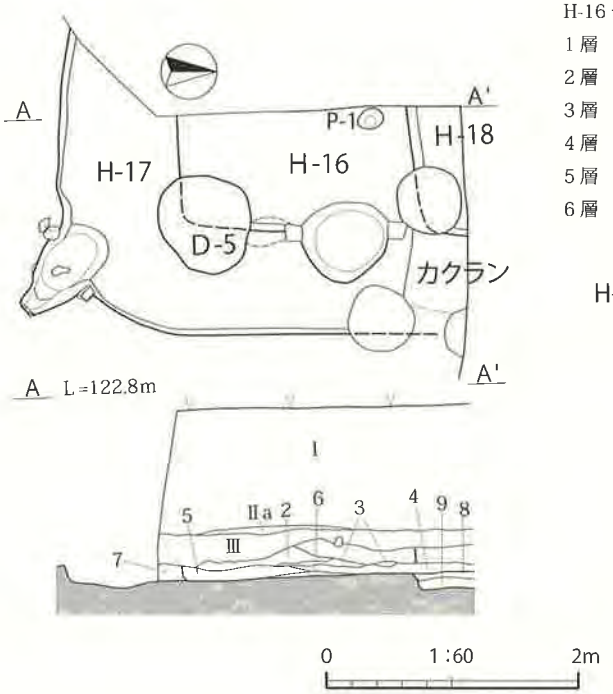
H-14 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

H-15 号住居跡層序説明

6 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
9 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
10 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

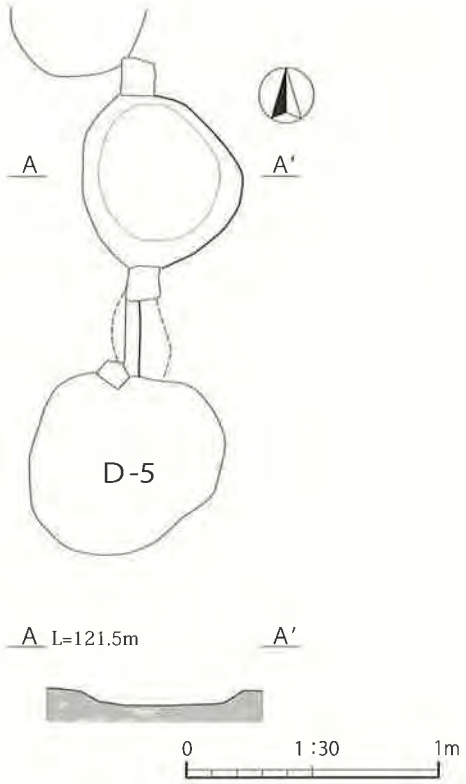
Fig.70　元総社蒼海遺跡群（50）H―13～15号住居跡



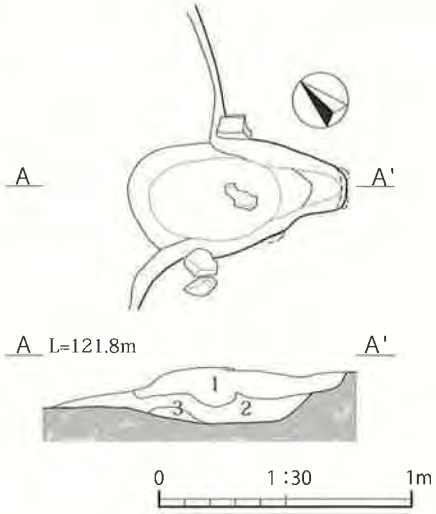
H-16 号住居跡層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
6 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

H-16 号住居跡カマド

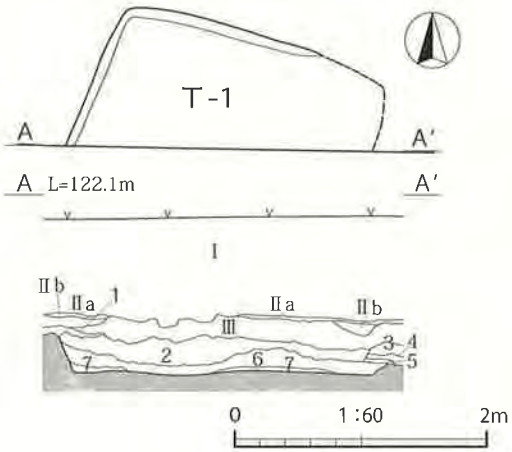


H-17 号住居跡カマド



H-17 住居跡カマド層序説明

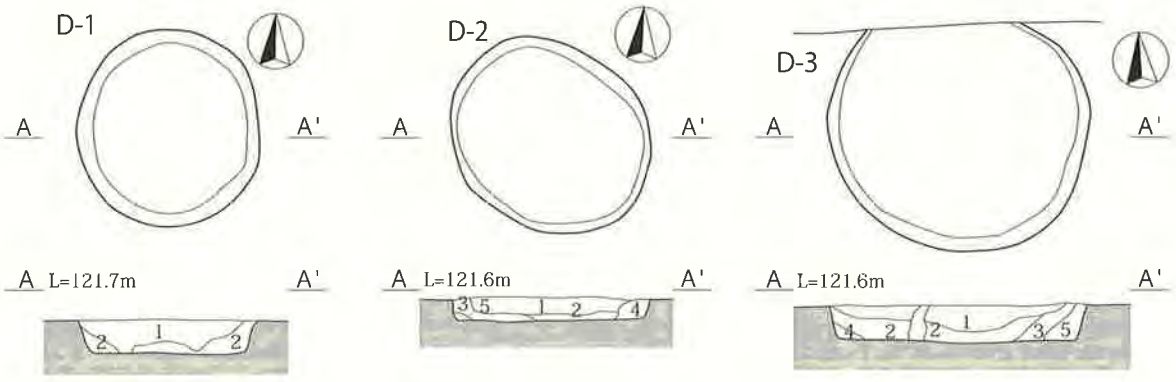
1 層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

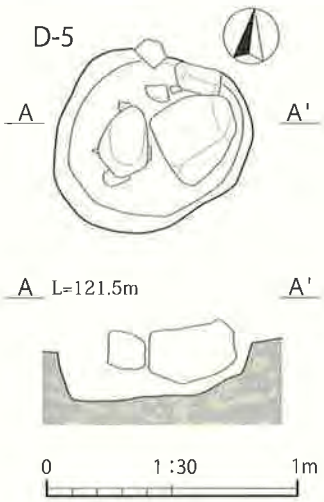


T-1 号竪穴状遺構層序説明

1 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色粗砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
6 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
7 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

Fig.71　元総社蒼海遺跡群（50）H－16～18号住居跡、T－1号竪穴状遺構





D-1 号土坑層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり

D-2 号土坑層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

D-3 号土坑層序説明

1 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まり強い
4 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まり強い
5 層	黒褐色細砂層	粘性あり	締まりあり

Fig.72　元総社蒼海遺跡群（50）D－1～3・5号土坑

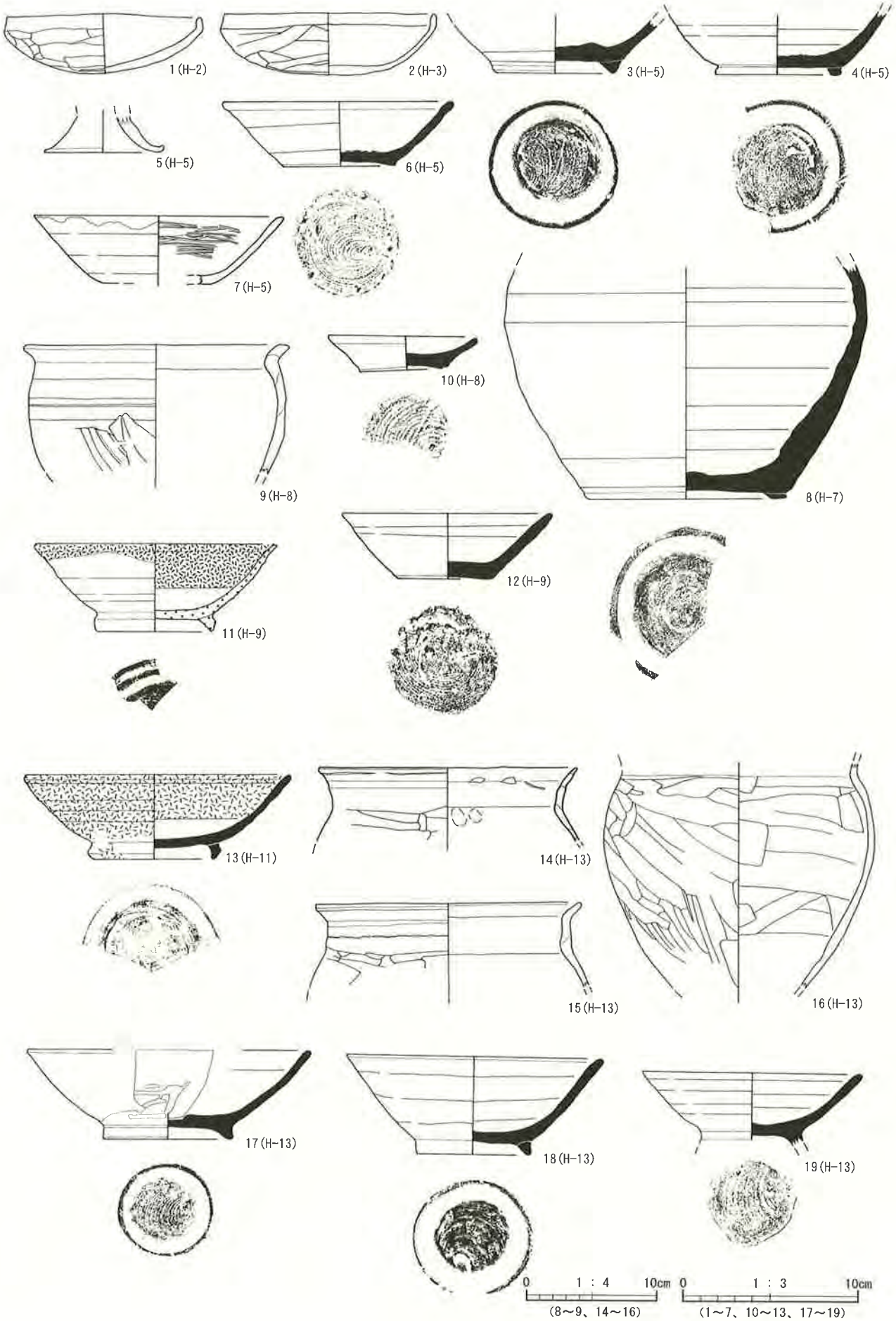


Fig.73　元総社蒼海遺跡群（50）出土遺物（1）

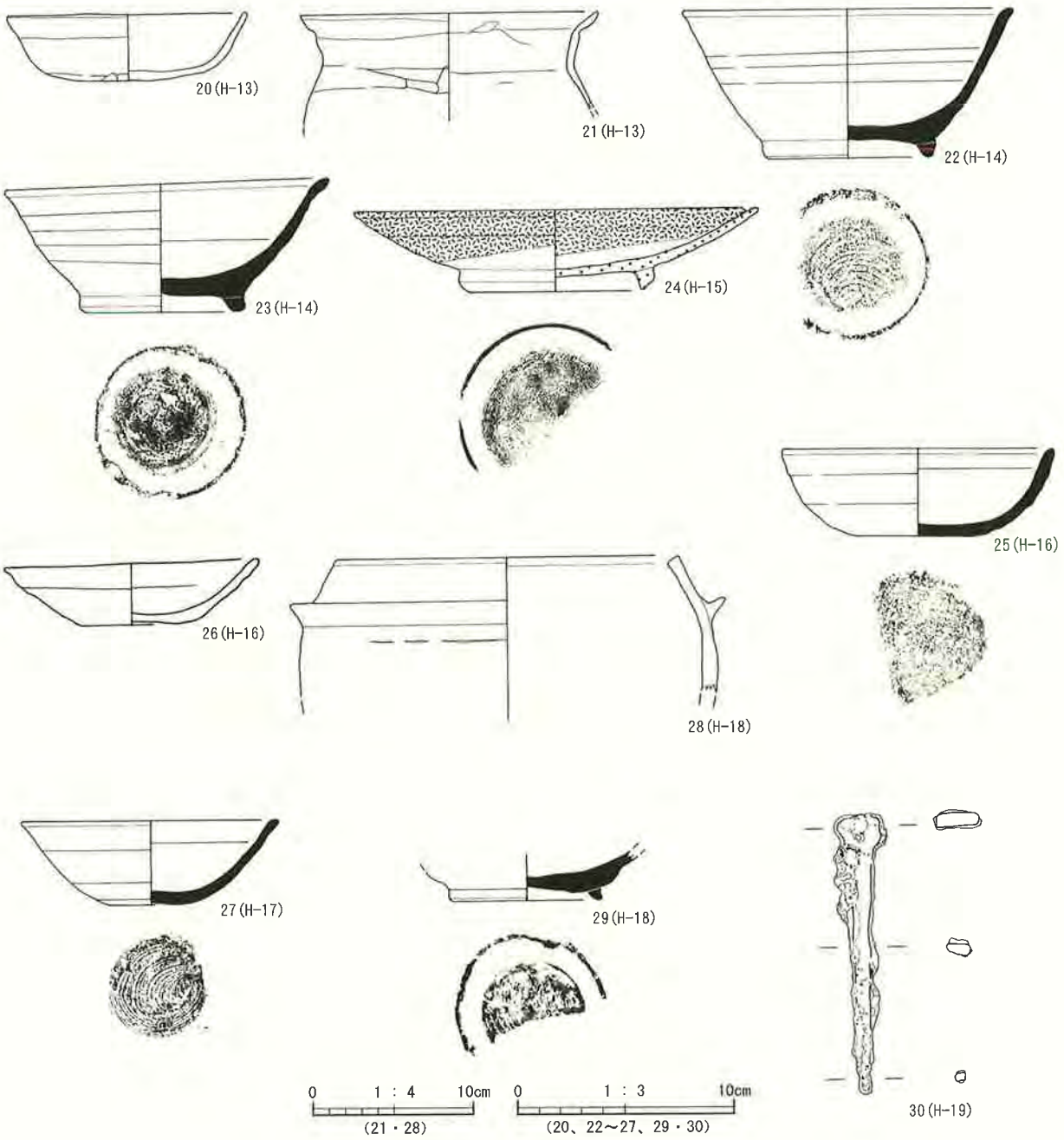


Fig.74　元総社蒼海遺跡群（50）出土遺物（2）

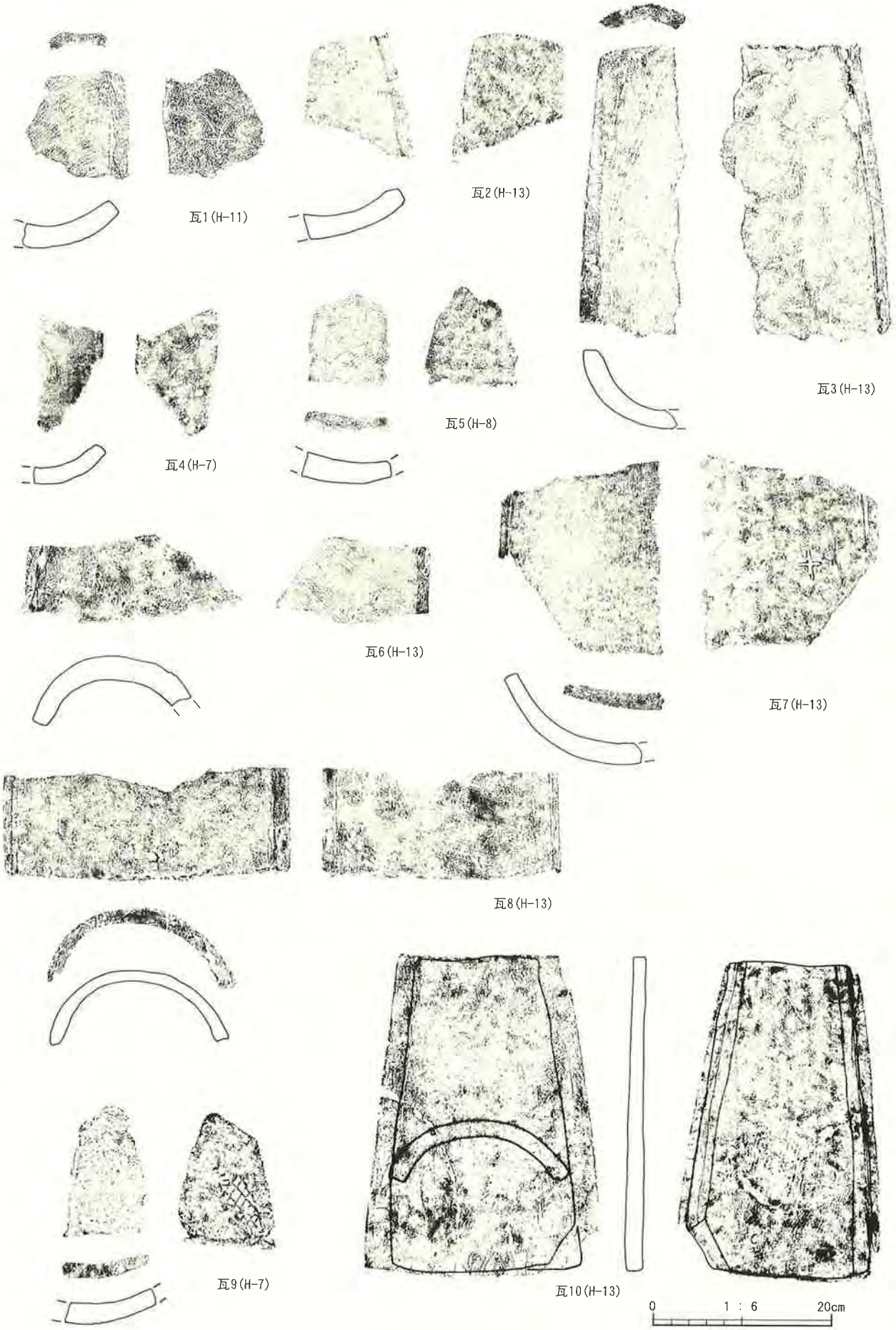


Fig.75　元総社蒼海遺跡群（50）出土瓦

Ⅷ　ま　と　め

鍛冶遺構について

今回、蒼海遺跡群（40）から、比較的保存状態の良い状態で、鍛冶遺構が検出され、調査された。H―13号住居跡の中央南寄りで検出したこの鍛冶遺構施設は、炉心・金床石、船と呼ばれる土坑、さらには操業の際に生じた滓などを捨てるための施設である廃滓土坑がセットで確認され、周辺からは鉄滓や・椀型滓・鍛造薄片が検出された。

炉心は地山に長軸長27cm・短軸長23cmの楕円形の深さ７cm程の浅い掘込みを穿った形で構築され、還元状態の鉄分を多量に包含する焼成灰層に覆われていた。また、椀型滓が操業当時の状態でこの焼成灰層の上に載っていた。確認当初、さらにこの炉心の上には径約30cmの多孔質の輝石安山岩の角円礫が載った状態であった。この石が操業当時にどのような役割を持ったものかは不明である。なお、この炉心の脇から、製品を作るための11×24mm、長さ20.4cmの棒状鉄製品（半製品）が出土している。鞴の存在は確認できなかった。操業がその形状等から、鍛造鍛冶に関わるものと推定できることから、手持ちの革製もしくは木製の鞴であったのかもしれない。

金床石、上面が平坦で長軸長40cm・短軸長24cm・厚さ32cmの大きな砂岩の円礫で、その上面は良く敲きこまれ、剝離の跡が確認できるほか、よく摩耗しており、テカテカと光沢を帯びていた。この金床石は、地山に掘り込まれた20cm程の穴に埋め込まれ、しっかりと固定されていた。

Ｐ―１は、金床石のに北側に近接して配され、長軸長56cm、短軸長34cm、深さ21cmを測るやや歪な楕円形を呈する。Ｐ―２は金床石の南に近接して配され、長軸長64cm、短軸長25cm、深さ27cmを測る長方形を呈する。いずれのピットからも鍛造薄片以外の遺物は検出されなかった。

廃滓土坑は、これら炉心・金床石・ピットを結ぶ線の中央北側に配される。長軸長86cm・短軸長68cm・深さ21cmを測るやや歪な方形を呈する。

炉心中央から金床石の中央までの距離は110cmを測る。

鉄・鉄器生産の工程は①採鉱②築炉③製錬④選別⑤精錬鍛冶（大鍛冶）⑥鍛練鍛冶（小鍛冶）・鋳造の６工程に大別して把握できる（穴沢 1989）

編者はかつて、大胡町教育委員会刊『横沢芳山・横沢大塚遺跡』（2002）において群馬県内の⑤精錬鍛冶および⑥鍛練鍛冶の遺構について集成し、鍛冶炉の存在パターンによる分類を試みた。分類の方法、基準はTab.２に示したとおりであるが、結果として、県内において確認された遺構は11種の分類（空欄は結果として存在が確認できなかった）に収まる結果となった。その際の集成と分類を示したものが、Tab.３である。

今回検出調査された鍛冶遺構は、この分類に従えばＣ―１類（竪穴住居跡内に鍛冶炉が存在し、それに敷設した土坑をもつ）に当てはまる。遺構はその出土遺物から８世紀の第４四半期であり、鍛冶遺構の変遷史においては、広く一般集落内にも、鍛冶遺構が普及する９世紀より、若干早い時期である。

本遺跡の南約１kmには上野国府直属と想定できる大規模な鍛冶工房を擁する鳥羽遺跡が存在する。本遺構の成立過程において、鳥羽遺跡の鍛冶工房（８世紀中～後半）の存在が影響したものと想像できる。

Tab. 2　鍛冶遺構分類基準

鍛冶炉と建物との関係		鍛冶炉及び土坑の有無		鍛冶炉の個数	
				1基のみ	複数
A類	掘立柱建物内に鍛冶炉が存在するもの	―1類	鍛冶炉とそれに敷設される土坑が存在するもの	A―1a類	A―1b類
		―2類	鍛冶炉のみが存在するもの		
		―3類	家事関連遺物を包含する土坑のみが存在するもの		
B類	竪穴状の遺構内に鍛冶炉が存在するもの	―1類	鍛冶炉とそれに敷設される土坑が存在するもの	B―1a類	B―1b類
		―2類	鍛冶炉のみが存在するもの		B―2b類
		―3類	家事関連遺物を包含する土坑のみが存在するもの		
C類	竪穴住居内に鍛冶炉が存在するもの	―1類	鍛冶炉とそれに敷設される土坑が存在するもの	C―1類	
		―2類	鍛冶炉のみが存在するもの	C―2類	
		―3類	家事関連遺物を包含する土坑のみが存在するもの	C―3類	
D類	上屋や外部との区画が認められず屋外に存在するもの	―1類	鍛冶炉とそれに敷設される土坑が存在するもの	D―1類	
		―2類	鍛冶炉のみが存在するもの	D―2類	
		―3類	家事関連遺物を包含する土坑のみが存在するもの	D―3類	

※空欄は結果として、県内では未確認

参考・引用文献

窪田蔵郎　1973　『鉄の考古学』雄山閣出版株式会社

たたら研究会　1987　『日本古代の鉄生産』

田口勇　1988　『鉄の歴史と化学』裳華房

麻柄幸子　1988　「古代北陸の鉄生産」『同志社大学考古学シリーズⅣ考古学と技術』

福島雅儀　1988　「福島県における古代の鍛冶遺構」『同志社大学考古学シリーズⅣ考古学と技術』

国立歴史民俗博物館　1994　『国立歴史民俗博物館研究報告第58集　日本・韓国の鉄生産技術《調査編1》』

国立歴史民俗博物館　1994　『国立歴史民俗博物館研究報告第59集　日本・韓国の鉄生産技術《調査編2》』

赤沼英男・福田豊彦　1997　「鉄の生産からみた北方世界」『国立歴史民俗博物館研究報告第72集』国立歴史民俗博物館

横浜市歴史博物館・㈶横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター　1998　『兵の時代―古代末期の東国社会―』

寄居町遺跡調査会　1999　『中山遺跡』(第1次・第2次)

村上恭通　1999　『倭人と鉄の考古学』㈱青木書店

鉄器文化研究会　2001　『日韓鉄器文化の特質と交流』

尾崎高宏　2001　「新潟県における古代の製鉄―鍛冶関連遺構の検討―」『研究紀要　第3号』㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団

大田区立強度博物館　2001　『ものづくりの考古学』東京美術

佐々木稔ほか　2002　『鉄と銅の生産の歴史―古代から近世初頭にいたる』竹内書店新社

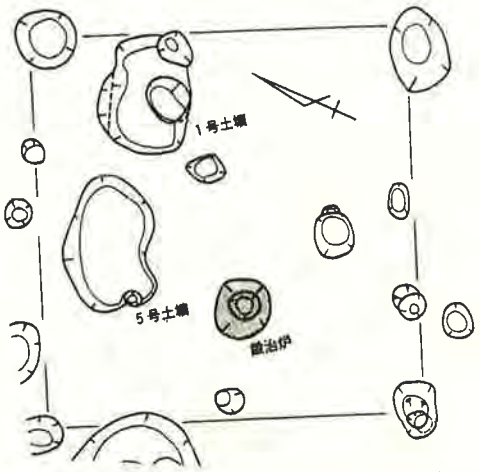
大胡町教育委員会　2002　『横沢芳山遺跡・横沢大塚遺跡』

佐々木稔ほか　2009　『鉄と銅の生産の歴史―金・銀・鉛も含めて　増補改訂版』竹内書店新社

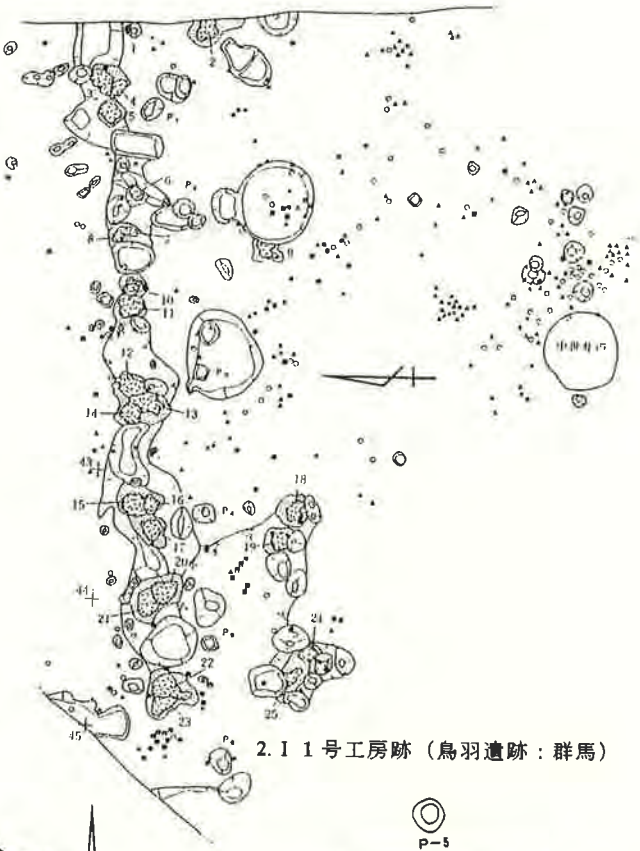
Tab. 3　群馬県内鍛冶遺構集成

番号	市町村	合併前	遺跡名	遺構名	分類	時期	鍛冶関連出土遺物	化学分析	
								分析者	分析結果
1	桐　生	桐　生	大門遺跡	92鍛冶工房遺構	A－1 a	9～10C	スケール		
2	高　崎	群　馬	鳥羽遺跡	Ⅰ1号工房跡	A－1 b	8 C前半	羽口・砥石類・鉱滓小塊・金敷用台石・微細鉄片・銅滓	大澤正己	鍛錬滓・精錬滓・精錬前の小塊（砂鉄系）
3	高　崎	群　馬	鳥羽遺跡	Ⅰ2号工房跡	A－1 b	8 C中頃	砥石・羽口類・銅滓・金敷用台石	大澤正己	鍛錬滓・精錬滓・精錬前の小塊（砂鉄系）
4	桐　生	新　里	峯岸遺跡	13号住居（小鍛冶）	B－1 a	9 C前半	鉱滓		
5	前　橋	富士見	小原目遺跡	1号小鍛冶	B－1 a		金床石・鉄粉・鉄製品・椀型滓・羽口・砥石		
6	前　橋	前　橋	芳賀東部団地遺跡Ⅰ	5号製鉄址	B－1 a		焼石・羽口・鉄滓	桂敬・高塚秀治	鍛錬滓
7	前　橋	前　橋	鳥取福蔵寺遺跡	製錬鍛冶炉	B－1 a	9 C中頃	羽口・砥石・鉄滓・椀型滓・流動滓・チップ・金鉗様破片・鉄器未成品・鉄器半製品		
8	吉　岡	吉　岡	大久保A遺跡	第1号遺構	B－1 a	10C末	鉄滓・鉄製品（斧・刀子・タガネ？）・半製品・破片		
9	安　中	松井田	行田梅木平遺跡	1号製鉄炉	B－1 a		羽口		
10	安　中	松井田	行田梅木平遺跡	2号製鉄炉	B－1 a		羽口・小鉄滓		
11	前　橋	大　胡	横沢芳山遺跡	鍛冶遺構	B－1 a	9 C後半	羽口・椀型滓・流動滓・鉄塊系遺物・鍛造剝片・金床石・半製品	日鐵テクノリサーチ	製錬滓
12	前　橋	大　胡	堀越丁二本松遺跡	小鍛冶遺構	B－1 a	9 C後半	羽口・金床石・鉄滓		
13	高　崎	群　馬	鳥羽遺跡	K1号工房跡	B－1 b	8 C中～後半	羽口		
14	高　崎	群　馬	鳥羽遺跡	Ⅰ3号工房跡	B－1 b	8 C中	銅滓・羽口・砥石類・鉄滓小塊・金敷用台石・微細鉄片	大澤正己	精錬鍛冶滓・精錬前の小塊（砂鉄系）
15	高　崎	群　馬	鳥羽遺跡	Ⅰ4号工房跡	B－1 b	8 C中	台石破片		
16	高　崎	群　馬	鳥羽遺跡	Ⅰ5号工房跡	B－1 b	8 C前半	台石破片		
17	沼　田	沼　田	町田小沢Ⅱ遺跡	小鍛冶跡	B－1 b		鞴羽口		
18	前　橋	前　橋	芳賀東部団地遺跡Ⅰ	4号製鉄址	B－1 b		焼石・椀型鉄滓・チップス・羽口・鉄製品・炉壁	桂　敬・高塚秀治	鍛錬滓・鍛冶滓の混在
19	前　橋	前　橋	芳賀東部団地遺跡Ⅱ	T2号製鉄址	B－1 b	奈良後期	鉄鉗・鉄滓・チップス・羽口・椀型滓		
20	前　橋	前　橋	芳賀東部団地遺跡Ⅱ	T3号製鉄址	B－1 b		羽口・鉄滓・椀型滓		
21	前　橋	前　橋	堤東遺跡	小鍛冶跡	B－1 b	9 C中頃か第2四半期	スラグ・羽口・スッケール・鉗塙・鉄釘		
22	高　崎	吉　井	黒熊中西遺跡	8号テラス	B－1 b		敲き石状の石・鉄滓・鉄釘		
23	渋　川	北　橘	羽場遺跡	小鍛冶遺構	B－2 b		羽口破片・鉄製品破片（釘・刀子・不明品）		
24	伊勢崎	伊勢崎	下植木壱町田遺跡	1区5B号住居跡	C－1	9 C後半	羽口・鉄滓・椀型滓・チップ	赤沼英男	精錬滓・鍛錬滓
25	みどり	大間々	瀬戸ヶ原遺跡（B区）	H－1号住居跡	C－1	9 C後半	鞴羽口・椀型滓・台石		
26	みどり	笠　懸	笠懸村宮久保遺跡	25号住居跡	C－1		鉄製品・鉄滓・鞴羽口		
27	桐　生	桐　生	清水西遺跡	1号住居跡	C－1	8 C中葉	鉄滓		
28	高　崎	群　馬	冷水村東遺跡・西国分新田遺跡	B区1号住居跡	C－1	9 C第1四半期	羽口・金敷・椀型滓・鉄滓炉壁片		
29	高　崎	群　馬	上野国分僧寺・尼寺中間地域	B区第78号住居跡	C－1	9 C前半	羽口・鉄滓・台石・椀型滓		
30	渋　川	渋　川	田中遺跡	11号住居跡	C－1	平安	台石・羽口・椀型滓・スケール		
31	高　崎	高　崎	田端遺跡	B区第7B号住居跡	C－1	10C末～11C	鞴羽口・鉄製品	高塚秀治	製錬滓・鍛冶滓の混在
32	桐　生	新　里	峯岸遺跡	62号住居（小鍛冶）	C－1	9 C後半	羽口・鉄滓		
33	太　田	新　田	中江田八ツ縄遺跡	2区27号住居跡	C－1	10C後半	羽口・鉄製品		
34	沼　田	沼　田	赤坂遺跡	6号住居跡	C－1	平安	鞴羽口		
35	前　橋	前　橋	芳賀北部団地遺跡Ⅰ	H197号住居跡	C－1		鞴羽口		
36	前　橋	前　橋	芳賀北部団地遺跡Ⅱ	H87号住居跡	C－1	9 C後半	鉄滓・羽口・鉗塙		

番号	市町村	合併前	遺跡名	遺構名	分類	時期	鍛冶関連出土遺物	化学分析	
								分析者	分析結果
37	前橋	前橋	堤東遺跡	1号住居跡	C－1	奈良	鉄滓		
38	前橋	前橋	二之宮宮東遺跡	竪穴住居跡J112遺構	C－1	9C後半	羽口・鉄滓・鉄斧・不明鉄製品	井上巌	鉄の粗鉱的
39	吉岡	吉岡	沼南遺跡	61号住居跡	C－1	10C後半	台石・羽口・チップ・小スラグ		
40	高崎	吉井	黒熊栗崎遺跡	20号住居跡	C－2	9C前半～中	羽口・鉄滓・砥石・焼石・台石・鉄釘		
41	高崎	群馬	上野国分僧寺・尼寺中間地域	B区第40号住居跡	C－2	10C後半	羽口・スラグ		
42	太田	太田	東田遺跡	第1号住居跡	C－3		羽口・鉄滓		
43	高崎	高崎	山名柳沢遺跡	28号住居跡	C－3		鉄滓・炉壁・椀型滓		
44	高崎	高崎	田端遺跡	B区第4号住居跡	C－3	11C前半	鉄滓・フイゴ羽口	高塚秀治	製錬滓・鍛冶滓
45	沼田	沼田	赤坂遺跡	1号住居跡	C－3	平安			
46	沼田	沼田	赤坂遺跡	1号住居跡	C－3	平安	羽口・鉄製品（釘）		
47	沼田	沼田	石墨遺跡	31号住居跡	C－3	8C後半	砥石・羽口・椀型滓	赤沼英男	精錬滓
48	高崎	吉井	矢田遺跡III	03号住居	D－1	11C以降	鞴片・鉄滓		
49	太田	尾島	三ツ木皿沼遺跡	60号住居上層遺構	D－1	10C前葉以降	鍛造剝片・鉄滓・羽口・椀型滓・塊状滓		
50	渋川	北橘	分郷八崎遺跡	1号精錬炉	D－1		鉄滓・フイゴ		
51	渋川	北橘	分郷八崎遺跡	2号精錬炉	D－1		鉄滓		
52	渋川	渋川	有馬条里遺跡II	2号鍛冶遺構	D－1		羽口		
53	沼田	沼田	石墨遺跡	2号鍛冶炉	D－1	8C後半	鍛造剝片・小型塊状滓・ふいご・羽口・椀型滓・球状滓	赤沼英男	精錬滓・鍛冶滓の混在
54	藤岡	藤岡	稲荷屋敷遺跡	DKD－1～5号鍛冶遺構	D－1		羽口・炉壁・鉄滓・鞴羽口	大澤正己	5号　精錬前鉄塊・精錬滓・鍛錬滓
55	藤岡	藤岡	稲荷屋敷遺跡	DKD－6号鍛冶遺構	D－1	10C後半～11C	台石・鍛造剝片・粒状滓・椀型滓	大澤正己	鍛錬滓
56	前橋	前橋	芳賀北部団地遺跡I	F－3号製鉄址	D－1		羽口・椀型滓		
57	高崎	吉井	黒熊中西遺跡	1号炉・1号土坑	D－1		鉄滓・フイゴ羽口		
58	吉岡	吉岡	大久保A遺跡	第2号遺構	D－1	10C	鞴羽口・鉄滓・チップ		
59	前橋	大胡	浅見遺跡	鍛冶関連遺構（鍛冶炉・10号土坑・11号土坑・12号土坑）	D－1	9C後半	羽口・鉄滓		
60	昭和	昭和	川原軍原I遺跡	1号鍛冶炉	D－2	古代	鉄滓		
61	伊勢崎	伊勢崎	下植木壱町田遺跡	1区1号鍛冶遺構	D－3	10C前半	羽口片・鉄滓・椀型滓	赤沼英男	溶銑の脱炭による鋼精錬滓
62	伊勢崎	伊勢崎	下植木壱町田遺跡	1区2号鍛冶遺構	D－3	10C前半	椀型滓		
63	伊勢崎	伊勢崎	下植木壱町田遺跡	1区3号鍛冶遺構	D－3	10C前半	羽口・鉄滓・チップ		
64	伊勢崎	伊勢崎	下植木壱町田遺跡	3区1号鍛冶遺構	D－3	9C前半	鉄滓・チップ・湯玉		
65	伊勢崎	伊勢崎	上植木光仙房遺跡	1号小鍛冶跡	D－3		羽口・砥石		
66	伊勢崎	伊勢崎	上植木光仙房遺跡	2号小鍛冶跡	D－3		羽口・砥石		
67	太田	尾島	三ツ木皿沼遺跡	1号炉	D－3	10C前葉～11C前半	鉄滓・羽口・針状鉄製品・椀型滓・塊状滓		
68	太田	尾島	三ツ木皿沼遺跡	2号炉	D－3		鍛造剝片・鉄滓・羽口		
69	高崎	群馬	鳥羽遺跡	I 3号土坑	D－3		鉄滓		
70	高崎	群馬	鳥羽遺跡	I 4号土坑	D－3		鉄滓		
71	藤岡	藤岡	稲荷屋敷遺跡	EKD－1号鍛冶遺構	D－3		鉄滓・炉壁・砂鉄・鍛造剝片		
72	前橋	前橋	芳賀北部団地遺跡I	P－3土坑	D－3		鉄滓		
73	前橋	前橋	芳賀北部団地遺跡I	F－号2製鉄址	D－3		鉄滓・フイゴ口		
74	前橋	前橋	神明東遺跡	D－6号土坑	D－3		鞴羽口・鉄滓		
75	高崎	吉井	矢田遺跡III	01号小鍛冶	D－3	古代？	鞴片・鉄滓		

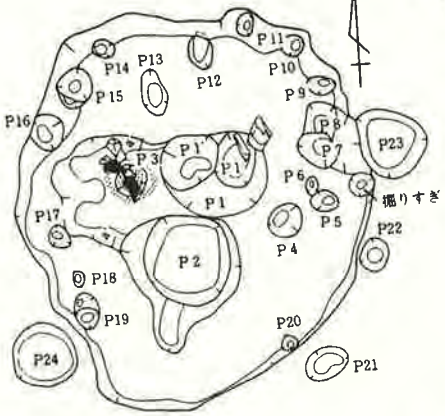


1.92 号鍛冶工房遺構（大門遺跡：桐生）

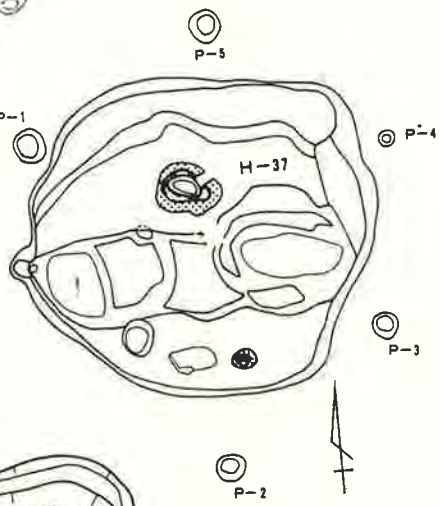


2. I 1 号工房跡（鳥羽遺跡：群馬）

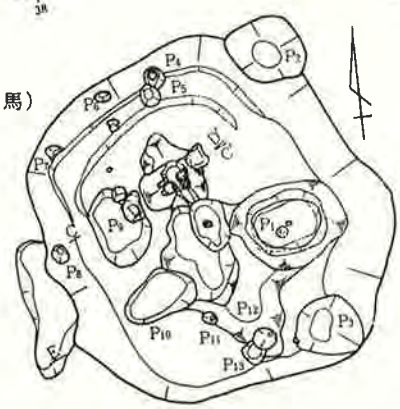
3. I 2 号工房跡
（鳥羽遺跡：群馬）



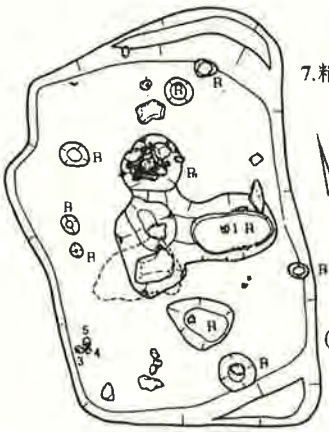
6. 5 号製鉄跡
（芳賀東部団地遺跡 I ：前橋）



7.精錬鍛冶炉
（鳥取福蔵寺遺跡：前橋）



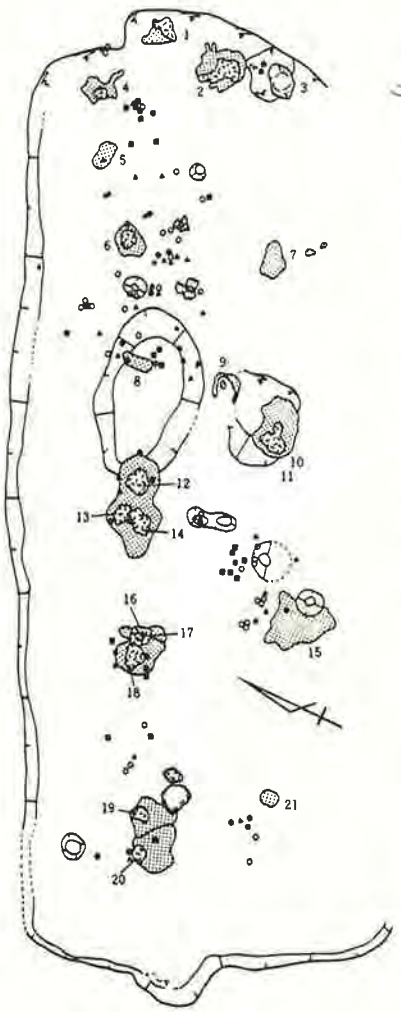
11.鍛冶遺構（横沢芳山遺跡：大胡）



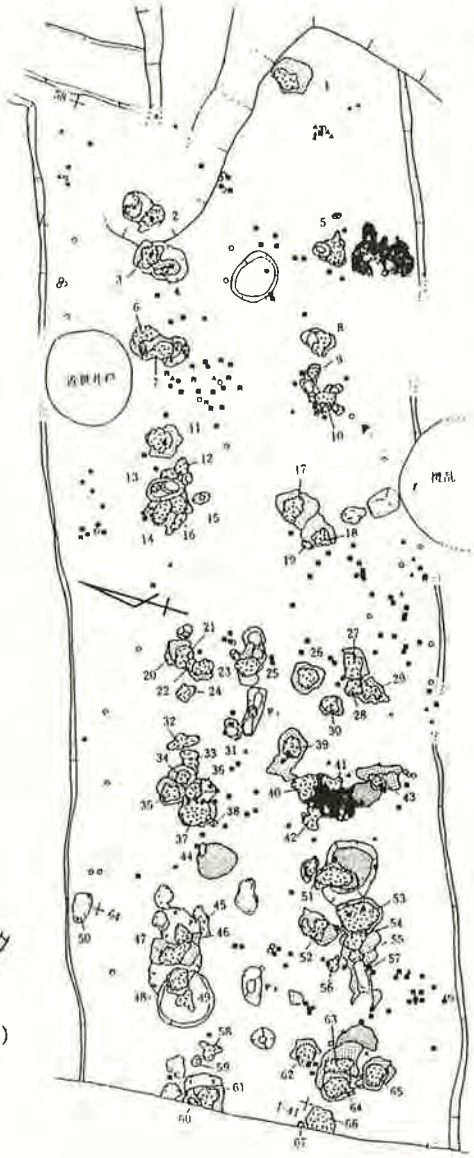
12.小鍛冶遺構
（堀越丁二本松遺跡：大胡）

0 2・3 6 m
0 4 m

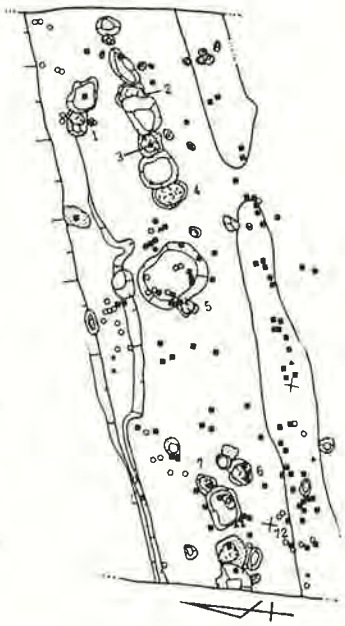
Fig.76　群馬県内鍛冶遺構集成（1）



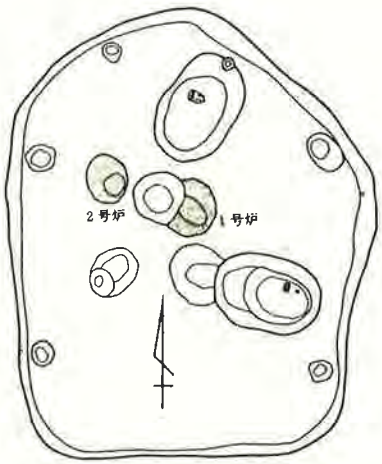
15. I 4号工房跡（鳥羽遺跡：群馬）



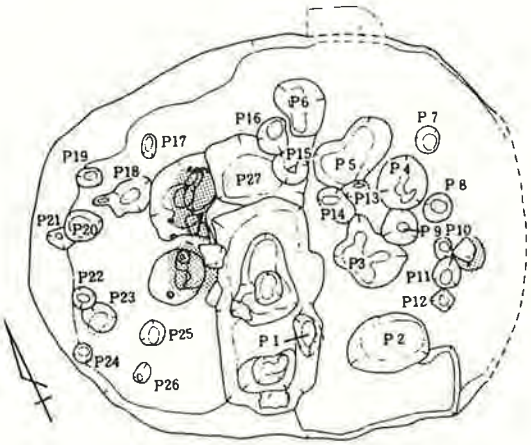
14. I 3号工房跡（鳥羽遺跡：群馬）



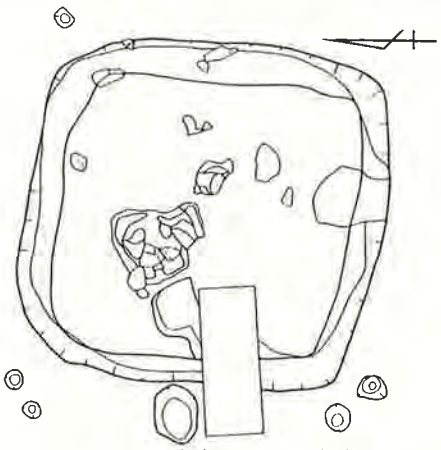
13. K 1号工房跡（鳥羽遺跡：群馬）



21. 小鍛冶跡（堤東遺跡：前橋）



18. 4号製鉄址(芳賀東部団地遺跡Ⅰ：前橋)

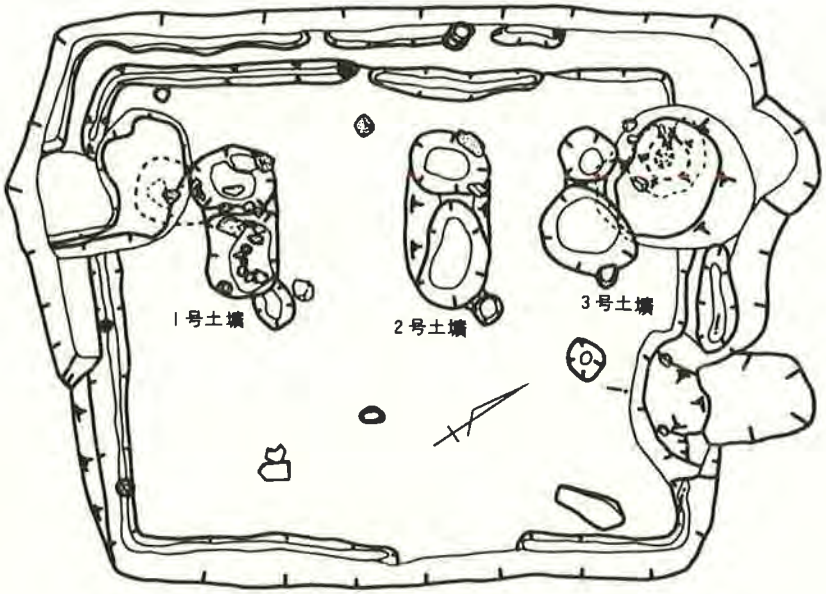


23. 小鍛冶遺構（羽場遺跡：北橋）

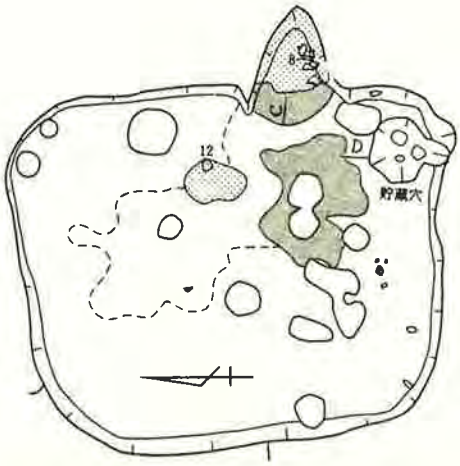
0 13・14・15 6 m

0 4 m

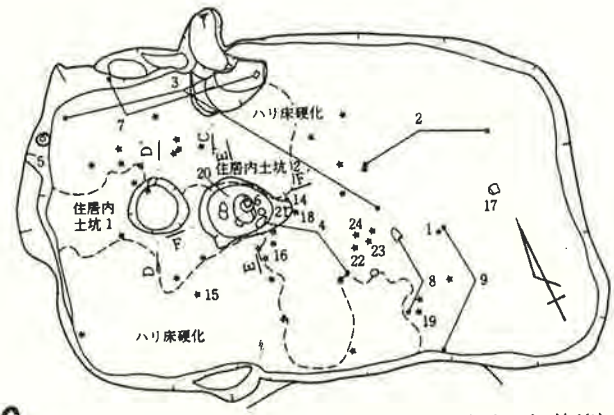
Fig.77　群馬県内鍛冶遺構集成（2）



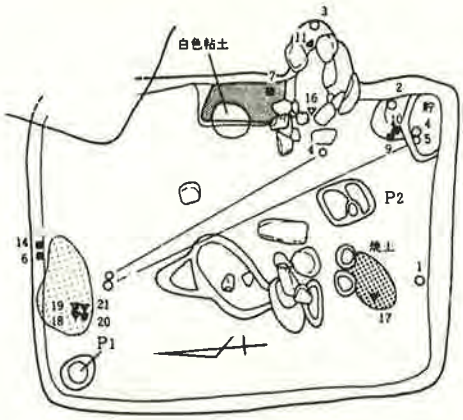
27.1号住居跡（清水西遺跡：桐生）



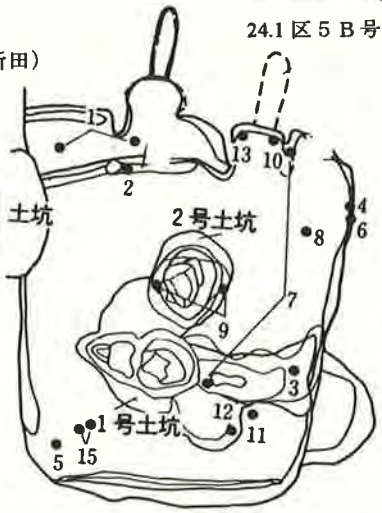
33.2区27号住居跡（中江田八ツ縄遺跡：新田）



24.1区5B号住居跡（下植木壱町田遺跡：伊勢崎）



36.H87号住居跡（芳賀東部団地遺跡Ⅱ：前橋）



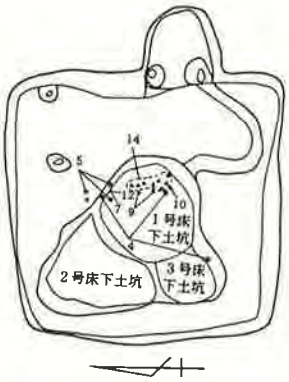
31.B区7B号住居跡
（田端遺跡：高崎）

38.竪穴住居跡 J112 遺構
（二之宮宮東遺跡：前橋）

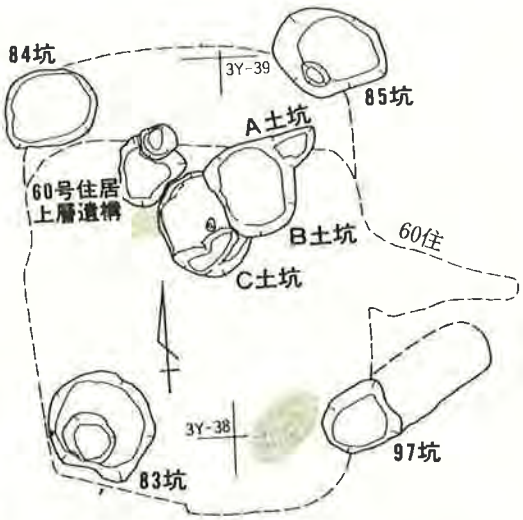
0 4m

Fig.78　群馬県内鍛冶遺構集成（3）

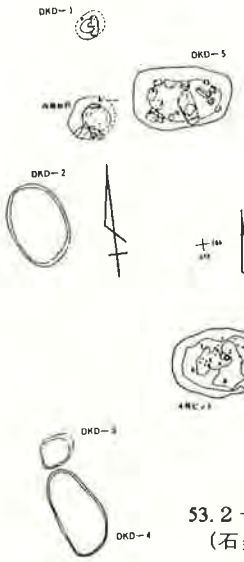
41.B 区第 40 号住居跡
（上野国分僧寺・尼寺中間地域
：群馬）



47.31 号住居（石墨遺跡：沼田）

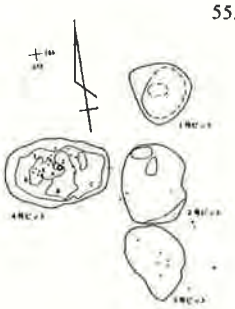


49.60 号住居上層遺構（三ツ木皿沼遺跡：尾島）

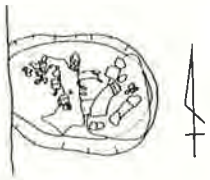


54.DKD-1~5 号鍛冶遺構
（稲荷屋敷遺跡：藤岡）

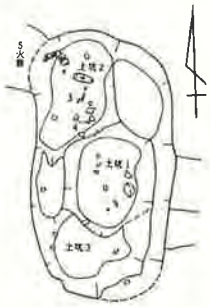
55.DKD 6 号鍛冶遺構
（稲荷屋敷遺跡：藤岡）



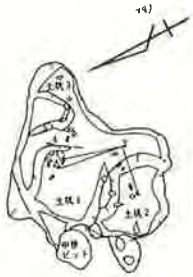
53. 2 号製鉄炉
（石墨遺跡：沼田）



60. 1 号鍛冶炉
（川額軍原 I 遺跡：昭和）



61.1 区 1 号鍛冶遺構
（下植木壱町田遺跡：伊勢崎）

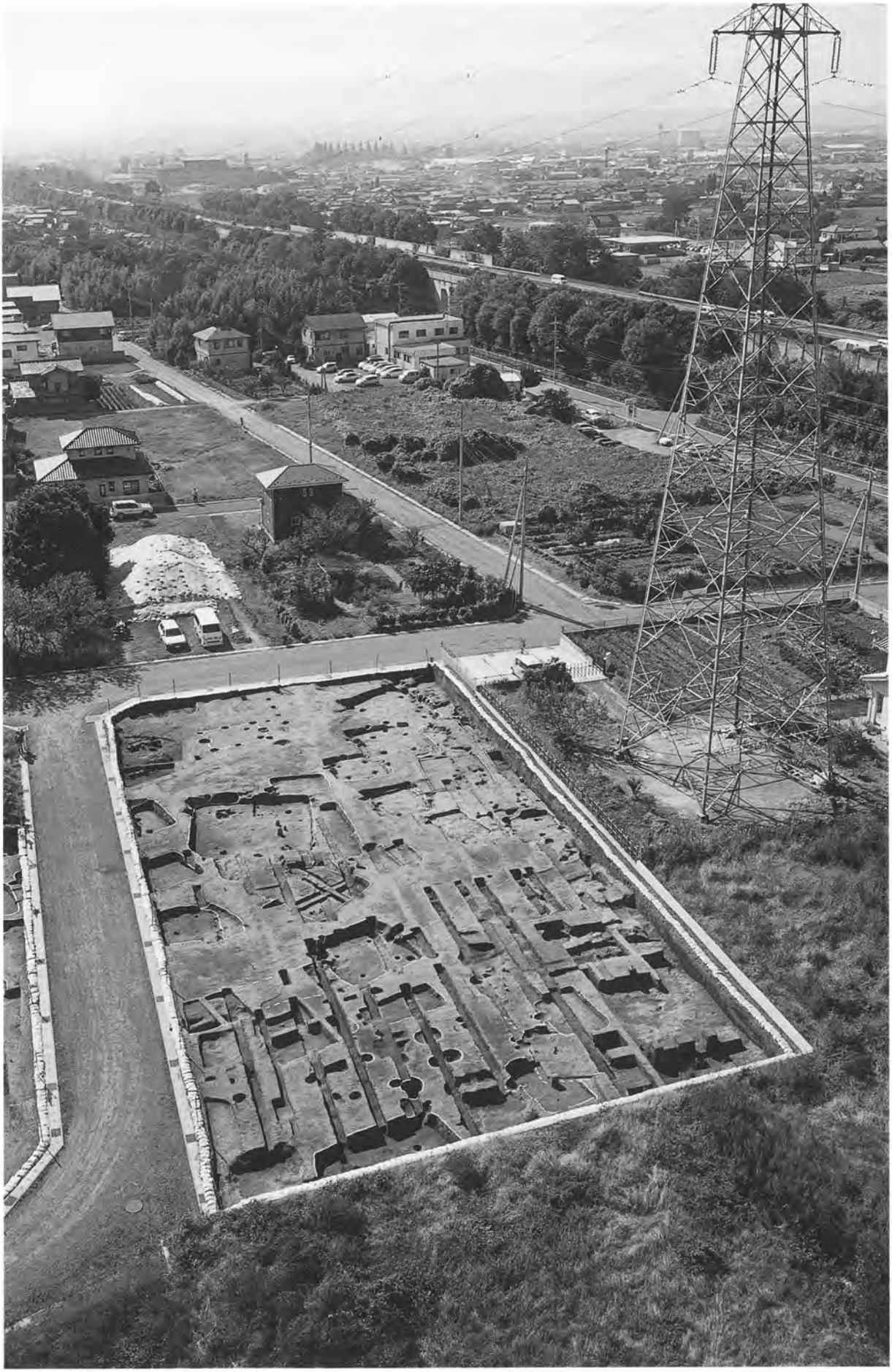


62.1 区 2 号鍛冶遺構
（下植木壱町田遺跡：伊勢崎）

0 4 m

Fig.79　群馬県内鍛冶遺構集成（4）

図　　版



元総社蒼海遺跡群(40)調査区全景（北から）

元総社蒼海遺跡群(40)調査区全景（真上から）

元総社蒼海遺跡群(40)調査区全景（東から）

元総社蒼海遺跡群(40)調査区全景（南東から）

元総社蒼海遺跡群(40) J － 1 全景（南から）

元総社蒼海遺跡群(40) J － 1 遺物出土状態

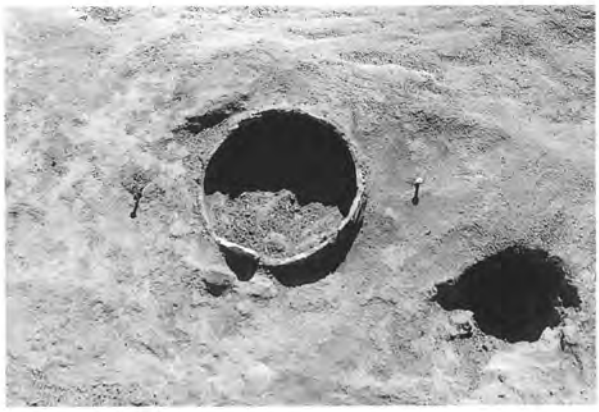
元総社蒼海遺跡群(40) J － 1 埋甕

元総社蒼海遺跡群(40) J － 1 遺物出土状態

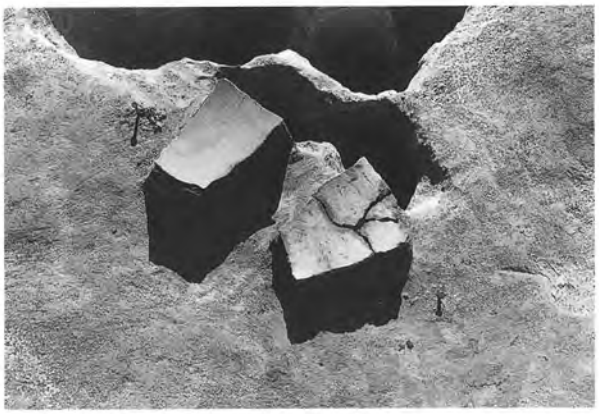
元総社蒼海遺跡群(40) J － 1 遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40) J － 2 全景（北から）

元総社蒼海遺跡群(40) J － 2 遺物出土状態



元総社蒼海遺跡群(40) J － 3 埋甕



元総社蒼海遺跡群(40) J － 3 遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40) J － 3 遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40) J － 3 全景（北から）

元総社蒼海遺跡群(40) J － 3 a 全景

元総社蒼海遺跡群(40) J － 3 b 全景

元総社蒼海遺跡群(40) JD － 1 全景

元総社蒼海遺跡群(40) JD － 2 全景

元総社蒼海遺跡群(40) U－1 全景

元総社蒼海遺跡群(40) U－2 全景

元総社蒼海遺跡群(40)石匙出土状態

元総社蒼海遺跡群(40) H－1 全景（北から）

元総社蒼海遺跡群(40)調査区南西部全景（真上から）

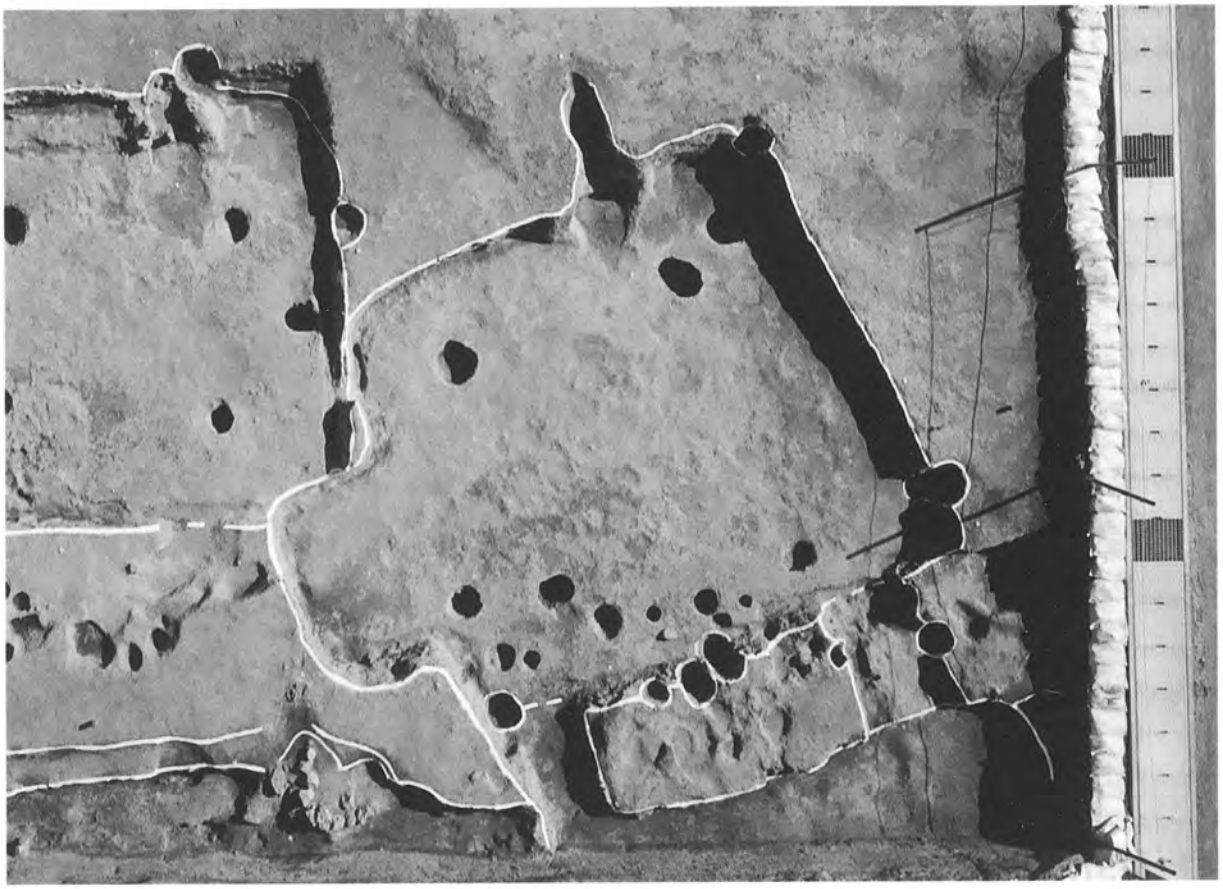
元総社蒼海遺跡群(40)H－1遺物出土状態（東から）

元総社蒼海遺跡群(40)H－4竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－4全景（南東から）

元総社蒼海遺跡群(40)H－4遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40)H－4遺物出土状態



元総社蒼海遺跡群(40)H－4全景（真上から）

元総社蒼海遺跡群(40)H－6竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－6土層堆積状況

元総社蒼海遺跡群(40)H－6全景

元総社蒼海遺跡群(40) H－7全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(40) H－7竈全景

元総社蒼海遺跡群(40) H－7竈全景

元総社蒼海遺跡群(40) H－7遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40) H－7遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40) H－8全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(40) H－8竈全景

元総社蒼海遺跡群(40) H－8遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40) H－9全景

元総社蒼海遺跡群(40) H－9竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－10全景（北から）

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－10遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－11遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－11全景（北から）

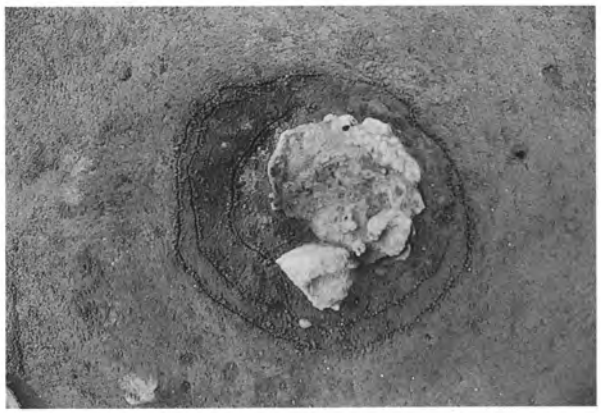
元総社蒼海遺跡群(40)H－13全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(40)H－13全景（南から）

元総社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構全景（南から）

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－13竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構棒状鉄製品出土状態



元総社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構・炉心全景

元総社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構・炉心土層堆積状況

元総社蒼海遺跡群(40)H－14全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－16全景

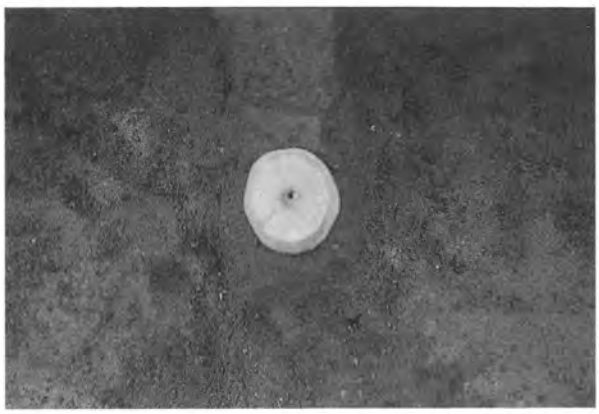
元総社蒼海遺跡群(40)H－16竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－17全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－18全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－18竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－19全景

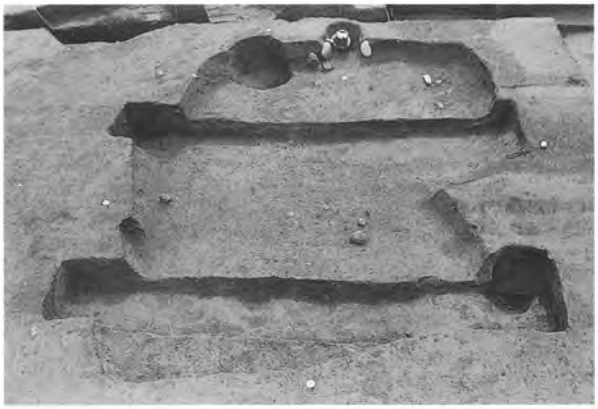


元総社蒼海遺跡群(40)H－19紡錘車出土状態

元総社蒼海遺跡群(40)H－20全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－20丸鞆出土状態

元総社蒼海遺跡群(40)H－20鉄鏃出土状態



元総社蒼海遺跡群(40)H－22・23全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－23竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－24全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－24竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－25・36全景

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－12・26全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－26竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－27全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－27全景（東から）

元総社蒼海遺跡群(40)Ｈ－27東竈全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－29全景（南から）

元総社蒼海遺跡群(40)H－31全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－33全景

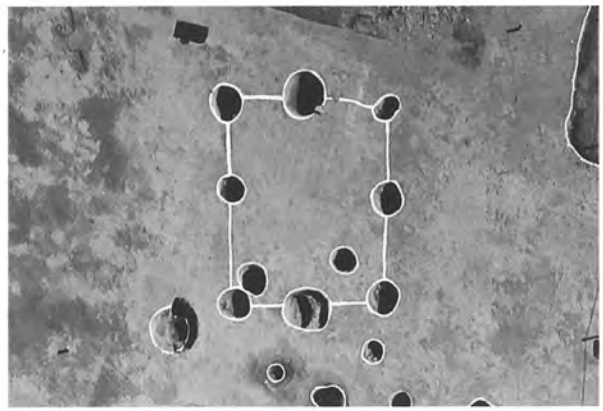
元総社蒼海遺跡群(40)H－34全景

元総社蒼海遺跡群(40)H－37全景

元総社蒼海遺跡群(40) H－38全景

元総社蒼海遺跡群(40) D－1全景

元総社蒼海遺跡群(40) D－2全景



元総社蒼海遺跡群(40) B－1全景

元総社蒼海遺跡群(46) H－1全景

元総社蒼海遺跡群(46) H－1竈全景

元総社蒼海遺跡群(46) I－1全景

元総社蒼海遺跡群(46) I－1土層堆積状況

元総社蒼海遺跡群(49)調査区全景（南から）

元総社蒼海遺跡群(49)Ｈ－１全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(49) D－２全景

元総社蒼海遺跡群(49) D－２遺物出土状態（南から）

元総社蒼海遺跡群(49) D－２遺物出土状態（西から）

元総社蒼海遺跡群(40) H－２竈全景

元総社蒼海遺跡群(49) H－２・３全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(49) I − 1 全景

元総社蒼海遺跡群(49) I − 2 全景

元総社蒼海遺跡群(49) H − 5 全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(49) H − 5 竈全景

元総社蒼海遺跡群(49) H − 5 竈土層堆積状況

元総社蒼海遺跡群(49) H－4竈土層堆積状況

元総社蒼海遺跡群(49) H－6竈土層堆積状況

元総社蒼海遺跡群(50)調査区全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(50)調査区全景（東から）

元総社蒼海遺跡群(50) J－1全景

元総社蒼海遺跡群(49) J－1土層堆積状況

元総社蒼海遺跡群(50)H－5・6全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(50)H－5竈全景

元総社蒼海遺跡群(50)H－5竈土層堆積状況

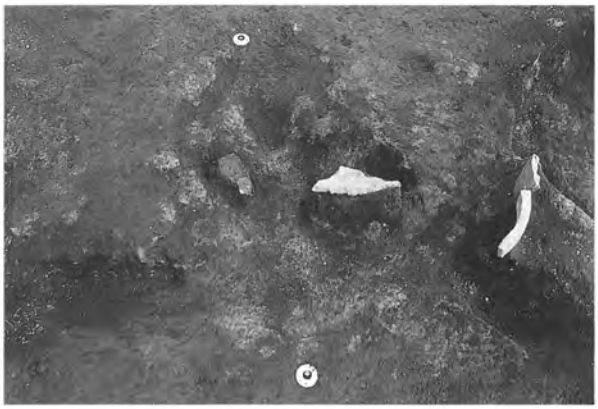
元総社蒼海遺跡群(50)H－12・D－1・2全景

元総社蒼海遺跡群(50)D－3全景

元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－７全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－９全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－９竈全景



元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－10竈全景

元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－11全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(50)Ｄ－５遺物出土状態

元総社蒼海遺跡群(50)Ｄ－５全景

元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－13全景

元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－13竈全景

元総社蒼海遺跡群(5)Ｈ－17竈全景

元総社蒼海遺跡群(50)Ｈ－17全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(50) H－14・15全景（西から）

元総社蒼海遺跡群(50) T－1全景（北東から）

1(J－1)

2(J－1)

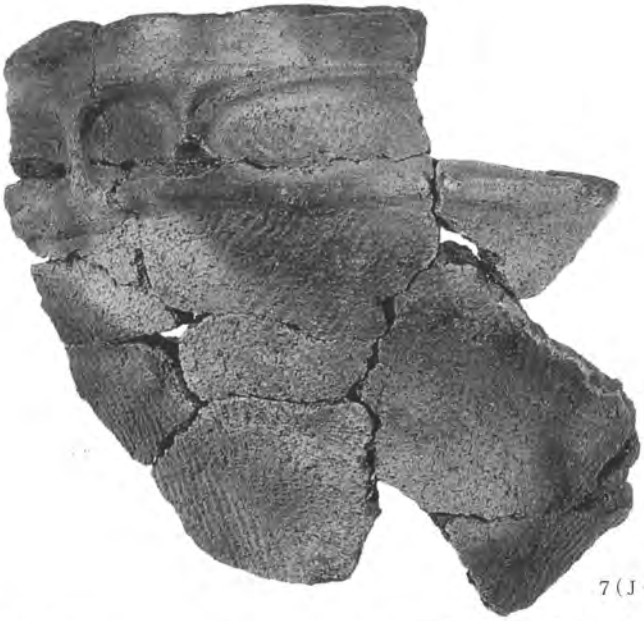
3(J－1)

4(J－1)

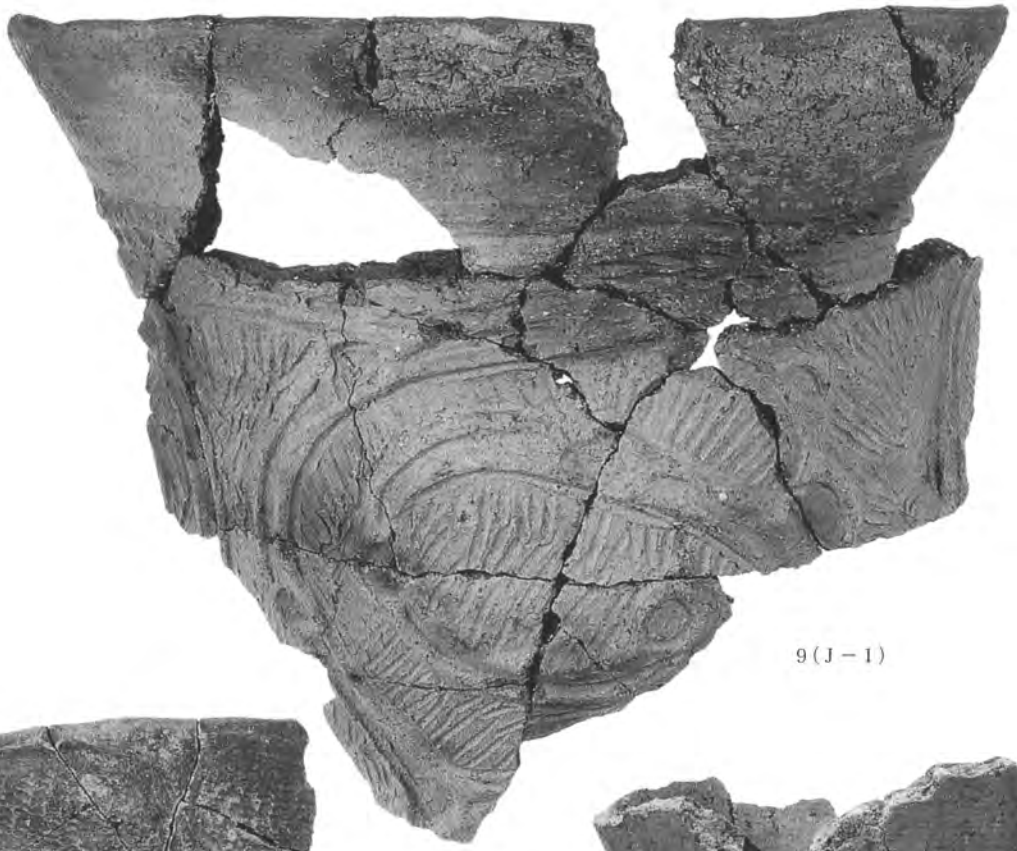
5(J－1)

元総社蒼海遺跡群(40)縄文時代出土遺物・土器(1)

6(J－1)



7(J－1)



9(J－1)

25(J－1)

39(J－1)

元総社蒼海遺跡群(40)縄文時代出土遺物・土器(2)

51(J－2)

53(J－3)

55(J－3)

54(J－3)

56(J－3)

83(埋甕1)

84(埋甕2)

元総社蒼海遺跡群(40)縄文時代出土遺物・土器(3)

85(J－1)

86(J－1)

87(J－1)

88(J－1)

89(J－1)

90(J－1)

91(J－2)

92(J－2)

93(J－2)

94(J－3)

95(J－3)

96(J－2)

97(H－9)

元総社蒼海遺跡群(40)縄文時代出土遺物・石器(1)

98(J－1)

99(J－2)

100(J－3)

101(J－3)

102(J－3)

103(J－3)

104(J－3)

105(H－23)

106(H－27)

107(H－33)

108(H－33)

112(H－27)

109(表採)

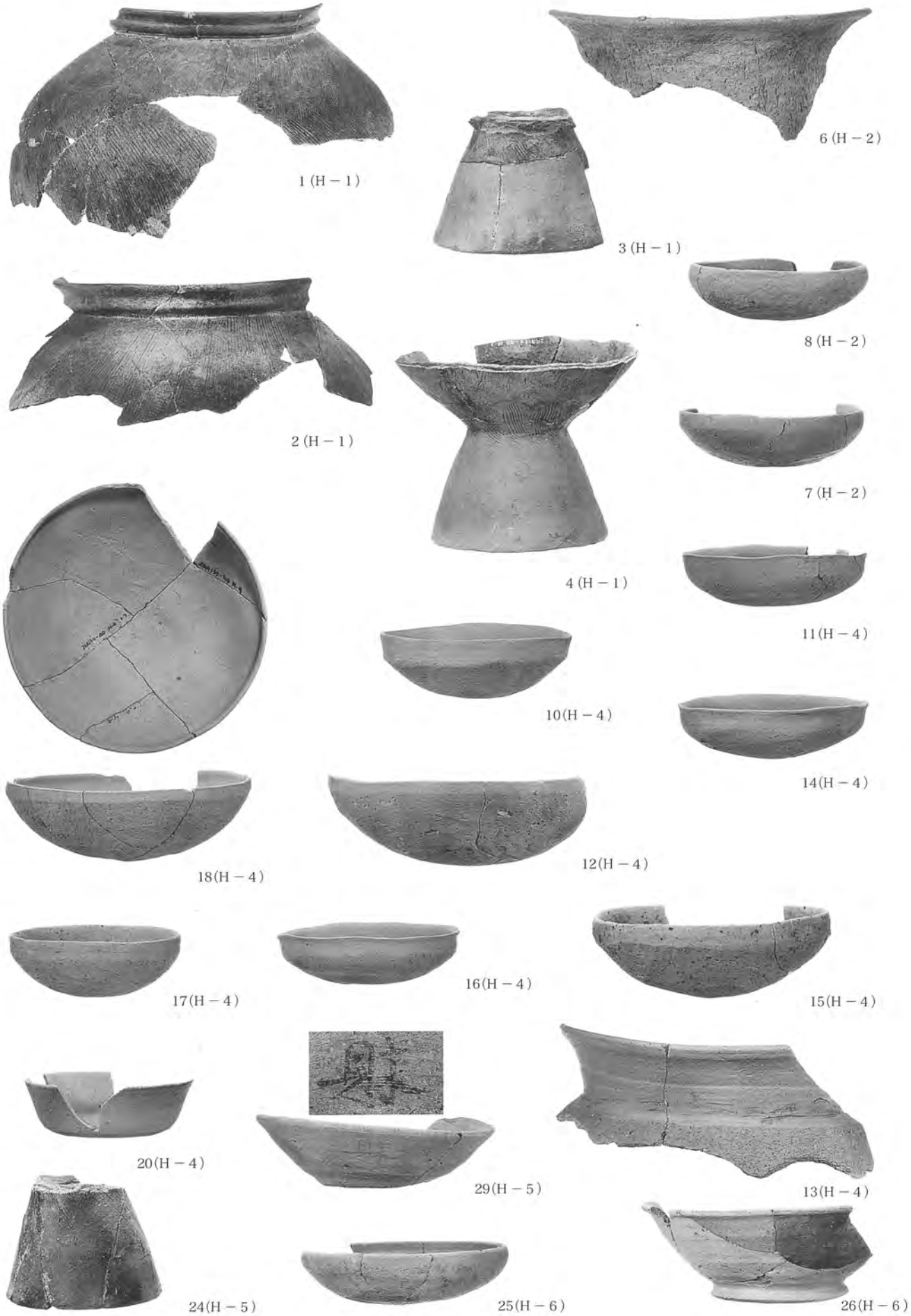
110(表採)

111(A－1)

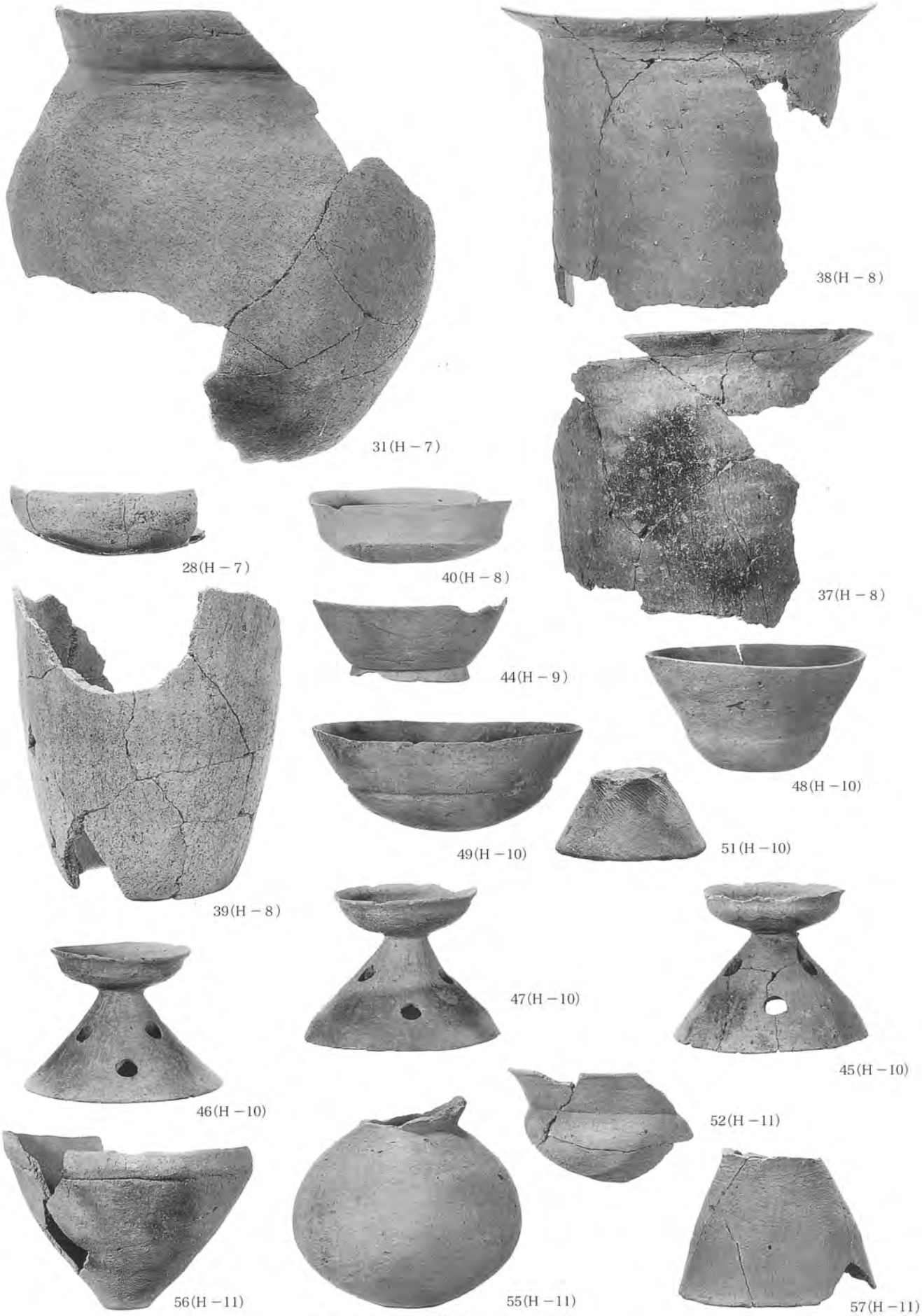
113(A－1)

114
(X42、Y141)

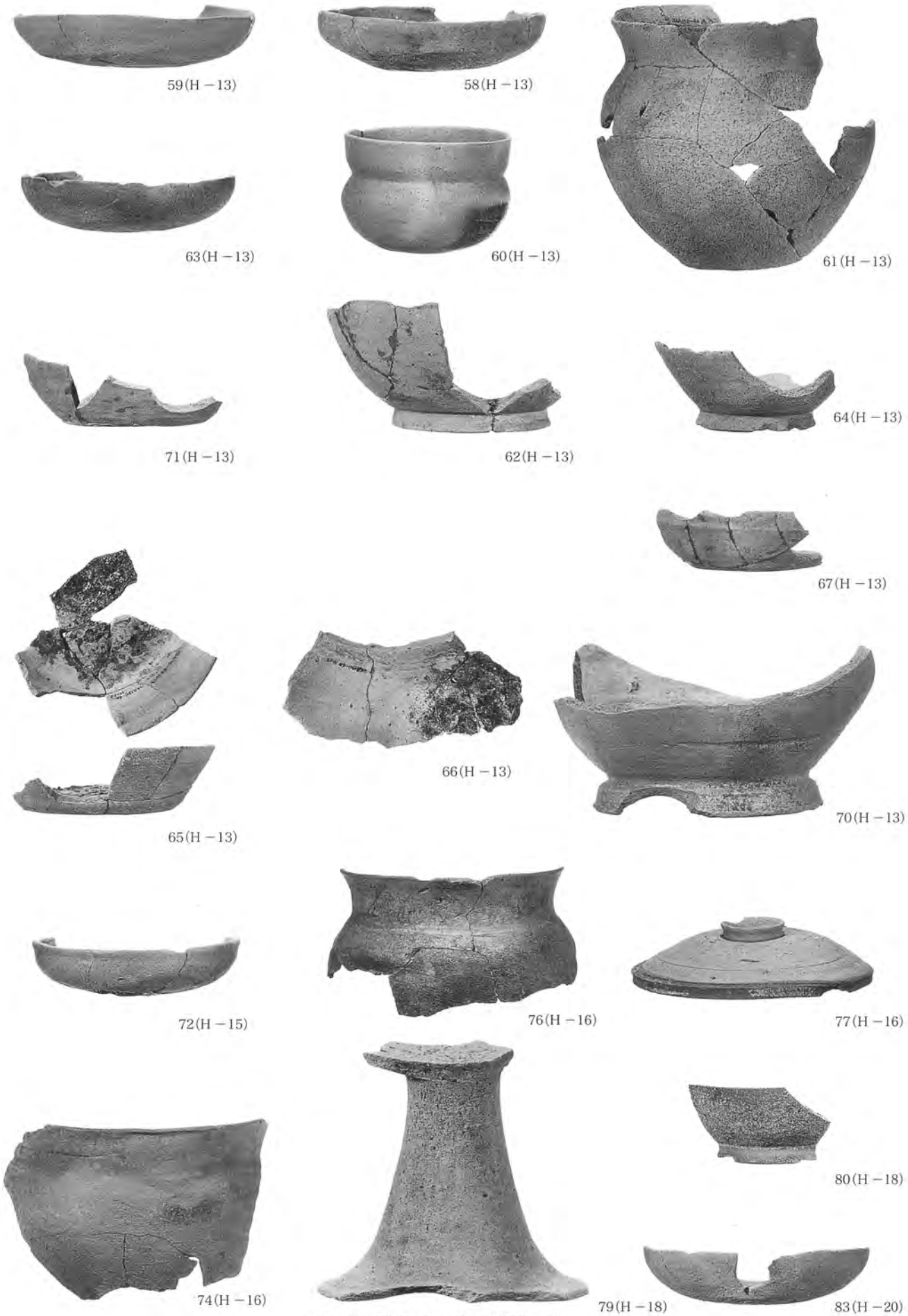
元総社蒼海遺跡群(40)縄文時代出土遺物・石器(2)



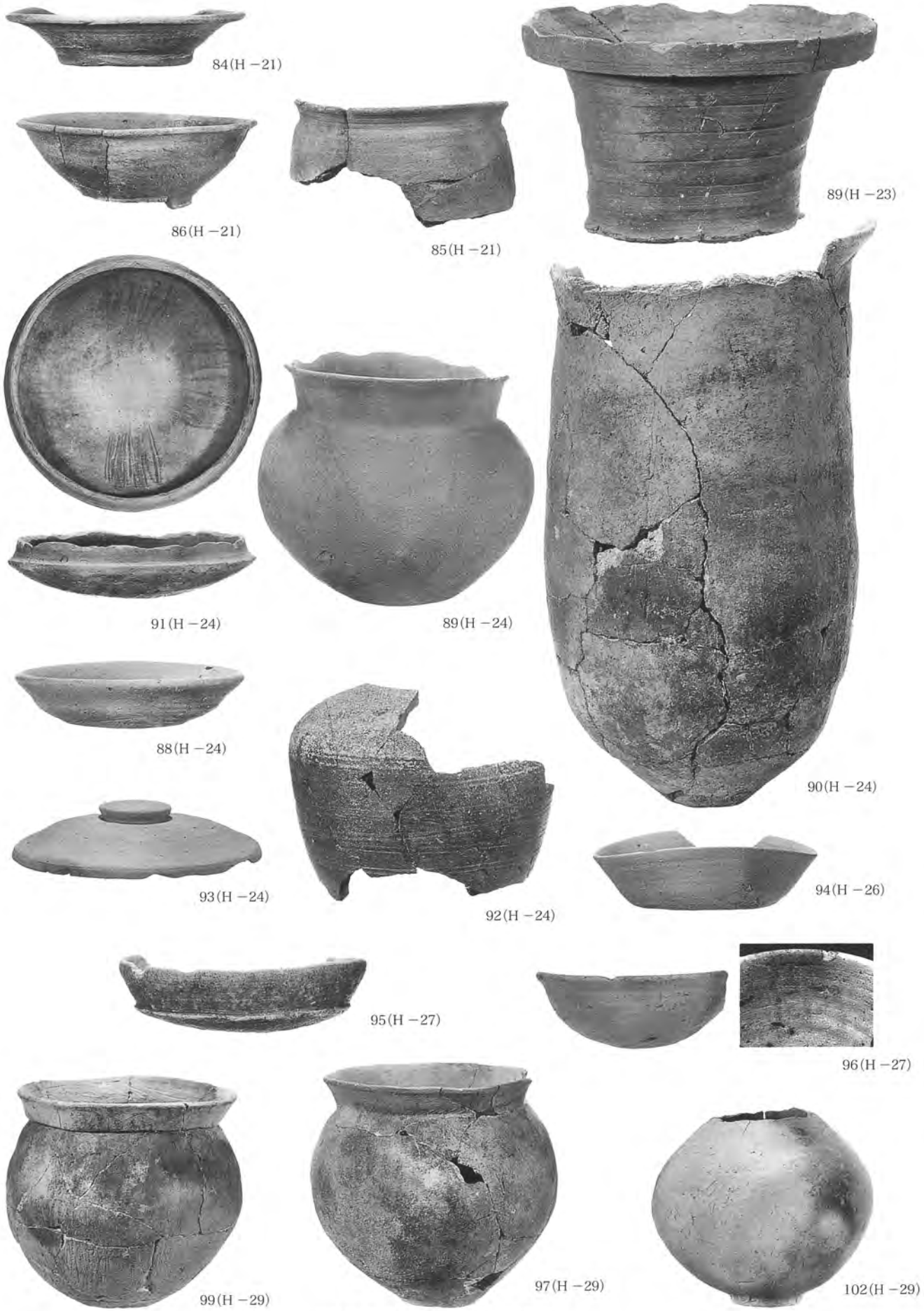
元総社蒼海遺跡群(40)出土遺物(1)



元総社蒼海遺跡群(40)出土遺物(2)



元総社蒼海遺跡群(40)出土遺物(3)



元総社蒼海遺跡群(40)出土遺物(4)

元総社蒼海遺跡群(40)

98(H－29)

101(H－29)

106(H－29)

104(H－29)

107(H－33)

109(H－36)

111(H－37)

112(H－37)

114(D－2)

元総社蒼海遺跡群(46)

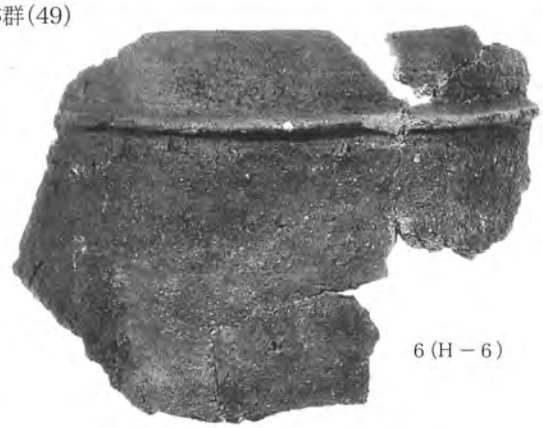
1(H－1)

元総社蒼海遺跡群(49)

1(H－6)

57(H－16)

5(H－6)



6(H－6)

2(H－6)

11(D－2)

3(H－6)

4(H－6)

8(H－10)

12(D－2)

元総社蒼海遺跡群(40)出土遺物(5)・元総社蒼海遺跡群(46)出土遺物・元総社蒼海遺跡群(49)出土遺物

10(D－2)

1(H－2)

2(H－3)

6(H－5)

3(H－5)

4(H－5)

7(H－5)

8(H－7)

10(H－8)

5(H－5)

12(H－9)

13(H－11)

19(H－13)

18(H－13)

17(H－13)

23(H－14)

22(H－14)

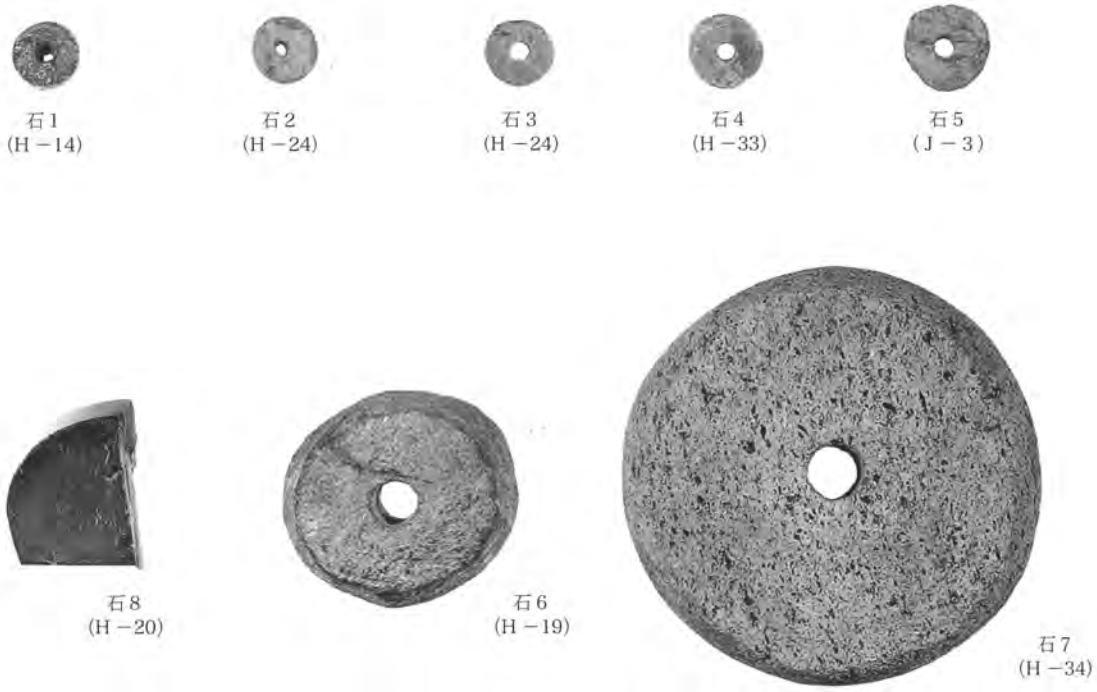
26(H－16)

24(H－15)

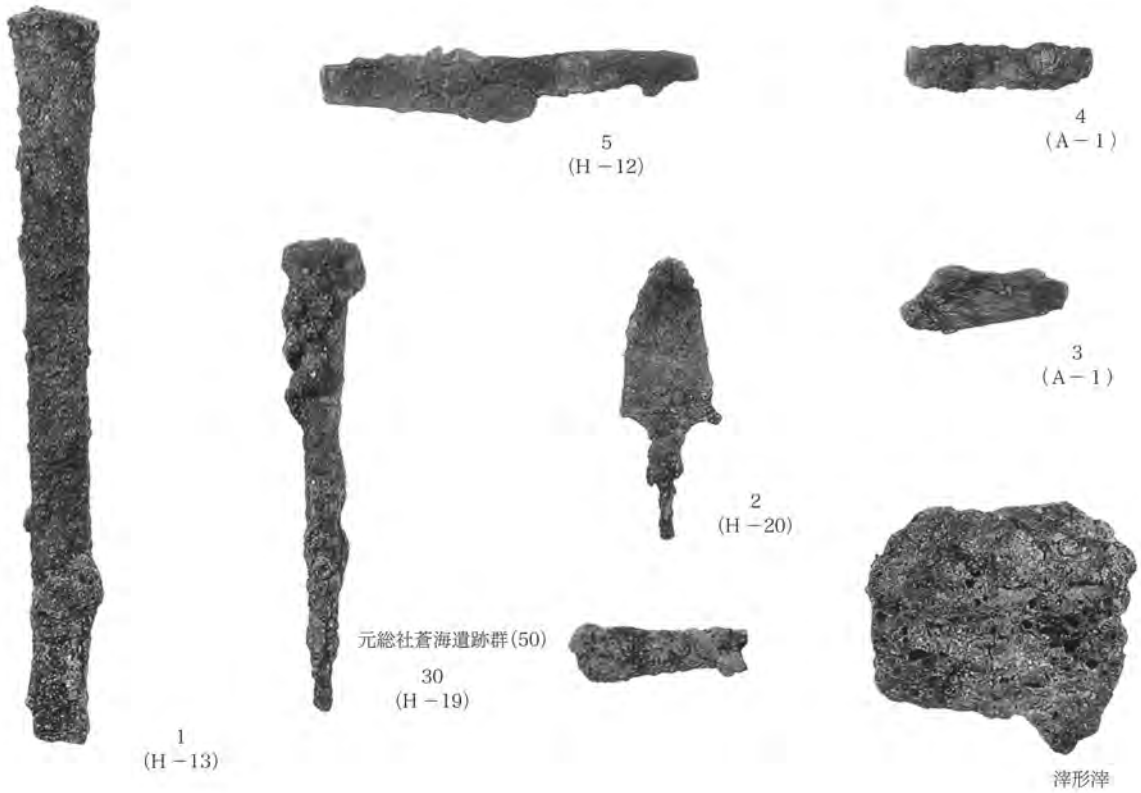
25(H－16)

27(H－19)

元総社蒼海遺跡群(50)出土遺物



元総社蒼海遺跡群(40)出土石製品



元総社蒼海遺跡群(40)・元総社蒼海遺跡群(50)出土鉄製品

瓦4表
(H－21)

瓦1表
(A－1)

瓦3表
(H－21)

瓦2表
(H－32)

元総社蒼海遺跡群(49)
13(H－8)表

元総社蒼海遺跡群(40)・元総社蒼海遺跡群(49)出土瓦(1)

瓦4裏
(H－21)

刻字

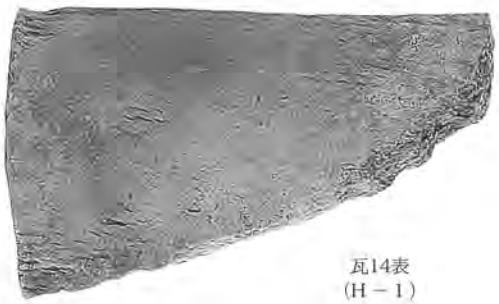
瓦1裏
(A－1)

瓦3裏
(H－21)

瓦2裏
(H－32)

元総社蒼海遺跡群(49)
13(H－8)裏

元総社蒼海遺跡群(40)・元総社蒼海遺跡群(49)出土瓦(2)



瓦14表
(H－1)

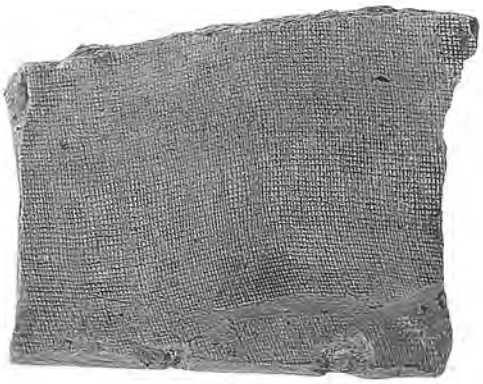
瓦18表
(H－1)

瓦19表
(H－1)

瓦5表
(H－1)

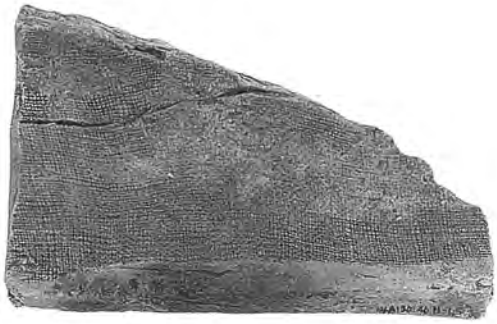
瓦4表
(H－1)

瓦22表
(H－1)



瓦7表
(H－1)

元総社蒼海遺跡群(46)出土瓦(1)

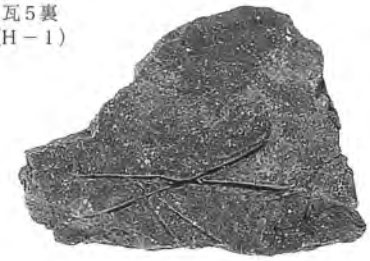


瓦14裏
(H－1)

瓦18裏
(H－1)

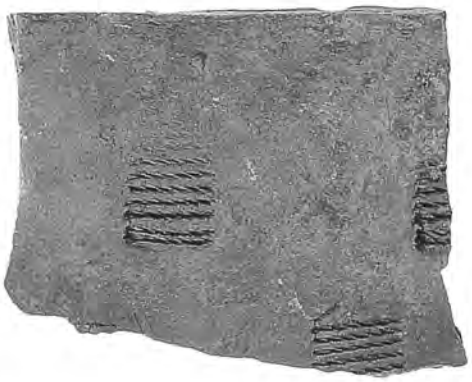
瓦19裏
(H－1)

瓦5裏
(H－1)



瓦4裏
(H－1)

瓦22裏
(H－1)



瓦7裏
(H－1)

元総社蒼海遺跡群(46)出土瓦(2)

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン（40）　モトソウジャオウミイセキグン（46） モトソウジャオウミイセキグン（49）　モトソウジャオウミイセキグン（50）
書名	元総社蒼海遺跡群（40）　元総社蒼海遺跡群（46）　元総社蒼海遺跡群（49）　元総社蒼海遺跡群（50）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤坂和延・細野泰宏
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2013年３月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（40）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町1509 他	10201	23Ａ130-40	36°23′19″	139°01′48″	20120510 ～ 20113221	1,280㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（46）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町1702-1 他		23Ａ130-46	36°23′24″	139°01′50″		30㎡	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（49）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町1393-3 他		23Ａ130-49	36°23′09″	139°02′04″		160㎡	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（50）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町1445-11 他		23Ａ130-50	36°23′13″	139°01′51″		290㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（40）	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡４軒、土坑２基、埋甕２基	縄文土器、石器	
		古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡39軒、鍛冶遺構１基、土坑２基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	丸鞆出土
		中世以降	井戸１基	土師器、須恵器、瓦	
元総社蒼海遺跡群（46）	集落跡	平安時代	竪穴住居跡１軒	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世以降	井戸１基		
元総社蒼海遺跡群（49）	集落跡	平安時代	竪穴住居跡６軒	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世以降	井戸２基、土坑３基		
元総社蒼海遺跡群（50）	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡１軒	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡18軒、土坑７基 竪穴状遺構１基		

元総社蒼海遺跡群（40）
元総社蒼海遺跡群（46）
元総社蒼海遺跡群（49）
元総社蒼海遺跡群（50）

2013年３月28日　印刷
2013年３月30日　発行

発行・編集　前橋市教育委員会
前橋市三俣町二丁目10－２
印　　刷　朝日印刷工業株式会社